

生きる力を育む芸術・デザイン 思考による創造性開発拠点の形成

平成25年度～平成29年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
研 究 成 果 報 告 書 概 要

平成30年5月

学校法人名／学校法人東北芸術工科大学

大 学 名／東北芸術工科大学

研究組織名／創造性開発研究センター

研究代表者／片上義則

(東北芸術工科大学 副学長・創造性開発研究センター 教授)

本編

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

平成25年度～平成29年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究成果報告書概要

- 1 学校法人名 学校法人東北芸術工科大学 2 大学名 東北芸術工科大学
- 3 研究組織名 創造性開発研究センター
- 4 プロジェクト所在地 〒990-9530 山形市上桜田 3-4-5
- 5 研究プロジェクト名 生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
片上義則	デザイン工学部／ 創造性開発研究センター	副学長／センター長

- 8 プロジェクト参加研究者数 36 名

- 9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

【学内】

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
片上義則	副学長／センター長	多重知能理論によるデザイン思考の研究	全体統括/[デザイン思考担当]/(理論 G)
木原正徳	芸術学部長・教授	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/ 学校教育 WG
三橋幸次	デザイン工学部・教授	多重知能理論によるデザイン思考の研究	統括 PJ/[デザイン思考担当]/(理論 G)
柚木泰彦	デザイン工学部・教授	多重知能理論によるデザイン思考の研究	統括 PJ/[デザイン思考担当]/(理論 G)
古藤浩	基盤教育センター・教授	多重知能理論によるデザイン思考の研究	統括 PJ/論理 WG
渡部泰山	教職課程・教授	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/学校教育 WG
遠藤節子	大学事務局次長／ こども芸術大学認定こども園・園長	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[こども芸術大学 連携担当]/(理論 G)
有賀三夏	創造性開発研究センター研究員・ 講師	多重知能理論による芸術思考の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/ (理論 G)
澤口俊輔	デザイン工学部・教授	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/ 学校教育 WG
青山ひろゆき	芸術学部・准教授	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/ 学校教育 WG
深井聡一郎	芸術学部・准教授	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/ 学校教育 WG
吉賀伸	芸術学部・准教授	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/ 学校教育 WG
柳田哲雄	芸術学部・講師	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/ 学校教育 WG
早野由美恵	デザイン工学部・准教授	多重知能理論によるデザイン思考の研究	統括 PJ/[デザイン思考担当]/(理論 G)

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

渡部桂	デザイン工学部・准教授	多重知能理論によるデザイン思考の研究	統括 PJ/[デザイン思考担当]/(理論 G)
齋藤祥子	こども芸術大学認定こども園・教頭	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/学校教育 WG
矢作鹿乃子	こども芸術大学認定こども園・幼児教育士	多重知能理論による創造性の研究	統括 PJ/[芸術思考担当]/学校教育 WG

【学外】

浅井由剛	株式会社カラーコード・代表取締役	言語的知能領域からの創造性の開発	社会 WG
遠藤正俊	山形市立第六中学校・教諭	学校教育との連携協力者	学校教育との連携
上條雅雄	オフィス観音崎・代表	創造性開発における領域統合の理論	統括 PJ (理論 G)
栗山健	学研教育総合研究所・所長	創造性開発における領域統合の理論/論理・数学的知能領域からの創造性の開発	統括 PJ (理論 G) / 論理 WG/論理 WG
阪井和男	明治大学法学部・教授	創造性開発における領域統合の理論/創造性開発における分析方法の研究/論理・数学的知能領域からの創造性の開発	統括 PJ (理論 G・分析 G) / 論理 WG
庄司博幸	株式会社サードステージエデュケーション・代表取締役	言語的知能領域からの創造性の開発	社会 WG
須田一成	長井市立長井南中学校・教諭	学校教育との連携協力者	学校教育との連携
坪田康	京都工芸繊維大学・准教授	言語的知能領域からの創造性の開発	言語 WG
寺尾敦	青山学院大学大学社会情報学部・准教授	創造性開発における分析方法の研究/論理・数学的知能領域からの創造性の開発	統括 PJ (分析 G) / 論理 WG
戸田博人	株式会社富士通ラーニングメディア・エグゼクティブマネジメントスペシャリスト	創造性開発における分析方法の研究	統括 PJ (分析 G)
内藤隆	株式会社シーエスアップ・表取締役	創造性開発における分析方法の研究/身体的知能領域からの創造性の開発	統括 PJ (分析 G) / 身体 WG
中込敏寛	株式会社日本スウェーデン福祉研究所・代表取締役	身体的知能領域からの創造性の開発	身体 WG
永谷研一	株式会社ネットマン・代表取締役社長	言語的知能領域からの創造性の開発	社会 WG
原田康也	早稲田大学法学学術院・教授/日本英語教育学会・会長	言語的知能領域からの創造性の開発	言語 WG
張崎正裕	学校法人東谷学園 天童東幼稚園・副園長	学校教育との連携協力者	学校教育との連携
本間真	株式会社ディスコ事業開発部・次長	創造性開発における分析方法の研究	統括 PJ (分析 G)
森憲一	株式会社サードステージカンパニー・代表取締役	空間的知能領域からの創造性の開発/社会的知能領域からの創造性の開発	空間 WG/社会 WG
山本康治	東海大学短期大学部児童教育学科・教授	言語的知能領域からの創造性の開発	言語 WG
渡邊斉	中山町立長崎小学校・校長	学校教育との連携協力者	学校教育との連携

＜研究者の変更状況（研究代表者を含む）＞

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
多重知能理論による創造性の研究	デザイン工学部・准教授	西澤高男	統括 PJ/空間 WG

(変更の時期：平成 26 年 3 月 31 日)

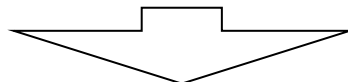
プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
多重知能理論による創造性の研究	教養教育センター・教授	池田正	統括 PJ/ [芸術思考担当] / 学校教育 WG

(変更の時期：平成 27 年 3 月 31 日)

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
多重知能理論による創造性の研究	教養教育センター・教授／創造性開発研究センター・副センター長	片桐隆嗣	全体統括／〔芸術思考担当〕／社会 WG

(変更の時期：平成 27 年 6 月 28 日)



新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
デザイン工学部・准教授	デザイン工学部・准教授／創造性開発研究センター研究員	早野由美恵	統括 PJ／〔デザイン思考担当〕／(理論 G)
芸術学部・講師	芸術学部・講師／創造性開発研究センター研究員	柳田哲雄	統括 PJ／〔芸術思考担当〕／学校教育 WG
株式会社カラーコード・代表取締役	株式会社カラーコード・代表取締役	浅井由剛	空間 WG/社会 WG
教職課程・教授	教職課程・教授	渡部泰山	統括 PJ/学校教育 WG

1 1 研究の概要（※ 項目全体を 10 枚以内で作成）

（1）研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究の目的は、小中高生を対象として「生きる力」を育むための「芸術思考」および「デザイン思考」にもとづく教育方法を総合的に研究し確立することである。方法論として注目したのはワークショップ（以下「WS」）であり、その活用の方角づけに芸術思考とデザイン思考を採用した。芸術思考とは、実現すべき理想的なビジョンを生み出す創発的な思考であり、デザイン思考とは、他者と協働して創造的に問題解決を行うための思考である。これによって、芸術大学ならではの「生きる力」を育む教育方法論を確立する。そのために、WS の効果測定方法と知性の可視化方法、芸術思考、芸術思考とデザイン思考の統合を目指している。

初年度は、芸術的環境で幼児の感性を養う実践研究「こども芸術大学プロジェクト」の成果と課題を整理し、基本的柱となる芸術・デザイン思考の理論化と創造性開発拠点（やまがた芸術学舎）の形成に努める。同時に、芸術・デザイン思考にもとづく身体・社会（対人、内省）・空間知能の 3 プログラムの開発に着手する。2 年次には、論理数学・言語知能の 2 プログラムの開発に着手する。3 年次は、先行した 3 プログラムである身体・社会・空間知能を統合するプログラムの開発に着手し、各プログラムの実践・検証とともに中間報告を行う。4～5 年次は、身体・社会・空間・論理数学・言語の 5 領域を統合するプログラム開発を行い、開発したプログラムの学校教育への展開を図る。最終年度は、研究の持続と改良を行いつつ、次世代に向けて創造性開発研究モデルを構想し、公開シンポジウムの開催、最終総括研究会を実施する。

（2）研究組織

創造性開発研究センター（センター長・片上義則）を設置した。ここに、学内研究者 17 名、学外研究者 19 名、研究協力者 3 名を組織し、理論化を進めるグループと分析担当グループを配置し、多重知能に対応する 5 つの WG（身体 WG、空間 WG、社会 WG、言語 WG、論理 WG）を組織し、さらに学校教育グループと外部評価グループを配置した。

（3）研究施設・設備等

やまがた芸術学舎（山形市）

（4）研究成果の概要 ※下記、13 及び 14 に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

研究成果について、①研究拠点の整備、②理論の構築、③WS 実施、④分析の 4 つに分けて報告する。

① **研究拠点の整備**については、平成 25 年度にやまがた芸術学舎を整備した。整備当初、利用者数をと想定していたが、現在までの利用人数は延べ 5,000 人以上を超えている。

② **理論構築**の進捗状況については、申請準備段階の 2012 年から芸術的思考のアイデアを検討、それを芸術思考と名づけてはじめて提案されたのは 2012 年 7 月 28 日に岡山大学で開催された第 71 回次世代大学

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

教育研究会（学会発表*390-392）であった。2012 年 10 月 6 日明治大学で開催された情報コミュニケーション学会第 10 回研究会にて発表し（論文*106, 107、学会発表*388, 389）、同発表は第 10 回研究会優秀発表賞（受賞*422）を受賞するなど成果を上げてきた。東北芸術工科大学を芸術思考の研究拠点とすべく、第 79 回次世代大学教育研究会（学会発表*378-387）を 2013 年 2 月 1 日「芸術思考シンポジウム in 山形」として開催したのを契機に、電子情報通信学会思考と言語研究会（論文*105、学会発表*377）、情報コミュニケーション学会（論文*102, 106）、次世代大学教育研究会（学会発表*358）と、先行研究を進めてきた。

その後、2013 年 7 月の平成 25 年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を受けたのち、創造性開発研究センター主催の学内外共同研究者対象キックオフ研究会（東北芸術工科大学、2013 年 10 月 4 日）を皮切りに、次の学会・研究会、(1) 創造性開発研究センターシンポジウム「小中高生の生きる力を育む芸術思考の可能性（東北で挑戦する、創造性開発）」（東北芸術工科大学、2013 年 12 月 15 日）（学会発表*349）、(2) 第 91 回次世代大学教育研究会（東北芸術工科大学、2014 年 2 月 1 日）（学会発表*343, 412）、(3) 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会（東北芸術工科大学、2014 年 11 月 8 日）（論文*80-82、学会発表*312-314）、(4) 第 108 回次世代大学教育研究会（博多、2015 年 8 月 22 日）（学会発表*288）、(5) 第 109 回次世代大学教育研究会（長崎、2015 年 9 月 12 日）（学会発表*286）、(6) 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会（東北芸術工科大学、2015 年 2 月 28 日）（論文*74-78, 394-400、学会発表*296-300, 403-409、受賞*418, 419）、(7) 電子情報通信学会思考と言語研究会「芸術思考・デザイン思考、及び思考と言語一般」をテーマとした研究発表（論文*56、学会発表*272）とパネルディスカッション「オーガナイズドセッション：芸術思考とデザイン思考」（明治大学、2016 年 1 月 30 日）（論文*55、学会発表*273）、(8) 情報コミュニケーション学会第 13 回全国大会（東北芸術工科大学、2016 年 2 月 28 日）（論文*53、学会発表*270）、(9) 第 115 回次世代大学教育研究会（東北芸術工科大学、2016 年 3 月 24 日）（学会発表*253-261）、(10)MIIM2016 国際シンポ「多重知能理論の展開と深化」（明治大学駿河台キャンパス リバティタワー、2016 年 7 月 16 日）（学会発表*239-240、講演*609-611）、(11) 明治大学サービス創新研究所芸術思考研究会（明治大学駿河台キャンパス、2017 年 11 月 4 日）（学会発表*172）——などを主催・共催した。

以上のように、理論の進捗状況については、顕著な進展が見られており、当初の想定を超える成果と理論的応用への展開が得られている。

③ **WS 実施**は、2013 年 9 月から 2018 年 3 月まで実施分を集計すると、美術・デザインによる 39 のプログラムが開発され、65 回以上の実施、延べ約 1,500 名の参加を得た。実施はセンターとともに小中学校など協力機関でも行われ、「生きる力」を育む WS プログラム開発の充実・向上を幅広い視点で図るための連携が進められ、分析結果をもとに WS 内容の改善と進展を図り、継続的な企画・運営体制が整えられた。

④ **分析**における第 1 の成果は、行動観察による WS の形成的評価方法（論文*90、学会発表*313, 319）を提案したことである。講師と参加者の行動観察によって 9 回の WS（別添資料「2014 夏のワークショップ祭」を参照）を分析した結果、博物的・言語的・身体運動的・空間的知能の 4 つは十分に活性化され、残りの論理数学的・音楽的・内省的・対人的知能の 4 つの活性化が低いという特徴が見出された。内省的・対人的知能を強めるには、個別ワークから脱却し参加者間で学びあう WS をデザインすることが提案され、その戦略として e ラーニング支援体制構築を応用する有効性、エクスターンシップにおける若年層人材戦略の構築への効果が指摘された。

第 2 は、多重知能の主観的推定にもとづく WS 特性の平面配置による可視化（学会発表*312）である。これは、WS 担当者と見学者による多重知能の主観評価アンケートをもとに主成分分析し平面上に配置することで、獲得知能の可能性を整理できる可能性を示した。

第 3 は、多重知能の行動観察にもとづく WS 特性のレーダーチャートによる可視化（論文*105、学会発表*377）である。8 回の WS の行動観察メモをもとに多重知能を定量化したレーダーチャートを作成し、WS の多重知能的な特性を可視化することによって、改善の方向としてインストラクショナル・デザインの導入による WS 開発を提案した。加えて、感情アンケートによる定性評価によってすべての WS が高い評価を得ていたことが判明した。

第 4 は、WS 参加者への多重知能アンケートにもとづく自己の成長感の推定と感情評価（論文*75）を行ったことである。これは、WS 参加者への多重知能アンケートを実施し、自己の成長感（主観的な知能の向上）を明らかにしたものである。特に、博物的知能または論理数学・音楽的知能の向上が見られたが、必ずしも WS 設計者の意図と合致しているわけではなかった。さらに、終了時の自己の成長感と正の相関をもつことが示された。

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

そして、第5に、多重知能アンケートとともに主要5因子性格検査のアンケートも同時に取り準備ができたため、対象とする数はまだ少ないものの両者の相関をみることができるようになったことから、新しい仮説を生成できる可能性（センター勉強会*682）が示されている。

＜優れた成果が上がった点＞

本研究が目指してきた、子どもたちの創造性開発には、本来子どもたちがもつ強みに着目することが欠かせない。そこで、本研究ではMI理論にもとづいてそれぞれの子どもたちの強みから創造性開発ができるように個別の能力から入れるWSプログラムを開発してきた。それらのWSプログラムによって、小学校はもちろん、そこから中学校・高等学校対象のWSへと発展させる取り組みも行われ、8つの知能開発の方法論に関する知見を深めてきた。上記を可能にしてきたのが、感情や集中度、パーソナリティ特性を客観的なデータとして扱うWS分析・評価方法の構築である。

・継続的なWSプログラムの企画と運営

美術・デザインによる39のプログラムが開発され65回以上実施、延べ約1,500名の参加を得た。

・芸術思考の研究と応用

芸術思考の研究に対して、情報コミュニケーション学会から第10回研究会優秀発表賞(2012)（受賞*422）、および同第12回全国大会研究奨励賞(2015)（受賞*418, 419）が授与された。最近では、新規事業開発を解釈する優れた方法になりうること（論文*57, 67, 76、図書*124、学会発表*293, 298, 306、受賞*418、メディア（記事・放送等）*515, 516）が示されている。開発されたワークショップは山形県内の小学校（山形市立第一小学校、山形市立鈴川小学校、鶴岡市立朝陽第二小学校）と連携し、授業内で実施した。また、村山地区小学校図画工作研究部（2017年6月21日及び8月2日）においてワークショップの体験レクチャーを実施し、広く教育現場への普及を図った。

・デザイン思考の研究と応用

2016年度に新設予定の東桜学館中学校・高等学校から本センターへの依頼（2015年6月）を受け、6年間にわたる総合的な学習の時間「未来創造プロジェクト」カリキュラムへのデザイン思考の適用を目的としたカリキュラム検討会議がデザイン思考分科会によって始められた。連携に先だって、2015年11月26日、東北芸術工科大学と山形県教育委員会との間で教育連携協力協定が結ばれた。メディア（記事・放送等）*514（そして、2016年4月末までに9回実施した検討会議を経て、2016年度に3回、2017年度に4回のデザイン思考に関わる授業を実施した。東桜学館との連携は、学習指導要領で求められる探究型学習にデザイン思考を適用した良い実践例となった。今後、東桜学館をモデル校とし、その成果を山形県内の各高等学校に展開する予定である。

・多重知能理論を用いた創造性評価方法の開発

大学の正課外教育の活動として実践され始めたエクスターンシップにおけるアンケート分析から、事前・事後の回答の変化に焦点を当てた多重知能理論に基づく分析が有効であることを示し、この変化を説明する場のモデルを提案し、場のパラメーターを推定した。またそのパラメーターの妥当性についても明らかにした。活用可能な実践が増え、他領域からのデータ収集が可能となり比較分析の幅が広がった。（論文*9, 10, 11、学会発表*165, 166, 171, 172, 181, 182, 272, 286, 288）

＜課題となった点＞

・研究体制におけるプロジェクト役割の見直し

当初、多重知能から5つを取り上げてそれぞれに特化したWSを段階的に設計・実施するという演繹的アプローチによって計画案を策定した。ところが、デザイン工学部と芸術学部の学部が設置されていることを反映し、デザイン思考分科会と芸術思考分科会の2つが先行設置された。このため、2分科会が分離したまま個別に実施可能なWSを計画・運営する結果となった。しかし、2分科会の分離発足は逆に各分科会のスモールスタートを容易にしたため、3年間で41回のプログラムの実施という成果を得たといえる。

そこで本センターでは、当初に発想した多重知能にもとづくプロジェクト役割にこだわらず、2分科会にもとづいたプロジェクト役割に変更した。このことは、多重知能を全体として包括的に育むという意味で合理性がある。なぜなら、芸術という行為そのものが多くの多重知能を同時に活性化させるからである。さらに、本プロジェクトのキーワードの一つである「生きる力」が、多重知能理論の立場からいうと包括的であることから自然なアプローチともいえよう。

中間報告の時期に残された問題は2分科会の協調・連携であった。しかし、2分科会が車の両輪のよう

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

に相互に協調しながら活動する機会が得られた。東北芸術工科大学において 2016 年 3 月 24 日開催の第 115 回次世代大学教育研究会（学会発表*253-261）である。この後、各分科会に属する内部研究員が外部研究員とともに公開研究会を開いて議論を行った。これによって、WS 担当者たちとの分科会を超えた振り返りがなされ、協調的な活動へと発展した。

・教授設計 (Instructional Design: ID) 導入の指摘への対応

当初から計画されていた WS 設計の導入が後追いになっており、このことが分析結果からも、ID 設計を入れる必要があると指摘されている（論文*80、学会発表*313）。これに対応するため、2016 年から授業担当者による多重知能の活性化の事前・事後アンケートを実施し、WS 設計の狙いが多重知能的にどうなされ、どんな結果なのかという設計者による主観評価「多重知能分析シート」を導入した。これにより、判明した WS 設計者の意図を、参加者への多重知能アンケートと比較することにより、WS 設計者にとっての経験学習サイクルを回すことを期待した。しかし、WS における多重知能分析シートを用いた事後評価はうまく機能できたが、現場の先生たちが多重知能分析シートの観点をうまく教授設計に活用できるようにするところまでは踏みこめなかった。

・芸術による多重知能の開発の方法論の確立

実際、MI 理論における 8 つの個々の知能開発を実現することはいくつかの実践例で見られたが、それを統合し、8 つのすべての知能開発をするまでには至っていない。今後、芸術の力により、8 つの知能を引き出す WS の開発が求められる。そのためには、個々の WS のプログラムにおける、個々の知能開発の活動の本質部分を抽出しながら、WS の一連のプログラムに、子どもの発達段階に応じた活動をシームレスに差し込むなどの必要がある。上記シームレスの活動の構築に関連するが、本研究で進めてきた WS の定量的分析と質的分析を合わせた、総合的分析も求められる。子どものパーソナル特性と個々の知能の相関、さらには WS の事前事後の変化を定量的に見つつ、それが子どもの行動観察から得た知見とどう関連付けられるのか、その理論構築が鍵となりそうである。

<自己評価の実施結果と対応状況>

■研究拠点の整備（100%）

採択時に計画していた研究拠点の整備は、やまがた藝術学舎の改修工事である。

これは、本学が平成 22 年度に購入した旧山形県知事公舎・公館（『やまがた藝術学舎』）を中心として行われる。（施設の規模は以下のとおり。）

- ・敷地面積： 2,942.59 m²
- ・やまがた藝術学舎 A 棟（旧公館）： 延べ床面積＝357.43 m²
- ・やまがた藝術学舎 B 棟（旧公舎）： 延べ床面積＝273.33 m²

この度の計画では、本研究テーマ『芸術・デザイン思考による創造性開発に関する総合的研究』の実施にあたり、これまで住居仕様として利用頻度が高くなかった学舎 B 棟（旧公舎）部分を中心に改修工事を行い、建物全体を芸術的造形教育とデザイン教育のプログラム及び研究を効果的に実践できる場として整備するものである。

このことについては、完全に実施できた。

■理論の進捗状況（100%）

理論における達成度は顕著な進展が見られており、当初の想定を超える成果と理論的应用への展開が得られているため、100%の達成度と推定される。

■WS 実施状況（90%）

本センターのもとで WS を継続実施できたことは、デザイン工学部、芸術学部、および、こども芸術大学の 3 つが学部や大学の枠を超えた活動によって、大学における教育研究のありかたにも新しい刺激となりえる。さらに、学内にとどまらず山形県内外の教育機関において WS が実施できていることは、創造性開発研究センターの活動とその意義が広く認知されることにつながっている。中間報告後の（1）山形市立第一小学校、（2）鶴岡市立朝陽第二小学校——での出張 WS により、WS 実施の達成度は、90%を達成していると推定される。

■分析の実施状況（80%）

本プロジェクトによる多重知能の開発度合いの評価について、SUN 感情測定スケール、行動観察を用いた多重知能理論にもとづく芸術系ワークショップの評価など、形成的評価の方法論を確立した。また、特

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

定因子による多重知能の開発予測ができる数理モデルを作るなど、進展が見られた。このことで、WS の事前事後の短期的な感情の変化、事前事後の多重知能の変化の各データを系統的に取得し分析することができる可能性が広がった。しかし、それを一体化するところまでにはいきついていない。

＜外部（第三者）評価の実施結果と対応状況＞

中間報告の際、学識研究者の外部評価を長南博昭氏（元山形県教育委員会委員長）、渡部泰山氏（山形大学大学院教育実践研究科教授）から頂き、当時の指摘事項によって、その後の研究に大きく影響したことは、「単に学術的価値にとどまることなく、学校教育の現場と密接に接続しつつ、広く一般市民、社会全般にも周知、還元されていく手立て、研究の質と方向性」を確保できるように研究体制を見直すことである。実際、中間報告の上記指摘は、探究的学習における県教育行政と東北芸術工科大学との連携の深化に繋がった。

最終の評価は長南博昭氏と勝見栄一朗氏（元山形県立山形東高等学校校長、元山形工科短期大学校長）より頂き、主な評価と課題は以下のとおりである。

【評価点】

- ・「生きる力」を、東北が大震災から復興を成し遂げていくイメージに重ね、当大学が開学以来掲げてきた「創造力」に結びつけた点
- ・子どもたちの資質・能力の育成にMIを活用し、子どもたちの多様な姿を具体化した点
- ・この研究において開発された数多くのWSがMIとの関連で意義付けされている点

【今後の課題】

- ・WSのその先にある、小中高の探究型学習への具体的貢献
- ・改訂学習指導要領と芸術思考との相関

＜研究期間終了後の展望＞

この5年間で、MI理論の8つの知能に着目したWS実践とともに、デザイン思考に着目した実践、さらには総合的な学習の時間、探究型学習における授業実践も見られた。2018年1月には、これまでのデザイン思考に関わる教育連携活動で蓄積してきた内容を再構成し、埼玉県立芸術総合高等学校において、美術科高1生向け研究授業および埼玉県高等学校美術・工芸教育研究会を行った。その際、参加教員より美術授業へのデザイン思考の活用が、今後の生徒らの生き方にまで影響する内容であること、美術が教育全体に貢献していく道のひとつと可能性を持つことなど高い評価をいただいた。上記活動が反響を呼び、中高の教科書出版社より取材依頼があり、2018年4月、デザイン思考に関する内容の掲載実現に向けて、本学において意見交換を行った。2018年3月に高等学校向けの新学習指導要領が公布され、移行期間を挟んで2022年度より新指導要領準拠の教科書を用いた授業がスタートするが、2022年度版「高校美術1」の中にこれまでの取り組みが紹介される可能性もある。

＜研究成果の副次的効果＞

2015年秋、山形県教育委員会と東北芸術工科大学との間で結んだ教育連携協定のもと、東桜学館をはじめとして県内の中学校高等学校に対して探究型学習へのデザイン思考活用の実践を行ってきたが、2018年4月より、山形県内高校学校の3校（山形東、酒田東、米沢興譲館）に探究科、3校（新庄北、寒河江、長井）に普通科探究コースが設置されるにあたり、山形県立山形東高等学校より教育連携について依頼があった。そこで、2017年12月に山形東の高1生へのデザイン思考授業を試行し、探究型学習へのデザイン思考の有用性を確認した後、2018年2月、山形東高等学校と東北芸術工科大学の間で教育連携協定を結ぶに至った。今後、本学教員による講義、演習および山形東高校教諭との連携により、探究科教育において生徒の思考力や学習意欲を高めるためにデザイン思考を活用していくとともに、教科の枠組みを超えた主体的な学びを後押ししていく。

芸術思考の理論の適用については、その後も精力的に研究が進められ、最近では企業における新規事業開発（論文*67, 76、図書*124、学会発表*293, 298, 306、受賞*418）が芸術思考によってよく理解されることが示されている。また、芸術思考の理論、評価方法の開発の進展は、2018年4月の芸術思考学会設立とともに、芸術思考の応用が教育だけでなく、ビジネスによる応用まで広がった（図書*108, 122、論文*76）。また、山形大学附属中学の授業で制作した生徒作品など、研究協力をいただいていた関連機関が、ボストン・チルドレンズ・ミュージアムへの作品提供に参加し、現地の子どもたちの鑑賞素材としての試

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

みが行われるなど、教育活動の場を広げることに繋がった。さらに、芸術が社会の中で役立つ可能性に気づく学生が育ち、社会に積極的に関わる姿が見られるようになった。(図書*108)

・ハーバード大学との連携

最終年度に、国際会議の開催を東京と山形において計画していたが、叶わなかった。しかし、この研究のサポートを頂いた、多重知能理論の提唱者であるハワード・ガードナー（ハーバード大学）との緊密な連携を今後も継続し、以降も関連した研究を継続し、その成果を国際的にも評価されるものへ高めることを目指す。

・生きる力の解明

これまではWSをどのような効果をもたらし活動であるかを把握するために、多重知能理論やSAN感情測定スケールなどの枠組みを用いて測定することに主力が注がれていた。今後はこれらの測定量と「生きる力」との関係を明らかにする。その大まかな方向について想定する方針は次のとおりである。「生きる力」は、IQや学力テストで計測される認知能力とは異なり、性格的な特性や創造性、自己認識、意欲、忍耐力、自制心、メタ認知ストラテジー、社会的適性、回復力と対処能力など、非認知能力といわれるものからなる(中室牧子、『「学力」の経済学』、ディスカヴァー・トゥエンティワン、pp. 84-89, 2015年6月18日)。本研究ではすでに性格的な特性と創造性を取り上げていることに加え、多重知能理論で扱ういくつかの知能についても非認知能力と関係することから、「生きる力」が本研究によって育まれる可能性を示すことを目指したい。この研究は、東北の地で行われた「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」であり、その研究に託された「生きる力」の意味が、震災後の復興に必要であった「創造力」と結びついていたことに立ち返るものであってほしいと思う。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|------------------------|------------------------|----------------------|
| (1) <u>芸術思考</u> | (2) <u>デザイン思考</u> | (3) <u>生きる力</u> |
| (4) <u>多重知能理論</u> | (5) <u>ワークショップ</u> | (6) <u>主要5因子性格検査</u> |
| (7) <u>SAN感情測定スケール</u> | (8) <u>多重知能分析アンケート</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

- 坪田康・伊藤佳世子,「英語シャドーイング音声評価データの分析」,言語学習と教育言語学:2017年度版, pp.45-51, 2018.
- Sandra Healy, Yasushi Tsubota, Yumiko Kudo & Monte Balistoy「Evaluation of a Joint Japanese-Filipino Collaborative CMC Programme」, 言語学習と教育言語学:2017年度版, pp.77-83, 2018.(査読有)
- 古藤浩, 人口規模に影響されない推計残差の分析, 2018年 日本OR学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.112-113, 2018年.
- 阪井和男,「多重知能理論とその大学教育への応用 ―アクティブ・ラーニング設計原理としての多重知能理論の可能性―」, 電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ, IEICE Fundamentals Review, Vol. 11, No. 4, pp. 266-287, <https://doi.org/10.1587/essfr.11.4.266>, 2018年4月1日.
- 深井聡一郎,「東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻の教育」, 東北芸術工科大学紀要第25号, 2018年3月.(査読無)
- 下郡啓夫・坪田康,「数学を基盤とした創造性の開発に関する一考察」, 思考と言語研究会(TL), 信学技法, vol.117, no.519, TL2017-76, pp.97-101, 2018年3月.
- 坂本美枝・半田純子・穴戸真・阪井和男・新田日夏実,「外部講師指導を取り入れた英語科目パイロットプログラムの設計」, 早稲田大学情報教育研究所, 言語学習と教育言語学: 2017年度版, 日本英語教育学会・日本教育言語学会合同編集委員会編集, pp.67-76, 2018年3月31日.
- 渡部泰山,「『教職実践演習』—その古くて新しい哲学」, 東北芸術工科大学「教職実践演習」冊子, 2018年3月20日.
- 阪井和男・川尻知弥・有賀三夏,「『湯かげん図』からみる教育インパクトとしての「場」の機能 ―変化が顕在化する「熱湯」に居続けられる「場」とは〜」, 電子情報通信学会, 思考と言語研究会(TL), 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 117, No.519, pp.103-113, 2018年3月19日.
- 阪井和男,「多重知能理論によるワークショップ設計原理の提案と教育効果測定法」, 東北芸術工科大学, 平成25年〜平成29年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究成果報告書, 生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成, pp. 205-222, 2018年3月15日.
- 阪井和男,「多重知能理論によるワークショップ設計原理の提案と教育効果測定法」, 情報コミュニケーション学会, 情報コミュニケーション学会第15回全国大会発表論文集, pp. 10-27, 2018年3月10日.
- 平松裕子・原田康也・伊藤篤・森下美和・上田一貴・佐藤文博,「日光沿道に展開された観光客向け英語表記:言語景観の現状調査と今後の課題」, 電子情報通信学会技術報告(信学技報)IEICE Technical Report TL2017-60, vol. 117, No. 519, pp. 7-12, ISSN 0913-5685, 社団法人 電子情報通信学会, 2018年3月5日.
- 渡部泰山, 冊子「平成29年度 郷土 YAMAGATA ふるさと探求コンテスト」実践記録集審査(委員長)講評・遊学館, 県教育委員会発

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

行, 2018 年 3 月 1 日.

14. 古藤浩, 輸入統計金額による国際貿易構造の視覚化, 2017 年 日本OR学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 172-173, 2017 年.
15. 古藤浩, CO2 排出量の微分方程式モデルとその諸国家データへのあてはめ, オペレーションズ・リサーチ, vol.62, No.9, pp 574-580, 2017 年.
16. 古藤浩, 財に関する輸入統計金額から見た世界の構造, 「OR による大規模インフラストラクチャー分析研究会」2016 年度中間報告書, 日本オペレーションズ・リサーチ学会／日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団, 2017 年.
17. 森下美和・河村まゆみ・原田康也, 「英語母語話者とのインタラクションデータにおける日本人英語学習者の wh 疑問文産出」, 電子情報通信学会技術報告(信学技報)IEICE Technical Report TL2017-55, vol. 117, No. 341, pp. 63-68, ISSN 0913-5685, 社団法人 電子情報通信学会, 2017 年 12 月 3 日.
18. 阪井和男, 「信州エクスターンシップの航跡」, 一般社団法人 JA 共済総合研究所, 共済総合研究・別冊, pp. 16-33, 2017 年 11 月 15 日.
19. 阪井和男・池田啓実・早川政宏・松井秀夫・坂知樹・鈴木賞子・川井真・内藤邦男・高木英彰・川尻知弥, 「農山漁村地域の再生・活性化に向けた若年層の地方人材還流戦略 ～首都圏大学生を対象とした地域滞在型就業体験事業「信州エクスターンシップ」から見えてきたこと～」, 一般社団法人 JA 共済総合研究所, 共済総合研究・別冊, pp. 86-127, 2017 年 11 月 15 日.
20. 渡部泰山, 「『池田正展』に寄せて」, パンフ・アトリエ山形現代美術館, 2017 年 9 月 23 日.
21. 原田康也・森下美和・鈴木正紀, 「多様な英語力の測定」, 日本認知科学会第 34 回大会発表論文集, pp. 1124-1131, 日本認知科学会, 2017 年 9 月 13 日.
22. 森下美和・原田康也, 「日本人英語学習者の構文産出傾向」, 日本認知科学会第 34 回大会発表論文集, pp. 1057-1060, 日本認知科学会, 2017 年 9 月 13 日.
23. Atsushi Ito, Yuko Hiramatsu, Fumihiro Sato, Kazutaka Ueda, Yasunari Harada, Miwa Morishita, Akira Sasaki, Rina Hayashi, Hiroyuki Hatano, Kenji Shoji & Mie Sato, "A Cognitive Model of Sightseeing for Mobile Support System," Proceedings of IEEE 8th International Conference on Cognitive Infocommunications: CogInfoCom 2017, pp. 57-62, 2017 年 9 月 11 日.
24. 佐良木昌・原田康也・森下美和, 「連用節への換言を介した連体節英訳手法の開発」, 日本通訳翻訳学会第 18 回年次大会プログラム, pp. 44, 日本通訳翻訳学会, 2017 年 9 月 9 日.
25. 渡部泰山, 書評『特高に奪われた青春』―「甦る平和主義言語学者の生涯」, 週刊仏教タイムス・仏教タイムス社, 2017 年 9 月 7 日.
26. 阪井和男, 「本気のインタビュー対応マニュアル ～「本気のインタビュー」と「キャリア・アンカー」の利用について～」, 明治大学社会イノベーション・デザイン研究所, 長野県若年層人材戦略研究会, 2017 年 8 月 17 日.
27. Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Syntactic Priming by Japanese EFL Learners in Dialogue Contexts based on Different Task Types," SEMDIAL 2017: SaarDial: Proceedings of the 21st Workshop on the Semantics and Pragmatics of Dialogue, Volha Petukhova and Ye Tian (eds.), Saarbrücken, 15-17 August 2017, pp. 166-167, 2017 年 8 月 15 日.
28. 阪井和男・鈴木賞子・松井秀夫・早川政宏・川井真・内藤邦男・池田啓実・坂知樹・高木英彰・川尻知弥, 「公開ワークショップ: 農山漁村地域の再生・活性化に向けた若年層の地方人材還流戦略 ～首都圏大学生を対象とした地域滞在型就業体験事業「信州エクスターンシップ」から見えてきたこと～」, JA 共済総合研究所, 共済総研レポート, vol.152, pp. 14-29, 2017 年 8 月 1 日.
29. 阪井和男, 「基調報告: 信州エクスターンシップの航跡」, JA 共済総合研究所, 共済総研レポート 2017.6, pp. 4-11, 2017 年 6 月 1 日.
30. 内藤隆, 青少年の受験期における身体活動量および生活習慣の変化, 日本健康教育学会誌, 第 25 巻, pp181, 2017 年 6 月 1 日.
31. 柚木泰彦, 「デザイン思考を活用した探究型学習の方法 中高大連携による「総合的な学習の時間」の探究と試行」, 芸術工学会誌 No.74, 2017 年度春季大会(山形), pp.46-47, 2017 年 5 月 19 日.(査読無)
32. 阪井和男・高野陽太郎, 「後知恵バイアスが隠蔽する創造性 ～企業イノベーションにおける 2 つの創発メカニズムの解明: 戦略行動による組織文化の創発と場による戦略行動の創発～」, 特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合, 「横幹」, 第 11 巻, 第 1 号, pp. 32-51, 2017 年 4 月 15 日.
33. 坂本美枝・半田純子・穴戸真・阪井和男・新田目夏実, 「フィリピン人外部講師によるオンライン・マンツーマン指導に関する期待と課題」, 早稲田大学情報教育研究所, 『言語学習と教育言語学: 2016 年度版』, 日本英語教育学会・日本教育言語学会合同編集委員会編集, pp. 17-24, 2017 年 3 月 31 日.
34. 原田康也・阪井和男・栗山健, 「ポスト・エヴァンゲリオンの教理問答』の復活: 知的能力発達の可視化・論理的推論能力・価値の創発」, 言語学習と教育言語学: 2016 年度版, pp. 37-46, 日本英語教育学会・日本教育言語学会合同編集委員会編集, 早稲田大学情報教育研究所発行, 2017 年 3 月 31 日.
35. 原田康也・阪井和男・栗山健, 「『ポスト・エヴァンゲリオンの教理問答』の復活: 知的能力発達の可視化・論理的推論能力・価値の創発」, 早稲田大学情報教育研究所, 『言語学習と教育言語学: 2016 年度版』, 日本英語教育学会・日本教育言語学会合同編集委員会編集, pp. 37-46, 2017 年 3 月 31 日.
36. 渡部泰山, 「『教職実践演習』における教職の学びとは何か」, 東北芸術工科大学「教職実践演習」冊子, 2017 年 3 月 20 日.
37. Yasunari Harada, Building Frameworks for International Collaborations and Interactions in the Study of Language and Information for Humans and Machines, The Teaching of Foreign Languages in Japan and International Academic Activities, Kazuko Sunaoka & Yoshiyuki Muroi (eds.), pp.43-52, Asahi Press, 2017 年 3 月 16 日.
38. 渡部泰山, 冊子「郷土 YAMAGATA ふるさと探求コンテスト」実践記録集審査(委員長)講評・遊学館, 県教育委員会発行, 2017 年 3 月 1 日.
39. 渡部泰山, 第 32 回「真壁仁・野の文化賞」候補作品選評異貌の維新」評, 2017 年・青猪忌カタログ, 「野の文化賞運営委員会」発行, 2017 年 1 月 14 日.
40. 古藤浩, CO2 排出量に関する微分方程式の諸国家データへのあてはめと解釈, 「グローバル・インフラストラクチャーの OR」研究会 2015 年度最終報告書, 日本オペレーションズ・リサーチ学会／日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団, 2016 年.
41. 古藤浩, CO2 排出量変化の微分方程式による国家群分析の可能性, 東北芸術工科大学紀要, Vol.23, no.7, 2016 年.
42. 古藤浩, 微分方程式による諸国家 CO2 排出量変化の分析, 2016 年 日本OR学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.299-300, 2016 年.
43. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者の応答練習における語彙的プライミング: 自然なインタラクションにおけるプライミング効果」,

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

電子情報通信学会技術報告(信学技報)IEICE Technical Report TL2016-64, vol. 116, No. 368, pp. 133-137, ISSN 0913-5685, 社団法人 電子情報通信学会, 2016 年 12 月 9 日.
44. 原田康也・森下美和・伊藤篤, 「ICT による観光資源開発支援と多言語ホスピタリティー・コミュニケーション」, 日本認知科学会第 33 回大会発表論文集, pp. 251-256, 日本認知科学会, 2016 年 9 月 16 日.
45. 阪井和男, 「「本気」の場づくりが学生と社会人の学習を促す(「信州エクスターンシップ」における企業の人材育成と大学のキャリア教育の統合を目指して)」, 全国共同出版, 『農業協同組合経営実務』増刊号, pp. 54-66, 2016 年 9 月 15 日.
46. 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男・新田目夏実, 「英語コミュニケーション活動導入に向けた課題: 運用に関する項目の検討」, 日本教育工学会, 日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集, pp. 563-564, 2016 年 9 月 9 日.
47. 戸田博人・香山裕子・小田有希子・小枝浩, 「学習履歴を基にした社会人学習者の学習スタイル調査」, 教育システム情報学会, jsise2016 全国大会論文集, pp.347-348, 2016 年 8 月 29 日.
48. 香山裕子・西村りさ・平井亜紀・戸田博人, 「ロールプレイ型コンテンツにおける学習行動分析」, 教育システム情報学会 第 3 回研究会, 2016 年 7 月 9 日.
49. 鈴木正紀・森下美和・原田康也, 「言語技術の言語評価への応用: 多様な英語能力の測定」, 電子情報通信学会技術報告(信学技報)IEICE Technical Report TL2016-9 / NLC-9, vol. 116, No. 77, pp. 41-46, ISSN 0913-5685, 社団法人 電子情報通信学会, 2016 年 5 月 28 日.
50. 内藤隆, 青少年の受験期における身体活動量の変化, 日本健康教育学会誌, 第 24 巻, pp.122, 2016 年 5 月 20 日.
51. 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男・新田目夏実, 「発語練習における学習者の内省分析」, 早稲田大学情報教育研究所発行, 『言語学習と教育言語学 2015 年度版』, ISBN: 978-4-905166-08-5, 日本英語教育学会編集委員会編集, pp. 1-11, 2016 年 3 月 31 日.
52. 吉澤潔・阪井和男・川井真, 「地域経済社会ベースのインターンシップが農業セクターの若年層人材戦略を促す」, 一般社団法人 JA 共済総合研究所, 共済総合研究, 第 72 号, pp. 76-91, 2016 年 3 月 31 日.
53. *戸田博人・阪井和男・森憲一・森貴子, 「企業業績に直接貢献する教育プログラムの ID モデルによる分析」, 情報コミュニケーション学会, 情報コミュニケーション学会第 13 回全国大会発表論文集, pp. 108-109, 2016 年 2 月 28 日.
54. 阪井和男・戸田博人・森憲一・森貴子・原田康也, 「ドロッカーの 5 つの質問からみる組織イノベーションの活動特性」, 情報コミュニケーション学会, 情報コミュニケーション学会第 13 回全国大会発表論文集, pp. 110-115, 2016 年 2 月 28 日.
55. 有賀三夏・村山真理・秋山ゆかり・戸田博人・阿部明典・原田康也・阪井和男, 「[パネル討論]オーガナイズドセッション: 芸術思考とデザイン思考」, 電子情報通信学会技術報告(信学技報)IEICE Technical Report TL2015-64, vol. 115, No. 441, pp. 53-58, ISSN 0913-5685, 社団法人 電子情報通信学会, 2016 年 1 月 22 日.
56. *阪井和男・有賀三夏・村山真理・戸田博人・大島伸矢, 「因子分析による多重知能分析アンケートの開発」, 電子情報通信学会, 思考と言語研究会(TL)「芸術思考・デザイン思考、及び思考と言語一般」, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 115, No. 441, pp. 47-52, 2016 年 1 月 22 日.
57. *有賀三夏・村山真理・秋山ゆかり・戸田博人・阿部明典・原田康也・阪井和男, 「オーガナイズドセッション: 芸術思考とデザイン思考」, 電子情報通信学会思考と言語研究会「芸術思考・デザイン思考、及び思考と言語一般」, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 115, No. 441, pp. 53-58, 2016 年 1 月 22 日. (査読無)
58. Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Production of wh-questions by Japanese EFL learners: Preliminary classroom data collection," Linguistic Research, Volume 32 (Special Edition), pp. 1-13, Institute for the Study of Language and Information, Kyung Hee University, Seoul, 2015 年.
59. 古藤浩, 諸国家 CO2 排出量変化の微分方程式, 2015 年 日本OR学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.250-251, 2015 年.
60. 原田康也・森下美和, 「日本人大学生英語学習者による疑問文の産出: 平叙文・疑問文の再生と平叙文から疑問文への転換」, 電子情報通信学会技術報告(信学技報)IEICE Technical Report TL2015-45, vol. 115, No. 361, pp. 29-34, ISSN 0913-5685, 社団法人 電子情報通信学会, 2015 年 12 月 5 日.
61. 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男・新田目夏実, 「学習継続意欲を高めるために: カラメソッドを用いた発語ドリルに関するインタビューから」, 教育工学会(JSET), 第 31 回日本教育工学会全国大会講演論文集(一般研究), pp. 287-288, 2015 年 9 月 21 日.
62. 森下美和・原田康也, 「日本人英語学習者の wh 疑問文の知識と運用に関する調査: 習熟度の観点から」, 日本認知科学会第 32 回大会発表論文集, pp. 947-951, 日本認知科学会, 2015 年 9 月 18 日.
63. 遠藤智子・横森大輔・河村まゆみ・原田康也, 「外国語としての英語スピーキング活動におけるメタ認知と聞き手の参与」, 日本認知科学会第 32 回大会発表論文集, pp. 940-946, 日本認知科学会, 2015 年 9 月 18 日.
64. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者のインタラクション(相互行為)を通じた自律的相互学習プロセス解明に向けて」, 日本認知科学会第 32 回大会発表論文集, pp. 952-960, 日本認知科学会, 2015 年 9 月 18 日. (査読無)
65. 戸田博人・香山裕子・小田有希子, 「e ラーニングの学習履歴を基にした社会人の学習者特性調査」, 教育システム情報学会, jsise2015 全国大会論文集, pp.383-384, 2015 年 9 月 2 日.
66. 吉澤潔・阪井和男・川井真, 「農業セクターへの若年層人材選流について ～戦略としてのインターンシップ～」, 一般社団法人 JA 共済総合研究所, 共済総合研究, 第 71 号, pp. 10-31, 2015 年 9 月 1 日.
67. *秋山ゆかり・有賀三夏・阪井和男, 「新規ビジネスを生み出す芸術思考」, 株式会社技術情報協会, 『～研究成果の早期事業化を実現する～ 新規事業テーマの探し方、選び方、そして決定の条件』, 第 5 章, 第 3 節, pp. 301-309, 2015 年 7 月 31 日. (査読無)
68. 原田康也, 「人工知能の特異点を遡って: 2001 年宇宙の旅」, 情報処理, Vol.56, No.8, pp.753-755, 情報処理学会, 2015 年 7 月 15 日. (査読有)
69. 有賀三夏, 「アートセラピー」, 芸術工学会誌, Design Research No.68, pp.38-41, 2015 年 5 月 16 日. (査読有)
70. 遠藤智子・河村まゆみ・横森大輔・原田康也, 「日本人英語学習者による定型表現の使用と習得: 言いよどみとクローゼットのケース」, 日本英語教育学会第 44 回年次研究集会発表論文集, pp.9-16, 早稲田大学情報教育研究所, 2015 年 3 月 31 日. (査読有)
71. 中村智栄・新井学・原田康也, 「日本人英語学習者の関係節文理解におけるプロソディー情報の影響」, 日本英語教育学会第 44 回年次研究集会発表論文集, pp.61-68, 早稲田大学情報教育研究所, 2015 年 3 月 31 日. (査読有)
72. 村上優・市毛愛子・有賀三夏, 「次世代型地域子育て支援環境構築に関するパイロット研究 ―その構成概念と環境構築を中心に―」,

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

大阪芸術大学短期大学部紀要論文, No.39, 2015 年 3 月 24 日。(査読無)
73. 深井聡一郎,「AGAIN-ST 第 4 回展『置物は彫刻か?』」, 東北芸術工科大学紀要第 22 号, 2015 年 3 月。(査読無)
74. *原田康也・森下美和,「言語教育と教養教育を統合する芸術思考:『人工知能からサイバーパンクまで』再考」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会論文集, pp. 112-119, 2015 年 2 月 28 日。(査読無)
75. *古藤浩・片桐隆嗣,「アンケート調査と多重知能理論による芸術系ワークショップ参加者の主観的成長感」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 76-79, 2015 年 2 月 28 日。(査読無)
76. *秋山ゆかり・有賀三夏・阪井和男,「新規事業を生み出す芸術思考」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 60-69, 2015 年 2 月 28 日。(査読無)
77. *村山眞理・有賀三夏・池田知之,「芸術思考を育む『場』の構築—大学間連携による授業実践の報告」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 120-127, 2015 年 2 月 28 日。(査読無)
78. 中島進・永谷研一,「タブレット活用した子どもが主役になる授業スタイルの模索」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 92-98, 2015 年 2 月 28 日。(査読無)
79. 原田康也・森下美和,「大学英語教育における知識と運用の統合:文法知識の運用課題と実体的コミュニケーションの場の提供」, 電子情報通信学会技術報告, vol. 114, No. 385, pp. 19-24, 2014 年 12 月 13 日。(査読無)
80. *阪井和男・戸田博人・内藤隆・有賀三夏・片桐隆嗣,「行動観察を用いた多重知能理論にもとづく芸術系ワークショップの評価と特徴」, 情報コミュニケーション学会, 第 15 回研究会発表論文集, pp. 3-12, 2014 年 11 月 8 日。(査読無)
81. *村山眞理・有賀三夏・阪井和男,「生きる力を育む芸術思考」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会発表論文集, pp. 17-20, 2014 年 11 月 8 日。(査読無)
82. *古藤浩,「芸術活動による知能開発の方向性と可能性」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会発表論文集, pp. 13-16, 2014 年 11 月 8 日。(査読無)
83. 坂本美枝・半田純子・穴戸真・阪井和男,「カランメソッドを用いた英語発話練習:オンライン・マンツーマン指導」, 教育工学会, 第 30 回全国大会(岐阜大学), 2014 年 9 月 21 日。(査読有)
84. 森下美和・原田康也,「日本人英語学習者の Wh 疑問文運用能力に関する予備調査:心理言語学的研究に向けて」, 日本認知科学会第 31 回大会発表論文集, pp. 525-527, 日本認知科学会, 2014 年 9 月 18 日。(査読無)
85. 坂本美枝・半田純子・穴戸真・阪井和男,「カランメソッドを用いた英語発話練習:オンライン・マンツーマン指導」, 教育工学会, 2014 年日本教育工学会第 30 回全国大会講演論文集, pp. 831-832, 2014 年 9 月 12 日。(査読無)
86. 阪井和男・戸田博人・栗山健,「場を介在するスキル学習を統合する概念モデルの提案」, 情報コミュニケーション学会, 第 13 回研究会発表論文集, pp. 10-17, 2014 年 7 月 5 日。(査読無)
87. 戸田博人・香山裕子・小田有希子,「学習履歴分析による e-Learning 学習者特性調査」, 日本 e-Learning 学会学会誌, Vol. 14, pp. 42-52, 2014 年 7 月。(査読有)
88. 原田康也・森下美和,「日本人英語学習者の英語疑問文産出にみられる傾向:自動化のための訓練の必要性」, 電子情報通信学会技術報告, vol. 114, No. 100, pp. 43-48, 電子情報通信学会, 2014 年 6 月 14 日。(査読無)
89. 山田寛章・石井雄隆・原田康也,「日本人大学生の英語作文からの特徴量の自動抽出に向けて:予備実験と今後の課題」, 電子情報通信学会技術報告, vol. 114, No. 100, pp. 55-60, 2014 年 6 月 14 日。(査読無)
90. *阪井和男・戸田博人・内藤隆・有賀三夏・片桐隆嗣,「行動観察を用いた多重知能理論にもとづく芸術系ワークショップの評価と特徴」, 情報コミュニケーション学会研究報告, Vol. 11, No. 3, pp. 3-12, 2014。(査読無)
91. 内藤隆,「青少年の運動実践を促進する『ワークショップ型授業』の開発に関する調査研究」(2013 年度笹川スポーツ研究助成採択研究), SSF スポーツ政策研究, 第 3 巻 1 号, pp. 306-315, 2014。(査読有)
92. 横森大輔・遠藤智子・河村まゆみ・鈴木正紀・原田康也,「日本語を第一言語とする英語学習者の比較的自己発的な発話におけるフィラーに見られるいくつかの特徴」, 日本英語教育学会第 43 回年次研究集会発表論文集, pp.89-96, 早稲田大学情報教育研究所, 2014 年 3 月 31 日。(査読有)
93. 阪井和男・永井優子・齊藤博美・今道正博,「東日本大震災ニュースソースとタブレット型電子デバイスのクラウド活用による科学的思考法ワークショップにおける教育効果の解析」, 情報コミュニケーション学会第 11 回全国大会発表論文集, pp. 132-139, 2014 年 3 月 2 日。(査読無)
94. Yasunari Harada, Mayumi Kawamura, Daisuke Yokomori, and Tomoko Endo, "That's all. Thank you.": Emergence of Formulaic Protocols among Japanese EFL Learners," SEMDial 2013, DialDam, Proceedings of the 17th Workshop on the Semantics and Pragmatics of Dialogue, Raquel Fernandez and Amy Isard (eds.), Amsterdam, 16-18 December 2013, University of Amsterdam, pp. 197-198, 2013 年 12 月 17 日。(査読無)
95. 鍋井理沙・原田康也,「日本人英語学習者の英語リスニング:ディクテーション課題における非強勢要素の聞き取りと書き起こし」, 電子情報通信学会技術報告, vol. 113, No. 354, pp. 71-76, 2013 年 12 月 7 日。(査読無)
96. Chie Nakamura, Manabu Arai and Yasunari Harada, "The use of verb subcategorization information in processing garden-path sentences: A comparative study on native speakers and Japanese EFL learners," Studies in Language Sciences, pp.43-69, 言語科学会, 2013 年 11 月 28 日。(査読有)
97. 横森大輔・遠藤智子・河村まゆみ・鈴木正紀・原田康也,「日本語母語話者の英語発話にみられるフィラーの使用ストラテジー」, 日本認知科学会第 30 回大会発表論文集, pp. 12-17, 2013 年 9 月 5 日。(査読無)
98. 首藤佐智子・原田康也,「残念な言語現象—ポライトネスの耐えられない矛盾」, 日本認知科学会第 30 回大会発表論文集, pp. 661-666, 2013 年 9 月 5 日。(査読無)
99. 森下美和・原田康也,「日本人英語学習者の言語産出における動詞の下位範疇化情報の使用:統語的ブラッキング実験データの質的再分析」, 日本認知科学会第 30 回大会発表論文集, pp. 502-505, 2013 年 9 月 5 日。(査読無)
100. 阪井和男,「電子教科書サービスに関する実証実験報告書『思考の可視化プロジェクト(VOT: Visualization of Thinking)』(科学的な態度で東日本大震災のニュースソースを読み解く〜帰納推論による科学的思考法の入門ワークショップ〜)」, 日本ユニシス, 2013 年 8 月 29 日。(査読無)
101. 原田康也・森下美和,「日本人英語学習者の言語処理と言語運用能力:Versant English Test のスコアを中心に」, 電子情報通信学会

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

技術報告, vol. 113, No. 174, pp. 1-6, 2013 年 7 月 27 日. (査読無)

102. *阪井和男,「ワークショップの教育方法論としての可能性」, 情報コミュニケーション学会誌, 巻頭言, Vol. 9, No. 1, pp. 2-3, 2013 年 7 月 15 日. (査読無)
103. 阪井和男・内藤隆・森憲一・森貴子・中村雄一郎・中川貴之,「談話分析によるハイパフォーマンステームのイノベーションプロセスのモデル化 ～会社を超えた半年間の実践的人材育成研修後の振り返り分析～」, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 113, no. 82, pp. 1-6, 2013 年 6 月 7 日. (査読無)
104. 阪井和男・内藤隆・森憲一・森貴子・中村雄一・中川貴之,「感情に焦点をあてたハイパフォーマンステーム特性の交流分析による可視化 ～会社を超えた半年間の実践的人材育成研修後の振り返り分析～」, 2013 年度サービス学会第 1 回国内大会講演論文集, pp. 57-64, 2013 年 4 月 10 日. (査読無)
105. *阪井和男・内藤隆,「感情によるワークショップ効果測定法の提案 ～創造的なワークショップでは課題提起者の感情はどう変化するのか～」, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 112, no. 442, pp. 13-18, 2013 年 2 月 15 日, (査読無).
106. *阪井和男・有賀三夏,「生きる力を育む芸術思考ー知的能力の統合的な育成を目指してー」, 情報コミュニケーション学会研究報告(第 10 回研究会), Vol. 9, No. 2, pp. 14-19, 2012 年 10 月 6 日, (査読無).
107. *有賀三夏,「アートの発信ー創作活動から見える表現の可視化ー」, 情報コミュニケーション学会研究報告(第 10 回研究会), Vol. 9, No. 2, pp. 34-37, 2012 年 10 月 6 日, (査読無).

<図書>

108. *東北芸術工科大学創造性開発研究センター,『生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成 研究成果報告書』, 2018 年 3 月 15 日.
109. 阪井和男,「信州エクスターンシップの航跡」, 一般社団法人 JA 共済総合研究所, 共済総合研究・別冊, pp. 16-33, 2017 年 11 月 15 日.
110. 阪井和男・池田啓実・早川政宏・松井秀夫・坂知樹・鈴木貴子・川井真・内藤邦男・高木英彰・川尻知弥,「農山漁村地域の再生・活性化に向けた若年層の地方人材還流戦略 ～首都圏大学生を対象とした地域滞在型就業体験事業「信州エクスターンシップ」から見てきたこと～」, 一般社団法人 JA 共済総合研究所, 共済総合研究・別冊, pp. 86-127, 2017 年 11 月 15 日.
111. 阪井和男・鈴木貴子・松井秀夫・早川政宏・川井真・内藤邦男・池田啓実・坂知樹・高木英彰・川尻知弥,「公開ワークショップ:農山漁村地域の再生・活性化に向けた若年層の地方人材還流戦略 ～首都圏大学生を対象とした地域滞在型就業体験事業「信州エクスターンシップ」から見てきたこと～」, JA 共済総合研究所, 共済総研レポート, vol.152, pp. 14-29, 2017 年 8 月 1 日.
112. 深井聡一郎,『AGAIN-ST BOOK』, AGAIN-ST, 2017 年 4 月 1 日.
113. *東北芸術工科大学創造性開発研究センター,『2016 年度創造性開発研究センター研究活動報告書「ワークショップのタネ」』, 2017 年 3 月 30 日.
114. 池永真義・有賀三夏,「「多重知能」の活用で「芸術思考」を発揮する創作活動スマートスタンドアップドールを作ろう!」,『図画工作・美術科 理論と実践 ～新しい表現と鑑賞の授業づくりのために』, pp.198-209, あいり出版, 2016.
115. 原田康也,「質問する教室を目指して」, 英語教育 2016 年 11 月号, 第 65 巻, 第 8 号, pp. 36-37, 大修館書店, 2016 年 10 月 14 日.
116. 原田康也,「英語教育における研究と教育の統合:科学的英語学習法を目指して」, 全国英語教育学会第 42 回(統一体第 16 回)研究大会予稿集, pp.426-429, 全国英語教育学会, 2016 年 8 月 20 日.
117. *東北芸術工科大学創造性開発研究センター,『2015 年度創造性開発研究センター研究活動報告書(SOZO2015)』, 2016 年 5 月 17 日.
118. 青山ひろゆき,「美術の学習Ⅰ」、「美術の学習Ⅱ・Ⅲ」作品掲載, 発行 株式会社福島教材社, 2016 年 4 月.
119. 原田康也, 言語情報・英語教育関連学会の国際発信, 早稲田大学現代政治経済研究所研究叢書『日本発多言語国際情報発信の現状と課題:ヒューマンリソースとグローバルコミュニケーションのゆくえ』, 砂岡和子・室井禎之編, pp.113-119, 朝日出版社, 2016 年 3 月 16 日.
120. 戸田博人, 大学 e ラーニング協議会, 日本リメディアル教育学会監修,「大学における学習支援への挑戦ー大学における e ラーニング活用実践集ー」, ナカニシヤ出版, 2016 年 1 月, 一部執筆“職業人研修における e ポートフォリオーITSSスキル診断を例としてー”.
121. 戸田博人,『大学における e ラーニング活用実践集ー大学における学習支援への挑戦 2ー』, ナカニシヤ出版, 2016 年 1 月 30 日.(共著)
122. 秋山ゆかり・有賀三夏・阪井和男,「第 5 章 第 3 節 新規事業テーマの探し方、選び方、そして決定の条件」,『新規ビジネスを生み出す芸術思考』, pp301-30, 株式会社技術情報協会, 2015.
123. 有賀三夏,「本当はすごい“自分”に気づく 女子大生に超人気の美術の授業」, 京都造形芸術大学東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎, 2015.
124. *秋山ゆかり・有賀三夏・阪井和男,「新規ビジネスを生み出す芸術思考」, 株式会社技術情報協会,『～研究成果の早期事業化を実現する～ 新規事業テーマの探し方、選び方、そして決定の条件』, 第 5 章, 第 3 節, pp. 301-309, 2015 年 7 月 31 日.(共著)
125. 有賀三夏,『本当はすごい“自分”に気づく 女子大生に超人気の美術の授業』, 幻冬舎, 2015 年 7 月 29 日.
126. 渡部泰山,『教育の森通信ー届け、教室へ』, 書肆犀, 2015 年 7 月 7 日.(共著)
127. *東北芸術工科大学創造性開発研究センター,『2014 年度創造性開発研究センター研究活動報告書(SOZO2014)』, 2015 年 4 月 30 日.
128. 青山ひろゆき, 画集『青山ひろゆきー耀ー』, 喜多方市立美術館, 2015 年 4 月 25 日.
129. 青山ひろゆき,「洋画演習5『青山ゼミ(たきやまコラボ)』」, 東日本広域の大学間連携による教育の質保証・向上システムの構築“つばさ”プロジェクト報告書, 山形大学教育開発連携支援センター, 2015 年 3 月 31 日.
130. 阪井和男,『ドロッカー(人・思想・実践)』, ドロッカー学会監修, 三浦一郎・井坂康志編著, 文眞堂, pp. 161-171, 2014 年 10 月 1 日.(共著(分担執筆:第 9 章))
131. 有賀三夏,「Art in Lifeー人生に芸術をどう使おうか?ー『つながる教育、つながる未来』教育改革×ソーシャルの力」, 学校広報ソーシャルメディア活用勉強会, 2014 年 8 月 29 日.

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

132. 渡部泰山, 評伝「斎藤秀一」「砂山健」「松田甚次郎」, 『やまがた再発見・第一巻』, 山形新社編, 2014 年 7 月 3 日.(共著)
133. 青山ひろゆき, 「参加、体験、そして相互作用」教養ゼミナール(ワークショップ)での試みと成果, 東北芸術工科大学紀要第 21 号, 2014 年 3 月 31 日.
134. 原田康也, 『外国語運用能力はいかに熟達化するか: 言語情報処理の自動化プロセスを探る』, 横川博一・定藤規弘・吉田晴世(編著), 松柏社, 2014 年 3 月 25 日.(共著(分担執筆(第 11 章担当)))
135. 渡部泰山, 「届け、教室へ ～死をみとる体験～」, 『切り抜き速報教育版 ―特集・こころの授業、いのちの重さを感じる』, ニホン・ミック発行, 2013 年 8 月 1 日.(共著)
136. 渡部泰山, 「芸術の純度の高さ」, 『夭折の作家・永山一郎美術作品集～記憶の棲む場所』, LEGENDS 発行, 2013 年 7 月.(共著)
137. 渡部泰山, 『東北近代文学事典』, 勉誠出版, 2013 年 6 月 10 日.(共著)
138. 澤口俊輔, 「こども芸術の家 震災後の＜こども＝未来＞を考える プロジェクト・メイキング・プロセス」, pp.68-77, 2013 年 3 月 11 日.

<学会発表>

139. Sandra Healy, Yasushi Tsubota, Yumiko Kudo & Monte Balistoy 'Evaluation of a Joint Japanese-Filipino Collaborative CMC Programme', 言語学習と教育言語学:2017 年度版, pp.77-83, 2018.(査読有)
140. 阪井和男・有賀三夏・森下美和・原田康也, 「多重知能理論と PDP モデルに基づく海外留学プログラム効果測定を試み」, 明治大学サービス創新研究所, 第 141 回次世代大学教育研究会, 京都工芸繊維大学, 2018 年 4 月 21 日.
141. 下郡啓夫・坪田康, 「数学を基盤とした創造性の開発に関する一考察」, 思考と言語研究会(TL), 信学技法, vol.117, no.519, TL2017-76, pp.97-101, 2018 年 3 月.
142. 阪井和男, 「多重知能理論による教育効果測定法」, アカデミック・コーチング学会, 学習効果の実践研究と理論 ～コーチングによる教育の 場づくりと場の効果～, 明治大学駿河台キャンパス, 2018 年 3 月 28 日.
143. 阪井和男・川尻知弥・有賀三夏, 「「湯かげん図」からみる教育インパクトとしての「場」の機能 ～変化が顕在化する「熱湯」に居続けられる「場」とは～」, 電子情報通信学会, 思考と言語研究会(TL), 早稲田大学(早稲田キャンパス), 2018 年 3 月 19 日.
144. 平松裕子・原田康也・伊藤篤・森下美和・上田一貴・佐藤文博, 「日光沿道に展開された観光客向け英語表記: 言語景観の現状調査と今後の課題」/ "A Survey of Language Landscape in Nikko Area: English Translations as Found in Signs and Posters Intended for Inbound Tourist"(in Japanese), 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 早稲田大学 8 号館 303/304/305 会議室, 2018 年 3 月 19 日.
145. 阪井和男, 「ドラえもんのアフォーダンス: 世界は平らではない」, 日本ビジネスコミュニケーション学会, 口頭発表と共同討議:ドラえもんが教えてくれた?, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度第 2 回研究集会・第 140 回次世代大学教育研究会, 早稲田大学(早稲田キャンパス), 2018 年 3 月 18 日.
146. 原田康也・平松裕子・阪井和男, 「討議:ドラえもんは何も教えない」, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度第二回研究集会(ABCJ-2018/03), 第 140 回次世代大学教育研究会(NextEdu-140)合同開催, 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2018 年 3 月 18 日.
147. 原田康也, 「通らない申請書の書き方教えます:ドラえもん申請」, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度第二回研究集会(ABCJ-2018/03), 第 140 回次世代大学教育研究会(NextEdu-140)合同開催, 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2018 年 3 月 18 日.
148. 原田康也, 「コミュニケーション障害用意としてのカタカナ語」, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度第二回研究集会(ABCJ-2018/03), 第 140 回次世代大学教育研究会(NextEdu-140)合同開催, 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2018 年 3 月 18 日.
149. 庄司博幸, 「いま、教育に何が必要か——新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』の提言を真剣に受け止める——」, 教育臨床学研究会 3 月例会, 学習力創造アカデミー曙橋校, 2018 年 3 月 18 日.
150. 阪井和男・戸田博人, 「多重知能理論によるワークショップ設計原理の提案と教育効果測定法」, 東北芸術工科大学, 平成 30 年度全体研究会, 創造性開発研究センター, 2018 年 3 月 16 日.
151. Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Diversity of Tests and Test Scores of Japanese Learners of English," 53rd RELC International Conference: 50 Years of English Language Teaching and Assessment? Reflections, Insights and Possibilities, SEAMEO Regional Language Centre, 2018 年 3 月 12-14 日.
152. Yasunari Harada, Lisa Nabei & Miwa Morishita, "Positive Impact of Intrusive Recording Devices on Foreign Language Learning," 53rd RELC International Conference: 50 Years of English Language Teaching and Assessment? Reflections, Insights and Possibilities, SEAMEO Regional Language Centre, 2018 年 3 月 12-14 日.
153. 阪井和男, 「[基調講演] 多重知能理論とその大学教育への応用 ～多重知能理論によるワークショップ設計とその評価の提案～」, 情報コミュニケーション学会第 15 回全国大会, 大手前大学 さくら夙川キャンパス, 2018 年 3 月 11 日.
154. 古藤浩, 都市計画のための小地域人口推計について, 2017 年度 日本都市計画学会 東北支部研究発表会, 2018 年 3 月 4 日.
155. 原田康也, 「外国語学習における創発的推論」, 日本英語教育学会・日本教育言語学会第 48 回年次研究集会: 英語学習を支える言語環境・言語景観, 日本英語教育学会・日本教育言語学会主催, 早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学 8 号館 3 階 303/304/305 会議室, 2018 年 3 月 3-4 日.
156. 原田康也, 「英語学習に対する阻害要因としてのカタカナ語」, 日本英語教育学会・日本教育言語学会第 48 回年次研究集会: 英語学

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

- 習を支える言語環境・言語景観，日本英語教育学会・日本教育言語学会主催，早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催，早稲田大学 8 号館 3 階 303/304/305 会議室，2018 年 3 月 3-4 日。
157. 坪田康，「遠隔地の外国語話者との創造的な場の検討 ―外国語授業での実践を対象として―」，日本英語教育学会・日本教育言語学会第 48 回年次集会，早稲田大学，2018 年 3 月 3-4 日。
158. 原田康也，「言語表現の underspecification と言語理解におけるアブダクション」，サービス創新研究会・第 139 回次世代大学教育研究会，次世代大学教育研究会主催，NPO 法人人材育成マネジメント研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催，明治大学駿河台キャンパスリバティタワー，2018 年 2 月 24 日。
159. 阪井和男，「創造性にアブダクションは必要か？ ～価値評価を含まないアブダクションとしてのマイクロ・アブダクションの効用～」，明治大学サービス創新研究所，サービス創新研究会・第 139 回次世代大学教育研究会，明治大学駿河台キャンパス，2018 年 2 月 24 日。
160. 庄司博幸，「リビドー？ なにそれ？ おいしいの？——科学の楽観性、あるいは悟りにも似た諦念(諦めにも似た悟り?)」，教育臨床学研究会 2 月例会，学習力創造アカデミー曙橋校，2018 年 2 月 18 日。
161. 阪井和男，「創造性の数理モデルの検討」，明治大学サービス創新研究所，芸術思考研究会，明治大学，2018 年 2 月 4 日。
162. 坪田康・杉本義孝，工藤由美子，「遠隔地の外国語話者との場の検討 ―創造を誘発する協働的な場を目指して―」，第 6 回芸術思考研究会，明治大学，2018 年 2 月 3 日。
163. 阪井和男，「教育プログラムとしての信州エクスターンシップを考える ～早期キャリア教育としての コミュニケーション教育＋経験学習～」，明治大学社会イノベーション・デザイン研究所，第 2 回エクスターンシップ教育実践研究会，明治大学，2018 年 2 月 2 日。
164. 原田康也，「外国語の副作用：言語景観と言語学習」，第 138 回次世代大学教育研究会，次世代大学教育研究会主催，NPO 法人人材育成マネジメント研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催，琉球大学，2018 年 1 月 6 日。
165. 阪井和男・川尻知弥・有賀三夏，「多重知能理論による教育インパクトの定量的推定方法 ～PDP スキーマモデルによる『場』の解釈と知能の響鳴仮説～」，明治大学サービス創新研究所，第 138 回次世代大学教育研究会，琉球大学法文学部，2018 年 1 月 6 日。
166. 阪井和男・川尻知弥・有賀三夏，「多重知能理論による教育インパクトの定量的推定方法の提案 ～PDP スキーマモデルによる『場』の解釈とパラメーターの推定～」，明治大学社会イノベーション・デザイン研究所，エクスターンシップ教育実践研究会，明治大学，2017 年 12 月 25 日。
167. Lisa Nabei, Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Impact of Recording Devices on Students Performance in English Classes in Japanese Universities," JWLLP 23 (2017/12): The 23rd Joint Workshop on Linguistics and Language Processing jointly organized with the Fifth International Workshop on Linguistics of Ba, 早稲田大学 8 号館 303/304/305 会議室，2017 年 12 月 17 日。
168. Yasunari Harada, Miwa Morishita, Sachiko Shudo & Kazuo Sakai, "Language Understanding and Abductive Reasoning: Abductive Reasoning in L2 English Dictation Tasks and in Interpreting L1 Japanese "NP1-no NP2" Constructions," JWLLP 23 (2017/12): The 23rd Joint Workshop on Linguistics and Language Processing jointly organized with the Fifth International Workshop on Linguistics of Ba, 早稲田大学 8 号館 303/304/305 会議室，2017 年 12 月 17 日。
169. 森下美和・河村まゆみ・原田康也，「英語母語話者とのインタラクションデータにおける日本人英語学習者の wh 疑問文産出」/ "Production of Wh-question Sentences by Japanese EFL Learners in Interactions with Native Speakers of English"(in Japanese)，電子情報通信学会思考と言語研究会，愛媛大学城北キャンパス校友会館 2F サロン 2017 年 12 月 10 日。
170. 原田康也・坪田康・森下美和・富田英司・阪井和男，「討議：留学・インターンシップ・エクスターンシップのニーズ分析は可能か？」，第 137 回次世代大学教育研究会，次世代大学教育研究会主催，NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催，愛媛大学城北キャンパス交友会館 2F サロン，2017 年 12 月 9 日。
171. 阪井和男・川尻知弥・有賀三夏，「多重知能理論による教育インパクトの定量的推定方法の提案 ～PDP スキーマモデルによる『場』の解釈とパラメーターの推定～」，明治大学サービス創新研究所，第 137 回次世代大学教育研究会，愛媛大学城北キャンパス 交友会館 2 F サロン，2017 年 12 月 9 日。
172. 阪井和男，「多重知能理論による教育インパクトの定量的推定方法の可能性 ～教育インパクトの PDP スキーマモデルによる解釈～」，明治大学サービス創新研究所，芸術思考研究会，明治大学駿河台キャンパス，2017 年 11 月 4 日。
173. 庄司博幸，「やっぱり芸術思考がわからない」，芸術思考研究会，明治大学，2017 年 11 月 4 日。
174. 庄司博幸，「芸術思考の現在——多重知能理論・創造性・芸術思考——」，教育臨床学研究会 10 月例会，学習力創造アカデミー曙橋校，2017 年 10 月 15 日。
175. 坪田康・伊藤佳世子，「英語シャドーイング音声の自動評価に向けて ～ 教員による評価データの分析を中心に ～」，思考と言語研究会，TL2017-40, pp.13-18, 京都工芸繊維大学，2017 年 9 月。
176. Sandra Healy, 坪田康，工藤由美子，Monte Balistoy, "Evaluation of Telecommunication Activities of Speaking with Filipino Teachers", 思考と言語研究会，TL2017-41, pp.19-23, 京都工芸繊維大学，2017 年 9 月。
177. 原田康也・森下美和・鈴木正紀，「多様な英語力の測定」，日本認知科学会第 34 回大会，金沢大学，2017 年 9 月 14 日。
178. 森下美和・原田康也，「日本人英語学習者の構文産出傾向」，日本認知科学会第 34 回大会，金沢大学，2017 年 9 月 14 日。
179. Atsushi Ito, Yuko Hiramatsu, Fumihiro Sato, Kazutaka Ueda, Yasunari Harada, Miwa Morishita, Akira Sasaki, Rina Hayashi, Hiroyuki Hatano, Kenji Shoji & Mie Sato, "A Cognitive Model of Sightseeing for Mobile Support System," IEEE 8th International Conference on Cognitive Infocommunications: CogInfoCom 2017, 2017 年 9 月 12 日。
180. 佐良木昌・原田康也・森下美和，「連用節への換言を介した連体節英訳手法の開発」，日本通訳翻訳学会第 18 回年次大会，日本通訳翻訳学会，2017 年 9 月 10 日。
181. 阪井和男，「地域エクスターンシップにおける経験学習の実践と理論」，明治大学サービス創新研究所，第 134 回次世代大学教育研究会，高知大学朝倉キャンパス総合研究棟2階会議室 3, 2017 年 9 月 9 日。
182. 阪井和男，「正課外活動における経験学習の実践と理論 ～信州エクスターンシップにおけるフィードバック手帳の活用～」，明治大学サービス創新研究所，第 133 回次世代大学教育研究会，信州大学松本キャンパス 全学教育機構南校舎 40 番教室，2017 年 8 月 22 日。
183. Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Syntactic Priming by Japanese EFL Learners in Dialogue Contexts based on Different Task Types,"

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

- SIGDIAL/SemDial 2017, Saarland University, Saarbrücke, 2017 年 8 月 15 日.
184. 古藤浩, 小地域人口推計における誤差について, OR による大規模インフラストラクチャー分析研究会, 東京海洋大学, 東京, 2017 年 8 月 8 日.
185. 赤塚祐哉・家本修・阪井和男・坪田康・徳永健伸・原田哲男・原田康也・平畑奈美・八木智裕, 「【討議】英語による授業を可能とする教員の英語力・学生生徒の英語力」, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度年次大会(ABCJ-2017/07), 合同開催: 第 132 回次世代大学教育研究会(NextEdu-132) + 教育の国際化研究会(IE-2017/07), 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2017 年 7 月 15 日.
186. 赤塚祐哉・原田康也, 国際バカロレア「Language B(English)」評価・学習から捉える高校英語教育: 高大接続に向けて, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度年次大会(ABCJ-2017/07), 合同開催: 第 132 回次世代大学教育研究会(NextEdu-132) + 教育の国際化研究会(IE-2017/07), 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2017 年 7 月 15 日.
187. 原田康也・首藤佐智子・阪井和男, 「の」の意味論と語用論: 「NP1 の NP2」の解釈に見られる演繹・帰納・創発, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度年次大会(ABCJ-2017/07), 合同開催: 第 132 回次世代大学教育研究会(NextEdu-132) + 教育の国際化研究会(IE-2017/07), 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2017 年 7 月 15 日.
188. 原田康也・阪井和男, 「「だれ場」の認知バイアス: いわゆる学習曲線における「プラトー」の解明と解消に向けて」, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度年次大会(ABCJ-2017/07), 合同開催: 第 132 回次世代大学教育研究会(NextEdu-132) + 教育の国際化研究会(IE-2017/07), 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2017 年 7 月 15 日.
189. 鍋井理沙・原田康也, 「外国語学習の基盤としての意味のやりとり: 創発としてのディクテーション訓練」, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度年次大会(ABCJ-2017/07), 合同開催: 第 132 回次世代大学教育研究会(NextEdu-132) + 教育の国際化研究会(IE-2017/07), 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2017 年 7 月 15 日.
190. 坪田康・原田康也, 「外国語学習の基盤としての意味のやりとり: 創発としての字幕付き映画聴解」, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度年次大会(ABCJ-2017/07), 合同開催: 第 132 回次世代大学教育研究会(NextEdu-132) + 教育の国際化研究会(IE-2017/07), 次世代大学教育研究会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・日本ビジネスコミュニケーション学会主催, 教育の国際化研究会・NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2017 年 7 月 15 日.
191. 阪井和男, 「[招待講演] 後知恵バイアスが隠蔽する創造性 ～組織文化の創発と戦略行動の創発～」, 日本ビジネスコミュニケーション学会・次世代大学教育研究会・教育の国際化研究会, 日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度年次大会, 早稲田大学(早稲田キャンパス), 2017 年 7 月 15 日.
192. 阪井和男・栗山健・原田康也, 「創発場と一時的統合失調症: 「ポスト・エヴァンゲリオン」の教理問答とイノベーション・ダイアグラム」, 次世代大学教育研究会・教育の国際化研究会・日本ビジネスコミュニケーション学会, 第 132 回次世代大学教育研究会, 早稲田大学(早稲田キャンパス), 2017 年 7 月 15 日.
193. 坪田康, 「外国語学習の基盤としての意味のやりとり: 創発としての字幕付き動画聴解」, 第 132 回次世代大学教育研究会, 早稲田大学, 2017 年 7 月 15 日.
194. 坪田康, 「動画を用いたリスニング学習アプリのスピーキング・ライティング活動への導入の検討」, 第 132 回次世代大学教育研究会, 早稲田大学, 2017 年 7 月 15 日.
195. 柚木泰彦・三橋幸次・早野由美恵・渡部桂・安達納, 「中学生の探究型学習を支援する教育プログラムの開発」, 日本デザイン学会 第 64 回春季研究発表大会, 拓殖大学, 2017 年 6 月 30～7 月 2 日.
196. 内藤隆, 青少年の受験期における身体活動量および生活習慣の変化, 第 26 回日本健康教育学会学術大会, 早稲田大学(早稲田キャンパス), 2017 年 6 月 25 日.
197. 伊藤篤・森下美和・原田康也, 「位置情報の活用による観光資源開発とホスピタリティー・コミュニケーション」, 第 131 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会・早稲田大学情報教育研究所・明治大学サービス創新研究所主催, NPO 法人学習分析学会・情報コミュニケーション学会共催, 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス D 号館アクティブスタジオ, 2017 年 6 月 17 日.
198. 阪井和男, 「ドロッカーの 5 つの質問による事業戦略の設計: 総務省お試しサテライトオフィス事業における京丹後サテライトオフィス誘致戦略策定委員会の事例」, 明治大学サービス創新研究所, 第 131 回次世代大学教育研究会, 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス(神戸市), 2017 年 6 月 17 日.
199. Yuko Murakami, Takeo Tatsumi, Takushi Otani & Yasunari Harada, Ethics of Information Education for Living with Robots, CEPE/ETHICOMP 2017, University of Turin, Italy, 2017 年 6 月 5 日.
200. 原田康也・森下美和, 「外国語学習の基盤としての意味のやりとり: 文の生成・産出・理解における演繹・帰納・創発」, 第 130 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, 長崎大学 ICT 基盤センター・NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催, 長崎大学 ICT 基盤センターセミナールーム, 2017 年 5 月 20 日.
201. 阪井和男・古金義洋・高木英彰・川井真, 「ドロッカーの 5 つの質問によるインターンシップ事業の設計 ～魚津市農商工連携インターンシップ事業の事例～」, 明治大学サービス創新研究所, 第 130 回次世代大学教育研究会, 長崎大学(文教キャンパス), 2017 年 5 月 20 日.
202. 坪田康, 「動画教材を活用した英語産出技能向上の試み ―スピーキングとライティングでの相互評価を活用して―」, 第 130 回次世代大学教育研究会, 長崎大学, 2017 年 5 月 20 日.
203. 坪田康, 「創発的な英語シャドーイング活動に向けて」, 第 130 回次世代大学教育研究会, 長崎大学, 2017 年 5 月 20 日.

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

204. 阪井和男・高野陽太郎, 「なぜ創造性は評価されないのか ～創造性が後知恵バイアスで隠蔽されるメカニズム～」, 次世代大学教育研究会, 第 129 回研究会, 富士通株式会社 九州支社(福岡市), 2017 年 4 月 15 日.
205. 原田康也・森下美和, 「外国語学習の基盤としての意味のやりとり: 外国語学習における創造性・創発性」, 第 129 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催, 富士通株式会社後援, 富士通株式会社九州支社 2 階 ConferenceRoom2, 2017 年 4 月 15 日.
206. Masanori Suzuki, Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Application of Speech and Language Technology in Language Assessment," Joint Postgraduate Student Symposium on Language, Culture and Cognition Cum JWLLP-VariAMU Joint Workshop, 香港理工大学, 香港, 2017 年 4 月 9 日.
207. 古藤浩, モノに関する輸出統計金額から見た世界の構造, OR による大規模インフラストラクチャー分析研究会, GIF 財団会議室, 東京, 2017 年 3 月 24 日.
208. 原田康也・森下美和, 「外国語学習の基盤としての意味のやりとり: インタラクションなしの言語学習は可能か」, 第 128 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催, 名古屋国際会議場 2 号館 221, 2017 年 3 月 20 日.
209. 阪井和男, 「インタラクションの質を問う ～経験から学習できない理由～」, 明治大学サービス創新研究所, 第 128 回次世代大学教育研究会, 名古屋国際会議場, 2017 年 3 月 20 日.
210. 阪井和男, 「本気のコミュニケーション」, 明治大学社会イノベーション・デザイン研究所, エクスターンシップ研究会, 明治大学, 2017 年 3 月 16 日.
211. Yasunari Harada, Miwa Morishita & Masanori Suzuki, Learning to Communicate in English through Interactions: Promoting and Prompting Japanese University Students to Ask and Answer Questions in English, 日本英語教育学会・日本教育言語学会第 47 回年次研究集会 (JELES-47), 日本英語教育学会・日本教育言語学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2017 年 3 月 5 日.
212. 遠藤智子・横森大輔・河村まゆみ・原田康也, ピア評価活動に対する学習者のメタ認知, 日本英語教育学会・日本教育言語学会第 47 回年次研究集会 (JELES-47), 日本英語教育学会・日本教育言語学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2017 年 3 月 4-5 日.
213. 戸田博人, 「イノベーションを起こす組織の特徴」, 明治大学サービス創新研究所, 第 127 回次世代大学教育研究会 国際学会, ベトナム ホーチミン市, 2017 年 2 月 10 日.
214. Kazuo SAKAI, Mina OKUYAMA, Hiromi KOMINAMI, "Job Environment in the Workplace of Hospital Employees - Net Promoter Score and Lukewarm Water Constitution -", International Conference on Business Management - The Recent Trends in Vietnam and Japan -, The 127th Meeting on Higher Education for the Next Generation, ITAXA, , Ho Chi Minh City, Viet Nam, 11 Feb. 2017.
215. 坪田康・工藤由美子, 「対面・オンライン混合型のプレゼンテーション演習における総合的な評価の検討-相互評価、遠隔地の英語話者による評価を題材に-」, ワークショップやりとりの中の言語能力 2017: 外国語学習活動の評価・実践データ分析をめぐって, 九州大学西新プラザ, 2017 年 1 月.
216. 原田康也・河村まゆみ・森下美和, 「外国語学習の基盤としての意味のやりとり: 小グループ発表と質疑応答におけるプライミングの解明に向けて」, ワークショップ「やりとりの中の外国語学習・外国語教育」, 九州大学西新プラザ, 2017 年 1 月 9 日.
217. 原田康也・森下美和, 「応答練習の書き起こしに見る語彙的プライミング」, 第 126 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催, 琉球大学法文学部新棟 112 教室, 2017 年 1 月 7 日.
218. 坪田康・山元龍・藤由美子, 「オンラインビデオ教材を利用した英語口頭報告活動の実践と評価」, 電子情報通信学会技術研究報告. TL, 思考と言語 Technical Report of IEICE. Thought and Language, 2016 年 12 月.
219. 坪田康・工藤由美子, 「対面・オンライン混合型英語プレゼンテーション演習」, JWLLP-21 / 場の言語学, ポスター発表, 2016 年 12 月.
220. Yasushi Tsubota, Yumiko Kudo, "English Speaking Activities in Collaboration with People at Distant Places - Development of English Speaking Skills through Telecollaborative Communication with Filipino Teachers -", Meeting on Higher Education for the Next Generation, Oman, December, 2016. (査読無)
221. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者の応答練習における語彙的プライミング: 自然なインタラクションにおけるプライミング効果」/ "Lexical Priming in Oral Response Practices by Japanese EFL Learners: Priming Effects in Natural Interactions" (in Japanese), JWLLP 21 (2016/12): The 21st Joint Workshop on Linguistics and Language Processing: Situation-embedded and Location Sensitive Communication, 早稲田大学 8 号館 303/304/305 会議室, 2016 年 12 月 18 日.
222. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者の応答練習における語彙的プライミング: 自然なインタラクションにおけるプライミング効果」/ "Lexical Priming in Oral Response Practices by Japanese EFL Learners: Priming Effects in Natural Interactions" (in Japanese), The Fourth International Workshop on Linguistics of Ba, 早稲田大学 8 号館 303/304/305 会議室, 2016 年 12 月 18 日.
223. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者の応答練習における語彙的プライミング: 自然なインタラクションにおけるプライミング効果」/ "Lexical Priming in Oral Response Practices by Japanese EFL Learners: Priming Effects in Natural Interactions" (in Japanese), 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 早稲田大学 8 号館 303/304/305 会議室, 2016 年 12 月 18 日.
224. 森下美和・原田康也・富田英司, 「海外研修プログラムの効果: 英語習熟度テストと意識調査をもとに」, 第 124 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催, 愛媛大学城北キャンパス共通教育北別館 4F マルチゾーン型教室, 2016 年 12 月 3 日.
225. 阪井和男, 「信州エクスターンシップで試行したドロッカーのフィードバック法と特性的自己効力感尺度の変化」, 次世代大学教育研究会, 第 124 回次世代大学教育研究会, 愛媛大学城北キャンパス(愛媛県松山市), 2016 年 12 月 3 日.
226. Sandra Healy, Yasushi Tsubota, Yumiko Kudo, "Online Collaboration With Filipino Teachers", JALT2016: Transformation in Language Education, WINC Aichi, Nagoya, November, 2016. (査読有)
227. 阪井和男, 「特性的自己効力感尺度の変化でみる学習効果 ～阪井ゼミ学生による東北大震災復興支援活動～」, 次世代大学教育研究会, 第 123 回次世代大学教育研究会, 創成館高等学校(長崎県諫早市), 2016 年 11 月 20 日.
228. 阪井和男, 「信州エクスターンシップ・アンケート分析結果 ～創造的対立による優れたチームへ～」, 長野県若年層人材戦略研究会・明治大

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

学社会イノベーション・デザイン研究所,「信州エクスターンシップ事業」成果報告, JA 長野県ビル, 2016 年 10 月 17 日.
229. 阪井和男,「ドラッカーの社会生態学」,ドラッカー学会,ドラッカーの小さな学校, 明治大学, 2016 年 9 月 17 日.
230. 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男・新田目夏実,「英語コミュニケーション活動導入に向けた課題: 運用に関する項目の検討」, 日本教育工学会, 大阪大学(豊中キャンパス), 2016 年 9 月 17 日.
231. 原田康也・森下美和・伊藤篤,「ICT による観光資源開発支援と多言語ホスピタリティ・コミュニケーション」, 日本認知科学会第 33 回大会 OS10 ICT による観光資源開発支援:心理学的効果を応用した期待感向上, 日本認知科学会, 2016 年 9 月 16 日.
232. 阪井和男,「<創造性の近未来 2> 新サービスは、どこから、誰によって どのように生まれるのか?」, 近未来研究会, 明治大学, 2016 年 9 月 16 日.
233. Yasunari Harada & Miwa Morishita, "Reproduction and Elicited Production of English Question Sentences by Japanese EFL Learners," the 22nd AMLaP conference, Architectures and Mechanisms for Language Processing, BCBL: Basque Center on Cognition, Brain and Language and UPV-EHU, University of the Basque Country, Bilbao, Spain, 2016 年 9 月 2 日.
234. Miwa Morishita, Franklin Chang & Yasunari Harada, "How L2 Proficiency Interacts with Structural Priming in Japanese EFL Learners," the 22nd AMLaP conference, Architectures and Mechanisms for Language Processing, BCBL: Basque Center on Cognition, Brain and Language and UPV-EHU, University of the Basque Country, Bilbao, Spain, 2016 年 9 月 2 日.
235. 戸田博人・香山裕子・小田有希子・小枝浩,「学習履歴を基にした社会人学習者の学習スタイル調査」, 教育システム情報学会 全国大会, 2016 年 8 月 29 日.
236. 吉澤潔・阪井和男・川井真,「信州エクスターンシップ ～若年層人材戦略の再起動へ～」, 次世代大学教育研究会, 第 120 回次世代大学教育研究会, 信州大学松本キャンパス, 信州大学全学教育機構, 2016 年 8 月 23 日.
237. 坪田康・山元龍・工藤由美子,「オンラインビデオ教材を利用した英語レポート活動の実践について:English Central と QQ English の活用を中心に」, 第 119 回次世代大学教育研究会, 於 早稲田大学, 2016 年 7 月.
238. 鍋井理沙・坪田康・原田康也,「『仕事で英語が使える』能力育成のための英語スピーキング活動デザイン:発音能力・情意要因・聞き手による印象評価を中心に」, 第 119 回次世代大学教育研究会, 於 早稲田大学, 2016 年 7 月.
239. Yasushi Tsubota, Lisa Nabei, Yumiko Kudo, "English Speaking Practice in Collaboration with Foreign Language Speakers at Distance Places - Task Design Based-on Multiple Intelligences Theory -", International Symposium on Multiple Intelligences in Meiji University (MIIM2016), Meiji University, Tokyo, July, 2016.(査読無)
240. 戸田博人・有賀三夏・阪井和男,「多重知能分析アンケートによる芸術系ワークショップ分析」, MIIM2016 国際シンポ「多重知能理論の展開と深化」, 2016 年 7 月 16 日.
241. 原田哲男・原田康也・赤塚祐哉,「【討議】英語学習の生涯接続:批判的思考力・表現力獲得のための英語学習」, 第 119 回次世代大学教育研究会・英語教育の国際化研究会, 主催:次世代大学教育研究会・共催 NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・情報コミュニケーション学会・教育の国際化研究会, 早稲田大学 8 号館, 2016 年 7 月 2 日.
242. 鈴木正紀・森下美和・原田康也,「日本人大学生の英語知識と運用能力:言語知識と 4 技能の測定」, 第 119 回次世代大学教育研究会・英語教育の国際化研究会, 主催:次世代大学教育研究会・共催 NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・情報コミュニケーション学会・教育の国際化研究会, 早稲田大学 8 号館, 2016 年 7 月 2 日.
243. 柚木泰彦・片上義則・有賀三夏・古藤浩・早野由美恵・三橋幸次・渡部桂,「児童の協働による課題解決型ワークショップのプログラム開発」, 日本デザイン学会 第 63 回春季研究発表大会, 長野大学, 2016 年 7 月 1～3 日.
244. 前田尚香・水野義道・坪田康,「タブレットを利用した中国語の自己紹介動画作成とその評価」, 第 1 回次世代看護教育研究会, 於 神戸看護専門学校, 2016 年 6 月.
245. Sandra Healy, Yasushi Tsubota, Yumiko Kudo, "Task-based Collaboration Using Skype with Filipino Teachers, Task-Based Language Teaching, Ryukoku University, Kyoto, June, 2016.(査読有)
246. 内藤隆, 青少年の受験期における身体活動量の変化(第 1 報), 第 25 回日本健康教育学会学術大会, 沖縄科学技術大学院大学(沖縄県国頭郡), 2016 年 6 月 12 日.
247. 鈴木正紀・森下美和・原田康也,「言語技術の言語評価への応用:多様な英語能力の測定」, 電子情報通信学会思考と言語研究会, 小樽商科大学, 2016 年 6 月 3 日.
248. 坪田康・工藤由美子,「外国語スピーキング活動における学習記録の検討(続)」, 第 117 回次世代大学教育研究会, 於 大阪経済大学, 2016 年 5 月.
249. Masanori Suzuki, Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Application of Language Technology to Language Assessment measuring different aspects of language proficiency of Japanese learners of English with different automated tests," Spring Joint Conference of English Linguistics Society of Korea and Korean Society for Language and Information, Kyung Hee University, Seoul, 2016 年 5 月 28 日.
250. 阪井和男,「基調講演「地域経済社会の若年層人材戦略 ～青年期としての学生・若手社員・組織を 本気にさせる『信州エクスターンシップ』へ」」, 長野県若年層人材戦略研究会, 長野県庁, 2016 年 5 月 19 日.
251. 坪田康・工藤由美子,「外国語スピーキング活動における学習記録法の検討(仮)」(発表キャンセル), 第 116 回次世代大学教育研究会, 於 長崎大学, 2016 年 4 月.
252. 原田康也・森下美和,「ウェアラブルカメラは何を視るか?:日本人英語学習者のインタラクション(相互行為)を通じた自律的相互学習プロセス解明を目指して」, 第 116 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, 長崎大学 ICT 基盤センター・NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催, 長崎大学 ICT 基盤センターセミナールーム, 2016 年 4 月 16 日.
253. *原田康也・森下美和,「街場の言語科学:芸術思考とデータサイエンス」, 第 115 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, 東北芸術工科大学創造性開発研究センター・NPO 法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会・芸術思考研究会共催, 東北芸術工科大学 デザイン工学実習棟A(通称:プロダクトの実習棟) 1F, 2016 年 3 月 24 日.
254. *戸田博人・阪井和男,「教授設計の視点とワークショップへの導入」, 次世代大学教育研究会, 第 115 回次世代大学教育研究会, 東

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.

255. *庄司博幸, 「創造性を鍛える遠足 ー何が創造性を鍛えるのかー」, 第 115 回次世代大学教育研究会, 東北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.
256. *村山眞理・有賀三夏・池田智之, 「多様性は芸術思考を育むか」, 115 回次世代大学教育研究会, 東北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.
257. *柚木泰彦, 「デザイン思考の探究型学習への適用を目指して」, 115 回次世代大学教育研究会, 東北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.
258. *渡部桂・早野由美恵, 「デザイン思考ワークショップの実践報告」, 115 回次世代大学教育研究会, 東北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.
259. *青山ひろゆき, 「芸術思考ワークショップの実践報告」, 115 回次世代大学教育研究会, 東北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.
260. *戸田博人・阪井和男, 「教授設計の視点とワークショップへの導入」, 115 回次世代大学教育研究会, 東北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.
261. 庄司博幸, 「創造性を鍛える遠足」, 第 115 回次世代大学教育研究会, 東北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.
262. Yasunari Harada & Miwa Morishita, "Promoting and Prompting Japanese University Students to Ask Questions in English Classes," the 51st RELC International Conference on Teaching Literacies: Emerging Pathways and Possibilities in Language Education, 15th March, 2016.
263. 原田康也・鈴木正紀, 「多様な英語能力の測定: Versant English Test・Versant Writing Test・Oxford Quick Placement Test などからの知見」, 日本英語教育学会第 46 回年次研究集会: 言語テストと高大接続, 日本英語教育学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2016 年 3 月 13 日.
264. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者のインタラクション(相互行為)を通じた自律的相互学習プロセス解明を目指して: アクションカメラ・ウェアラブルカメラの選定と運用」, 日本英語教育学会第 46 回年次研究集会, 早稲田大学, 2016 年 3 月 12~13 日.
265. 原田康也・富田英司・森下美和, 「国際交流ルーブリックの開発: 海外研修プログラムの評価測定基準策定に向けて」, 日本英語教育学会第 46 回年次研究集会: 言語テストと高大接続, 日本英語教育学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2016 年 3 月 12-13 日.
266. 山田寛章・森下美和・原田康也, 「日本人英語学習者のインタラクション(相互行為)を通じた自律的相互学習プロセス解明を目指して: アクションカメラ・ウェアラブルカメラの選定と運用」, 日本英語教育学会第 46 回年次研究集会: 言語テストと高大接続, 日本英語教育学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2016 年 3 月 12-13 日.
267. 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男, 新田目夏実, 「大学英語教育における発話/会話活動の実態と課題」, 日本英語教育学会, 第 46 回年次研究集会, 早稲田大学(早稲田キャンパス), 2016 年 3 月 12 日.
268. 原田康也・森下美和, 「外国語でのインタラクション(やりとり)に見られる言語能力の創発と自律的相互学習」, ワークショップ『やりとりの中の言語能力: 外国語スピーキング活動の評価・実践・データ分析をめぐる』, 九州大学, 2016 年 3 月 7 日.
269. 坪田康・工藤由美子, 「遠隔地の外国語話者との協働によるスピーキング活動ー学習者不安・フィードバックを中心にー」, ワークショップ『やりとりの中の言語能力: 外国語スピーキング活動の評価・実践・データ分析をめぐる』, 於 九州大学 西新キャンパス, 2016 年 2 月.
270. *戸田博人・阪井和男・森憲一・森貴子, 「企業業績に直接貢献する教育プログラムの ID モデルによる分析」, 情報コミュニケーション学会, 情報コミュニケーション学会第 13 回全国大会, 2016 年 2 月 28 日.
271. 戸田博人・阪井和男・森憲一・森貴子・原田康也, 「ドラッカーの 5 つの質問からみる組織イノベーションの活動特性」, 情報コミュニケーション学会, 第 13 回全国大会, 大阪電気通信大学(大阪府寝屋川市), 2016 年 2 月 28 日.
272. *阪井和男・有賀三夏・村山眞理・戸田博人・大島伸矢, 「因子分析による多重知能分析アンケートの開発」, 電子情報通信学会思考と言語研究会(TL)「芸術思考・デザイン思考、及び思考と言語一般」, TL2015-63, 2016 年 1 月 30 日.
273. *有賀三夏・村山眞理・秋山ゆかり・戸田博人・阿部明典・原田康也・阪井和男, 「[パネル討論]オーガナイズドセッション: 芸術思考とデザイン思考」, 電子情報通信学会思考と言語研究会, 明治大学, 2016 年 1 月 30 日.
274. 古藤浩, CO2 排出量に関する微分方程式の諸国家データへのあてはめと解釈, グローバル・インフラストラクチャーの OR 研究会, GIF 財団会議室, 東京, 2016 年 1 月 22 日.
275. 阪井和男・戸田博人・森憲一・森貴子・原田康也, 「企業組織こそ青年期の不安を克服せよ! 〜ドラッカー原理からみる組織イノベーションの活動特性〜」, 第 113 回次世代大学教育研究会, 琉球大学法文学部(沖縄県中頭郡), 新棟 111 教室, 2016 年 1 月 9 日.
276. 坪田康, 「ICTを活用した外国語スピーキング活動の充実化」(トーク), 第 42 回関西音声合同ゼミ, 於 京都工芸繊維大学, 2015 年 12 月.
277. 坪田康・工藤由美子, 「遠隔地の英語話者との協働によるスピーキング授業の試み」, 第 112 回次世代大学教育研究会&情報コミュニケーション学会, 於 福岡県福岡市, 2015 年 12 月.
278. 内藤隆, 『受験生体操』〜受験生に体操が必要なわけ, NSCA ジャパン S&Cカンファレンス 2015, 国士舘大学(世田谷キャンパス), 2015 年 12 月 5 日.
279. 坪田康・工藤由美子, 「遠隔地の英語話者との協働によるプレゼンテーション授業の充実化 〜フィリピン人英語講師の授業参加を例として〜」, 京丹後市ふるさとテレワーク全国研究会, 於 京都府京丹後市, 2015 年 11 月.
280. Yasushi Tsubota, Yumiko Kudo, "Collaborative Activities with English Teachers at the Philippines", The 111-th Meeting on Higher Education for the Next Generation Philippine-Japan International Roundtable Conference on TESOL in ASIA ーConnecting the Philippines and Japan through English Educationー, 2015.11.(査読無)
281. 坪田康・工藤由美子, 「英語スピーキング授業における他者の存在 〜フィリピン人英語講師のオンライン・オフラインの授業参加を例として〜」, 第 110 回次世代大学教育研究会, 於: 早稲田大学, 2015 年 10 月.
282. 内藤隆・永井優子, 青少年の身体活動量に受験が及ぼす影響, 第 110 回次世代大学教育研究会, 早稲田大学(早稲田キャンパス), 2015 年 10 月 3 日.
283. 坪田康, 「学部向け英語スピーキング授業におけるインタラクションの分析」, 第 32 回日本認知科学会, 於: 千葉大学, 2015 年 9 月.(査読あり)
284. 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男・新田目夏実, 「学習継続意欲を高めるために: カラメンソッドを用いた発話ドリルに関するインタビューから」, 教育工学会(JSET), 第 31 回全国大会(電気通信大学), 2015 年 9 月 21~23 日, 2015 年 9 月 21 日.
285. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者のインタラクション(相互行為)を通じた自律的相互学習プロセス解明に向けて」, 日本認知科学会第 32 回大会(OS10)オーガナイズドセッション: 相互作用(インタラクション)を通じた英語の学習効果に関する認知科学的観点からの

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

検討, 千葉大学, 2015 年 9 月 18 日. 286. *<u>阪井和男</u>・<u>有賀三夏</u>・<u>戸田博人</u>・<u>大島伸矢</u>, 「多重知能分析アンケートと生活環境アンケートを用いた重回帰分析と構造方程式モデリングによる行動特性の抽出」, 第 109 回次世代大学教育研究会, メルカつきまち会議室(長崎), 2015 年 9 月 12 日. 287. <u>戸田博人</u>・<u>香山裕子</u>・<u>小田有希子</u>, 「e ラーニングの学習履歴を基にした社会人の学習者特性調査」, 教育システム情報学会 全国大会, 2015 年 9 月 2 日. 288. *<u>阪井和男</u>・<u>有賀三夏</u>・<u>戸田博人</u>・<u>大島伸矢</u>, 「因子分析による多重知能分析アンケートの開発」, 第 108 回次世代大学教育研究会, 株式会社ディスコ西部支社会議室(博多), 2015 年 8 月 22 日. 289. <u>原田康也</u>・<u>首藤佐智子</u>・<u>森下美和</u>, 「インタラクションを通じた自律的相互学習:マイクは発言者としての役割を自他に明示することで学習者の発言を促す」, 第 107 回次世代大学教育研究会, 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス, 2015 年 7 月 11 日. 290. <u>阪井和男</u>・<u>宮原俊之</u>, 「e ラーニングにおけるコーチング ～ラーニングコンシェルジュの発想と現状～」, 第 106 回次世代大学教育研究会, 北海学園大学(札幌市), 2015 年 6 月 27 日. 291. <u>Yasunari Harada</u> & <u>Miwa Morishita</u>, "Integration of research and learning in language learning: data collection and phonological loop enhancement," The 18th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, Kyung Hee University, Seoul, 2015 年 5 月 22 日. 292. <u>阪井和男</u>, 「創造的グループ思考:交流制約法(TCoM) ～2 時間でできる課題探究と解の創出～」, 第 104 回次世代大学教育研究会, メルカつきまち(長崎市), 2015 年 4 月 18 日. 293. *<u>秋山ゆかり</u>・<u>有賀三夏</u>・<u>阪井和男</u>, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会研究奨励賞「新規事業を生み出す芸術思考」, 2015 年 3 月 23 日. 294. <u>原田康也</u>・<u>森下美和</u>, 「インタラクションを通じた英語の自律的相互学習:カメラは今・ここを映すことで学習を促す」, 日本英語教育学会 第 45 回年次研究集会, 早稲田大学, 2015 年 3 月 7 日. 295. <u>坂本美枝</u>・<u>半田純子</u>・<u>宍戸真</u>・<u>阪井和男</u>・<u>新田日夏実</u>, 「英語アウトプット活動における学習者支援:感情的要素から導かれる方略」, 日本英語教育学会 第 45 回年次研究集会, 早稲田大学, 2015 年 3 月 7 日. 296. *<u>原田康也</u>・<u>森下美和</u>, 「言語教育と教養教育を統合する芸術思考:『人工知能からサイバーパンクまで』再考」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 3 月 1 日. 297. *<u>古藤浩</u>・<u>片桐隆嗣</u>, 「アンケート調査と多重知能理論による芸術系ワークショップ参加者の主観的成長感」, 情報コミュニケーション学会 第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 2 月 28 日. 298. *<u>秋山ゆかり</u>・<u>有賀三夏</u>・<u>阪井和男</u>, 「新規事業を生み出す芸術思考」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 2 月 28 日. 299. *<u>村山真理</u>・<u>有賀三夏</u>・<u>池田知之</u>, 「芸術思考を育む「場」の構築—大学間連携による授業実践の報告」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 3 月 1 日. 300. <u>中島進</u>・<u>永谷研一</u>, 「タブレット活用した子どもが主役になる授業スタイルの模索」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 2 月 28 日. 301. <u>戸田博人</u>, 「デザイン思考とクリエイティブ・グループシンキングとの接合」, 明治大学サービス創新研究所成果発表会, 明治大学, 2015 年 2 月 22 日. 302. <u>阪井和男</u>, 「創造的グループ思考「交流制約法(TCoM)」 ～2 時間でできる課題探究と解の創出～」, 明治大学サービス創新研究会, 明治大学, 2015 年 2 月 22 日. 303. <u>阪井和男</u>・<u>井出祥子</u>・<u>原田康也</u>・<u>片桐恭弘</u>, 「インタラクションによる意図せざる結果の招来:発言行為理論の破たんと場における意図と解釈の創発」, 第 102 回次世代大学教育研究会, ディスコ西部支社(博多), 2015 年 2 月 21 日. 304. <u>庄司博幸</u>, 「R.エプスタイン『自己管理者としてのスキナー』に学ぶ科学的自己管理の方法」, 第 65 回教育臨床学研究会例会, 学習力創造アカデミー, 2015 年 2 月 21 日. 305. <u>原田康也</u>・<u>森下美和</u>, 「共同学習による同調と自動化:応答練習におけるプロトコルの創発」, 第 101 回次世代大学教育研究会, 琉球大学法文学部, 2015 年 1 月 10 日. 306. *<u>秋山ゆかり</u>・<u>有賀三夏</u>・<u>阪井和男</u>, 「新規ビジネスを生み出す芸術思考」, 第 101 回次世代大学教育研究会, 琉球大学法文学部, 2015 年 1 月 10 日. 307. <u>阪井和男</u>, 「場による意図せざる結果 ～「当事者間の了解」に関する無限後退問題の打ち切り～」, 場の言語学研究会(, 科研費挑戦的萌芽研究「場の言語学の構築:場と意味の創発」), 早稲田大学, 2014 年 12 月 21 日. 308. <u>原田康也</u>・<u>森下美和</u>, 「大学英語教育における知識と運用の統合:文法知識の運用課題と実体的コミュニケーションの場の提供」, 電子情報通信学会思考と言語研究会, 大阪電気通信大学寝屋川駅前キャンパス, 2014 年 12 月 20 日. 309. <u>阪井和男</u>・<u>戸田博人</u>・<u>栗山健</u>, 「場の効果と場を介在するスキル学習」, 第 100 回次世代大学教育研究会, 愛媛大学(松山市), 2014 年 12 月 13 日. 310. <u>星加良司</u>・<u>戸田博人</u>, 「法改正に対応した企業としての合理的配慮とは? —障害者と共に働く職場づくりを目指した研修プログラム—」, e-Learning awards 2014, 2014 年 11 月 14 日. 312. *<u>古藤浩</u>, 「芸術活動による知能開発の方向性と可能性」, セッション 1「芸術思考 1」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会, 東北芸術工科大学, 2014 年 11 月 8 日. 313. *<u>阪井和男</u>・<u>戸田博人</u>・<u>内藤隆</u>・<u>有賀三夏</u>・<u>片桐隆嗣</u>, 「行動観察を用いた多重知能理論にもとづく芸術系ワークショップの評価と特徴」, セッション 1「芸術思考 1」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会, 東北芸術工科大学, 2014 年 11 月 8 日. 314. *<u>村山真理</u>・<u>有賀三夏</u>・<u>阪井和男</u>, 「生きる力を育む芸術思考」, セッション 1「芸術思考 1」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会, 東北芸術工科大学, 2014 年 11 月 8 日. 315. <u>Kazuo SAKAI</u>, <u>Hiroto TODA</u> and <u>Ken KURIYAMA</u>, "Conceptual Model Integrating Skill Learnings Mediated by 'BA'", Workshop on Higher Education for the Next Generation 2014 in Malaysia, Higher Education for Next-Generation on Creation and Emergence of the

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

Knowledge, Malaysia-Japan International Institute of Technology, 31 Oct. 2014.

316. 渡部泰山, 「日中戦争に反対し獄死した洞門僧がいたー平和と民主主義を唱え続けたエスペランティスト斉藤秀一」, 現代宗教研究会, 名古屋市ホテル・ウエスト, 2014 年 10 月 13 日.

317. 阪井和男, 「社会生態学(知の新領域を開く)」, 文眞堂, 『ドロッカー(人・思想・実践)』, ドロッカー学会, 第 9 章, pp. 161-171, 2014 年 10 月 1 日.

318. 森下美和・原田康也, 「日本人英語学習者の Wh 疑問文運用能力に関する予備調査:心理言語学的研究に向けて」, 日本認知科学会 第 31 回大会ポスター2+フラッシュトーク, pp. 2-25, 名古屋大学, 2014 年 9 月 19 日.

319. *阪井和男・戸田博人・内藤隆・有賀三夏・片桐隆嗣, 「行動観察を用いた多重知能理論にもとづく芸術系ワークショップの評価と特徴」, 第 97 回次世代大学教育研究会(長崎市), 2014 年 9 月 13 日.

320. 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男, 「カランメソッドを用いた英語発話練習:オンライン・マンツーマン指導」, 2014 年日本教育工学会 第 30 回全国大会, 岐阜大学, 2014 年 9 月 12 日.

321. 原田康也・森下美和, 「技術(スキル)としての英文法(その 6):自動化訓練プログラム開発のためのデータ収集」, 言語研究アソシエーション 辞書プロジェクト第 2 期第 5 回会議, ちよだプラットフォームスクウェア 5F 会議室 503, 2014 年 8 月 29 日.

322. 原田康也・森下美和, 「技術(スキル)としての英文法(その 5):アルゴリズム体操+データ収集 = 自動化訓練プログラム」, 第 96 回次世代大学教育研究会, ディスコ 東北支社会議室, 2014 年 8 月 2 日.

323. 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男, 「カランメソッドを使用したオンライン英会話活動は何をもたらすか:学習効果と学習姿勢への影響」, 第 96 回次世代大学教育研究会, ディスコ(仙台), 2014 年 8 月 2 日.

324. 原田康也・森下美和, 「技術(スキル)としての英文法(その 4):文法的冗長性の活用訓練へ」, 第 95 回次世代大学教育研究会, 神戸学院大学有瀬キャンパス, 2014 年 7 月 12 日.

325. 阪井和男・富田英司・坪田康・原田康也・森下美和, 「パネルディスカッション:教材作成とデータ収集・分析の多様なツール」, 第 95 回次世代大学教育研究会, 神戸学院大学有瀬キャンパス, 2014 年 7 月 12 日.

326. 阪井和男・戸田博人・栗山健, 「場を介在するスキル学習を統合する概念モデルの提案」, 情報コミュニケーション学会 第 13 回研究会, 2014 年 7 月 5 日.

327. 河村まゆみ・遠藤智子・横森大輔・原田康也, 「自律的英語学習環境におけるプロトコルの創発」, 場の言語学ワークショップ「コミュニケーションの創発」, 早稲田大学 8 号館 3 階会議室, 2014 年 6 月 22 日.

328. 阪井和男, 「イノベーション創発の数理モデル」, 早稲田大学情報教育研究所, 場の言語学ワークショップ「コミュニケーションの創発」, 2014 年 6 月 22 日.

329. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者の英語疑問文産出にみられる傾向:自動化のための訓練の必要性」, 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 早稲田大学, 2014 年 6 月 21 日.

330. 山田寛章・石井雄隆・原田康也, 「日本人大学生の英語作文からの特徴量の自動抽出に向けて:予備実験と今後の課題」, 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 早稲田大学, 2014 年 6 月 21 日.

331. 阪井和男・戸田博人・栗山健, 「スキル学習のプロセスモデル ~野中の SECI モデルとカーネマンの 2 つのシステムを統合するモデルの提案~」, 第 94 回次世代大学教育研究会, スマイルホテル函館, 2014 年 6 月 14 日.

332. Nakamura, Chie, Arai, Manabu, Harada, Yasunari & Hirose, Yuki, "L2 learners' use of verb subcategorization information in processing filler-gap dependencies," 第 14 回日本第二言語習得学会年次大会(J-SLA2014), 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス, 2014 年 5 月 31 日. (2014 年度 J-SLA 優秀口頭発表賞)

333. 戸田博人, 「学習履歴分析による e-Learning 学習者特性調査」, 教育 IT ソリューション EXPO 公開セミナー, 2014 年 5 月 21 日.

334. Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Why do you think it is so difficult for the Japanese students to ask questions in English?: Cognitive Difficulty of Producing Question Sentences for Japanese Learners of English," The 16th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, Kyung Hee University, Seoul, 2014 年 5 月 9 日.

335. Miwa Morishita, Franklin Chang & Yasunari Harada, "Structural Priming and Lexical Boost in Early L2 Learners," AAAL, 2014 年 3 月 24 日.

336. Yasunari Harada & Miwa Morishita, "Japanese EFL Learners' Cognitive Difficulty in Producing English Question Sentences," AAAL, 2014 年 3 月 24 日.

337. 内藤隆, 「青少年の運動実践を促進する『ワークショップ型授業』の開発」, 芸術思考研究会, 明治大学グローバルフロント 7F C4 会議室, 2014 年 3 月 21 日.

338. 阪井和男, 「パフォーマンスで能力は測れるか? ~動機のマネジメントと活きた現場の KPI の発見~」, NPO 法人 人材育成マネジメント研究会, ICT 利活用教育分科会, 2014 年 3 月 15 日.

339. 阪井和男・永井優子・齊藤博美・今道正博, 「東日本大震災ニュースソースとタブレット型電子デバイスのクラウド活用による科学的思考法ワークショップにおける教育効果の解析」, 情報コミュニケーション学会 第 11 回全国大会(長崎大学), 2014 年 3 月 2 日.

340. 森下美和・原田康也, 「日本人英語学習者の構文処理:疑問文の統語形態論的複雑性」, 日本英語教育学会 第 44 回年次研究集会『『グローバル人材育成』を考える』, 日本英語教育学会, 早稲田大学, 2014 年 3 月 2 日.

341. 遠藤智子・河村まゆみ・横森大輔・原田康也, 「日本人英語学習者の定形表現習得の難しさについて」, 日本英語教育学会 第 44 回年次研究集会『『グローバル人材育成』を考える』, 日本英語教育学会, 早稲田大学, 2014 年 3 月 1 日.

342. *浅井由剛・有賀三夏・栗山健・阪井和男・庄司博幸・坪田康・戸田博人・寺尾敦・内藤隆・中込敏寛・永谷研一・本間真・森憲一・山本康治, 公開討論「芸術思考ワークショップをデザインする」, 第 91 回次世代大学教育研究会, 2014 年 2 月 1 日.

343. *原田康也, 「芸術思考と言語ワークショップ:思考と言語と身体と」, 第 91 回次世代大学教育研究会「芸術思考をデザインする」, 東北芸術工科大学, 2014 年 2 月 1 日.

344. 原田康也・鍋井理沙, 「技術としての英文法 (3):リスニングにおける文法知識の活用調査」, 第 90 回次世代大学教育研究会, 次世代大

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

学教育研究会主催, NPO 法人人材育成マネジメント研究会共催, 沖縄産業支援センター, 2014 年 1 月 11 日. 345. Yasunari Harada, Mayumi Kawamura, Daisuke Yokomori, and Tomoko Endo, "That's all. Thank you." Emergence of Formulaic Protocols among Japanese EFL Learners," SemDial 2013, The 17th Workshop on the Semantics and Pragmatics of Dialogue, DialDam, University of Amsterdam, 2013 年 12 月 17 日. 346. Chie Nakamura, Manabu Arai and Yasunari Harada, "Use of Verb Subcategorization Information in L2 Sentence Processing," Workshop on Linguistic Analyses of Foreign Language Learning: Automatization in Real-Time Comprehension and Production in conjunction with The 15th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, Waseda University, 2013 年 12 月 15 日. 347. Risa Nabei and Yasunari Harada, "Comprehension of unstressed elements in English sentences by Japanese learners of English," Workshop on Linguistic Analyses of Foreign Language Learning: Automatization in Real-Time Comprehension and Production in conjunction with The 15th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, Waseda University, 2013 年 12 月 15 日. 348. Tomoko Endo, Daisuke Yokomori, Mayumi Kawamura, Masanori Suzuki and Yasunari Harada, "'That's all. Thank you.': A case of naturally-occurring cooperative learning in Japanese EFL classrooms," Workshop on Linguistic Analyses of Foreign Language Learning: Automatization in Real-Time Comprehension and Production in conjunction with The 15th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, Waseda University, 2013 年 12 月 15 日. 349. *奥田修史・阪井和男,「未来に求められる芸術思考」, 東北芸術工科大学創造性開発研究センターシンポジウム「小中高生の生きる力を育む芸術思考の可能性(東北で挑戦する、創造性開発)」, 2013 年 12 月 15 日. 350. 鍋井理沙・原田康也, 「日本人英語学習者の英語リスニング; ディクテーション課題における非強勢要素の聞き取りと書き起こし」, 電子情報通信学会思考と言語研究会, 早稲田大学, 2013 年 12 月 14 日. 351. 阪井和男, 「ドラッカーはなぜマネジメントを 発明したのか? ヘッドラッカーの社会生態学へ」, 日本ケーブルテレビ連盟信越支部, 平成 25 年度日本ケーブルテレビ連盟信越支部講演会, ホテルメトロポリタン長野, 2013 年 12 月 11 日. 352. 原田康也, 「自己評価・相互評価とプロジェクト管理: 自己肯定感向上を通じた動機付けの実践」, 第 89 回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, NPO 法人人材育成マネジメント研究会共催, 愛媛大学, 2013 年 12 月 7 日. 353. 阪井和男・永井優子・齊藤博美・今道正博, 「東日本大震災のニュースソースと電子デバイスを活用した科学的思考法の入門ワークショップにおける教育効果」, 第 89 回次世代大学教育研究会, 愛媛大学(愛媛県松山市), 2013 年 12 月 7 日. 354. Kazuo Sakai, Takashi Naito, Kenichi Mori, Takako Mori, Shuji Harada, Takayuki Nakagawa, "Fluctuation of Innovations Characterizing the Activities of High-Performance Teams - Visualization of Innovation Processes in terms of Innovation Diagram -", Hawaii University, and Meeting on Higher Education for the Next Generation, ICHE2013: International Conference on Higher Education for the Next Generation in Honolulu 2013, Hawaii University, Manoa Campus, Nov. 22, 2013. 355. 戸田博人・香山裕子・西村りさ・三橋朋子・小田有希子・是永綾子, 「学習履歴分析による e-Learning コースタイプ別学習者特性調査」, 日本 e-Learning 学会, 2013 年度(10 周年記念)学術講演会, 2013 年 11 月 22 日. 356. 阪井和男, 「次世代大学の使命と 未来を担う若者たち」, 明治大学社会イノベーション・デザイン研究所, 河北新報社(仙台市), 2013 年 9 月 28 日. 357. 原田康也, 「グローバル人材養成ギブス: コミュニケーション能力涵養を主体とする大学英語教育」, 第 86 回次世代大学教育研究会, 創成館高等学校, 2013 年 9 月 21 日. 358. *阪井和男・有賀三夏, 「近代教育制度の根源的問題とその処方箋としての『芸術思考』」, 第 86 回次世代大学教育研究会, 創成館高等学校(長崎県諫早市), 2013 年 9 月 21 日. 359. 首藤佐智子・原田康也, 「残念な言語現象—ポライトネスの耐えられない矛盾」, 日本認知科学会第 30 回大会ポスター発表, 玉川大学視聴覚センター, 2013 年 9 月 14 日. 360. 森下美和・原田康也, 「日本人英語学習者の言語産出における動詞の下位範疇化情報の使用: 統語的プライミング実験データの質的再分析」, 日本認知科学会第 30 回大会ポスター発表, 玉川大学視聴覚センター, 2013 年 9 月 14 日. 361. 横森大輔・遠藤智子・河村まゆみ・鈴木正紀・原田康也, 「日本語母語話者の英語発話にみられるフィラーの使用ストラテジー」, 日本認知科学会第 30 回大会口頭発表, 玉川大学視聴覚センター, 2013 年 9 月 12 日. 362. Yasunari Harada and Miwa Morishita, "Syntactic Priming Effects Revisited: Reconsidering Potential Priming Effects in Interactional Tasks by Japanese EFL Learners," Cross-linguistic Priming in Bilinguals: Perspectives and Constraints, Huize Heyendaal, Radboud University Nijmegen, 2013 年 9 月 10 日. 363. Chie Nakamura, Manabu Arai and Yasunari Harada, "Priming of an initially adopted structure in L2 processing," 19th Architectures and Mechanisms for Language Processing (AMLp 2013), Aix-Marseille University, Marseille, France, 2013 年 9 月 2 日. 364. 阪井和男・内藤隆, 「ハイパフォーマンスチームの活動から見出された適応型イノベーション・サイクル」, 第 85 回次世代大学教育研究会, メルカつきまち(長崎市), 2013 年 8 月 17 日. 365. 内藤隆, 「ワークショップ理論の整理 —身体ワークショップの開発に向けて」, 第 85 回次世代大学教育研究会, メルカつきまち(長崎市), 2013 年 8 月 17 日. 366. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者の言語処理と言語運用能力: Versant English Test のスコアを中心に」, 電子情報通信学会思考と言語研究会・MAPLL 2013 共催研究会, 関西学院大学梅田キャンパス, 2013 年 8 月 3 日. 367. 阪井和男, 「成果を出す秘訣としての集中と解放の原理」, 第 84 回次世代大学教育研究会(明治大学), 2013 年 7 月 6 日. 368. Yasunari Harada, "'Global Human Resource Development' in Japan and Theory of Knowledge in International Baccalaureate," ICEL 2013: 2013 International Conference on English Linguistics, Korea University and Korea Military Academy, Seoul, 2013 年 7 月 5 日. 369. Chie Nakamura, Manabu Arai and Yasunari Harada, "Syntactic priming of the initial analysis in L2 comprehension: Evidence from a self-paced reading study with Japanese EFL learners," 言語科学会第 15 回年次国際大会 (JSLS2013), 活水女子大学, 2013 年 6 月 29 日. 370. 阪井和男, 「交流制約法と適応型イノベーション・サイクル」, 明治大学サービス創新研究所 サービス創新 Lab.Vol.4「お客様の事、知ってますか?」ワークショップ, 明治大学文明とマネジメント研究所(明治大学), 2013 年 6 月 24 日.
--

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

371. 阪井和男・内藤隆・森憲一・森貴子・中村雄一郎・中川貴之,「談話分析によるハイパフォーマンスチームのイノベーションプロセスのモデル化 ～会社を超えた半年間の実践的人材育成研修後の振り返り分析～」,電子情報通信学会思考と言語研究会,筑波大学(春日地区),2013年6月14日。
372. Takeo Tatsumi, Yoshiaki Nakano, Noriaki Kusumoto, Joji Maeno and Yasunari Harada, "To Bear the Unbearable: College-level Information Ethics Education Incorporating Discussions of Ethical Dilemmas," ETHICOMP 2013, University of Southern Denmark, Kolding, Denmark, 2013年6月13日。
373. 阪井和男・内藤隆・森憲一・森貴子・中村雄一郎・中川貴之,「ハイパフォーマンスチームのイノベーション・ダイアグラムによるプロセス解析」,第83回次世代大学教育研究会,ディスコ西部支社会議室(福岡市),2013年6月8日。
374. 阪井和男,「LMS活用で加速するワークショップ形式のアジャイル授業」,第3回C-Learningセミナー,ベルサール飯田橋ファースト(東京・飯田橋),2013年5月31日。
375. 阪井和男・内藤隆・森憲一・森貴子・中村雄一郎・中川貴之,「感情に焦点をあてたハイパフォーマンスチーム特性の交流分析による可視化 ～ネクストワールド・サミットにおける会社を超えた半年間の実践的人材育成研修後の振り返り分析～」,第81回次世代大学教育研究会,明治大学文明とマネジメント研究所(東京),2013年4月20日。
376. 阪井和男・内藤隆・森憲一・森貴子・中村雄一郎・中川貴之,「感情に焦点をあてたハイパフォーマンスチーム特性の交流分析による可視化 ～会社を超えた半年間の実践的人材育成研修後の振り返り分析～」,2013年度サービス学会第1回国内大会(同志社大学),2013年4月10日。
377. *阪井和男・内藤隆,「感情によるワークショップ効果測定法の提案 ～創造的なワークショップでは課題提起者の感情はどう変化するのか～」,電子情報通信学会思考と言語研究会,明治大学文明とマネジメント研究所,2013年2月22日。
378. *阪井和男,「次世代リベラルアーツとしての芸術思考 ～芸術思考が育む『生きる力』～」,第一部『芸術思考キャリアフォーラム山形』構想を考える,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
379. *戸田博人,「企業が求める社会人基礎力と芸術思考」,第一部『芸術思考キャリアフォーラム山形』構想を考える,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
- 380.b*本間真,「就活革命としてのボストンキャリアフォーラム ～世界最大の日英バイリンガル就職イベントの紹介～」,第一部『芸術思考キャリアフォーラム山形』構想を考える,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
381. *有賀三夏(ファンリテーター)・阪井和男・奥田修史・戸田博人・本間真,パネルディスカッション『芸術思考キャリアフォーラム山形』構想を考える,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
382. *永谷研一,「教育イノベーションの到達点としての芸術思考」,第二部「芸術思考は社会の役に立つのか?」,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
383. *内藤隆,「身体表現としてのスポーツから芸術思考を考える」,第二部「芸術思考は社会の役に立つのか?」,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
384. *栗山健,「日本の高等教育の最新動向 ～リベラルアーツ復興に向けた苦闘の現状～」,第二部「芸術思考は社会の役に立つのか?」,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
385. *原田康也,「芸術思考とメタファー:詩と数学と科学と」,第二部「芸術思考は社会の役に立つのか?」,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
386. *森憲一,「芸術思考がビジネスに役に立つ理由」,第二部「芸術思考は社会の役に立つのか?」,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
387. *庄司博幸,「芸術思考は後で効いてくる ～創造性と意志の教育現場より～」,第二部「芸術思考は社会の役に立つのか?」,第79回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」,東北芸術工科大学,2013年2月1日。
388. *阪井和男・有賀三夏,「生きる力を育む芸術思考 ー知的能力の統合的な育成を目指してー」,情報コミュニケーション学会第10回研究会(優秀発表賞),2012年10月6日。
389. *有賀三夏,「アートの発信 ー創作活動から見える表現の可視化ー」,情報コミュニケーション学会第10回研究会,明治大学,2012年10月6日。
390. *阪井和男・有賀三夏,「知性と倫理 ～生きる力を育む芸術思考～」,第71回次世代大学教育研究会,岡山大学,2012年7月28日。
391. *坪田康・壇辻正剛,「Jigsaw reading activity を用いたスピーキング活動の試み」,第71回次世代大学教育研究会,岡山大学,2012年7月28日。
392. *原田康也,「技術(スキル)としての英文法(その1)」,第71回次世代大学教育研究会,岡山大学,2012年7月28日。

<研究成果の公開状況> (上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

・展示会

「創造性開発研究センター2014 活動報告展」,やまがた藝術学舎(東北芸術工科大学),2015年3月21日～4月4日,来場者数203名。

「創造性開発研究センター2015 活動報告展」,東北芸術工科大学北側エントランス,2016年3月25日～4月3日,来場者数159名。

・インターネットでの公開状況

東北芸術工科大学創造性開発研究センター <http://sozo.tuad.ac.jp/>

Art in Life <http://artinlife.org/>

次世代大学教育研究会 <http://nextedu.chiegumi.jp/>

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

＜これから実施する予定のもの＞

・創造性開発研究センターでの研究発表の場を提供していた次世代大学教育研究会や情報コミュニケーション学会にて、関連する研究発表は継続していく。

・最終年度において、ハーバード大学のハワード・ガードナー氏、ペンステート大学のミンディ・コンハーバー氏(MIIM2016 国際シンポ「多重知能理論の展開と深化」(明治大学駿河台キャンパス リバティタワー、2016 年 7 月 16 日招聘)を招聘し「国際シンポジウム」の企画を記したが、実施には至らなかった。本プロジェクト解散後もハーバード大学、ペンステート大学との交流・連携を図り研究は個人研究員単位で継続していく。

1 4 その他の研究成果等

「1 2 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記 1 1 (4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付してください。

※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

＜社会人講座の開講＞

2014 年 7 月 22 日から 2015 年 3 月 28 日まで、東京藝術学舎(外苑キャンパス)において、計 10 回にわたって芸術思考をテーマとする社会人講座「2014 年度 創造の時空学 ～芸術思考のインパクト～『芸術』に秘められたパワーの核心をさぐる連続講座」<前期(5 回)><後期(5 回)>を開催した。

＜山形県高等学校教諭との連携研究会＞

教員向け研究会と高校生対象 WS の実施を通して、デザイン思考教育に関心をもつ教員のネットワークづくりを進めるために、「探究型学習・デザイン思考に関わる研究会」を設置し、2015 年 8 月 5 日、10 月 17 日、2016 年 2 月 14 日、8 月 5 日、2017 年 2 月 12 日の計 5 回にわたって実施した。参加教員は延べ 155 名で、内訳は普通科、工業科、農業科、商業科の高校教諭、県庁高校教育課職員である。共通テーマを「デザイン思考を教育に活かす」とし、デザイン思考 WS 体験とともに、WS を振り返って「探究型学習へのデザイン思考の適用」について検討してきた。これら 5 回の研究会の総括として、2017 年 10 月 21 日 22 日に、「学びの改革 334 プロジェクト 探究型学習研究大会」を実施した。

今後も、教員向け研究会を定期的に開催していく予定である。本研究会は初等中等教育において創造性と問題解決力の育成に関わる教科横断的な試行の機会を拡げていくために、デザイン思考を活用した探究型学習を教育連携をテーマとして、山形県内外の各教育機関の垣根を越えた運動体を目指している。

＜中学校・高等学校におけるデザイン思考に関わる授業実施＞

2016 年 4 月より 2018 年 1 月にかけて、以下の中学校、高等学校において、探究型学習へのデザイン思考の活用とのテーマで授業を実施してきた。

教育連携実績一覧

2016 年 4 月	山形県立東桜学館中学校(計 7 回)
2016 年 9 月	山形県立東桜学館高等学校(計 4 回)
2017 年 5 月	山形県立山形中央高等学校
2017 年 6 月	山形県立新庄南高等学校
2017 年 12 月	山形県立山形東高等学校
2018 年 1 月	埼玉県立芸術総合高等学校

＜高等学校との教育連携協定の締結＞

2018 年度より、山形県立山形東高等学校との教育連携協定を結び、探究科を中心とした教育連携を実施していくこととなった。

＜企業との連携による研究協力＞

多重知能理論ベースのアンケートを実装していた株式会社プライム・ラボ(代表取締役・大島伸矢)と株式会社アルム(代表取締役・坂野哲平)と連携し、本研究のために多重知能分析アンケート票の無償提供を受け、さらにアンケートの妥当性の詳細な検証資料も提供いただき研究発表を共同で行なっている。両社はすでに多重知能理論にもとづく日本語による自動アンケート集計システムを実装し、全国規模の塾「TOMAS」に通う小学生高学年を対象に株式会社アルム(代表取締役・坂野哲平)でサービス提供しており、スポーツパフォーマンス測定会における小中学生を対象としたサービス提供も株式会社プライム・ラボ(代表取締役・大島伸矢)によってなされていた。

同社からは明治大学サービス創新研究所を通じてデータの提供を受けることができたため、同社が作成した多重知能アンケートのテスト理論的な根拠が明らかにされ、学会発表論文として公開できた(論文*56、学会発表*272, 286, 288)。

＜在学生・院生への研究インパクト＞

東北芸術工科大学の学生・卒業生が研究会・学会で論文を書き研究発表を行うという自律的な研究が進展した。2014 年 11 月以降、情報コミュニケーション学会において学部学生・院生と卒業生による発表 10 件(論文*393-402、学会発表*403-413)がなされた。本プロジェクト採択前から頻繁にび次世代大学教育研究会や情報コミュニケーション学会を東北芸術工科大学において開催したことが、学生への研究インパクトとして有効であったことが判明した。

＜学生による研究発表(論文)＞

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

393. 佐藤緑, 2017 年度東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科卒業研究 優秀賞, 「先生の試行錯誤と伴走するコーディネーター」, (山形県立山形中央高等学校との教育連携を取り上げた卒業研究), 2017 年 3 月.
394. *鈴木竜平, 『発想・構想の能力』を伸ばす授業の研究, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 16-20, 2015 年 2 月 28 日. (査読無)
395. *樋口早紀, 「社会で活きる芸術思考」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 48-51, 2015 年 2 月 28 日. 研究奨励賞(査読無)
396. *上遠野里香, 「芸術思考による可視化の実践 計画遂行編 ～Boston Children's Museum での活動を事例として～」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 52-55, 2015 年 2 月 28 日. 優秀発表賞(査読無)
397. *添野美生, 「芸術思考のもたらす、行動の可能性」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 56-59, 2015 年 2 月 28 日. (査読無)
398. *甲斐末樹, 「生徒の関心・意欲を引き出す美術の授業の研究」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 70-75, 2015 年 2 月 28 日. (査読無)
399. *斉藤康雄・布川光郷, 「芸術思考を利用したキャリア講座と講座から派生した学生の課外活動についての一考察」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 106-109, 2015 年 2 月 28 日. (査読無)
400. *川元里紗, 「芸術思考と自己の成長」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会発表論文集, pp. 110-111, 2015 年 2 月 28 日. (査読無)
401. *斉藤康雄・長谷川裕・布川光郷, 「アドバンスト山形講座の現状と今後についての考察」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会発表論文集, pp. 21-26, 2014 年 11 月 8 日. (査読無)
402. *上遠野里香, 「芸術思考による可視化の実践」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会発表論文集, pp. 27-32, 2014 年 11 月 8 日. (査読無)

<学生・院生・卒業生による研究発表(学会発表)>

403. *斉藤康雄・布川光郷, 「芸術思考を利用したキャリア講座と講座から派生した学生の課外活動についての一考察」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 3 月 1 日.
404. *川元里紗, 「芸術思考と自己の成長」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 3 月 1 日.
405. *鈴木竜平, 『発想・構想の能力』を伸ばす授業の研究, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 2 月 28 日.
406. *樋口早紀, 「社会で活きる芸術思考」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 2 月 28 日.
407. *上遠野里香, 「芸術思考による可視化の実践 計画遂行編 ～Boston Children's Museum での活動を事例として～」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 2 月 28 日.
408. *添野美生, 「芸術思考のもたらす、行動の可能性」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 2 月 28 日.
409. *甲斐末樹, 「生徒の関心・意欲を引き出す美術の授業の研究」, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会, 東北芸術工科大学, 2015 年 2 月 28 日.
410. *斉藤康雄・長谷川裕・布川光郷, 「アドバンスト山形講座の現状と今後についての考察」, セッション 2「芸術思考 2」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会, 東北芸術工科大学, 2014 年 11 月 8 日.
411. *上遠野里香, 「芸術思考による可視化の実践」, セッション 2「芸術思考 2」, 情報コミュニケーション学会第 15 回研究会, 東北芸術工科大学, 2014 年 11 月 8 日.
412. *東北芸術工科大学チュートリアル学生有志"Team Art in Life", 「Let's Try ～私たちにとつての芸術思考～」, 第 91 回次世代大学教育研究会, 2014 年 2 月 1 日.

<学生による研究発表(受賞)>

413. *佐藤緑, 2017 年度東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科卒業研究 優秀賞 「先生の試行錯誤と伴走するコーディネーター」, 2017 年 3 月.

<受賞>

414. 原田康也, 早稲田大学ティーチングアワード(2016 年度秋学期)受賞, 早稲田大学ティーチングアワード受賞者一覧(2016 年度秋学期)(<https://www.waseda.jp/inst/ches/news/2017/08/08/1540/>), 対象授業: 日本語教育研究科設置・応用言語学研究, 発表年月日: 2017 年 8 月 8 日.
415. 原田康也, 科学研究費助成事業審査委員平成 28 年度表彰者, 日本学術振興会, 審査委員の表彰 平成 28 年度表彰者一覧(http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26_hyosho/hyousyou2016.html), 発表年月日: 2016 年 9 月 30 日.
416. *柚木泰彦・片上義則・有賀三夏・古藤浩・早野由美恵・三橋幸次・渡部桂, 日本デザイン学会第 63 回春季研究発表大会 グッドプレゼンテーション賞「児童の協働による課題解決型ワークショップのプログラム開発」, 長野大学, 2016 年 7 月 1 日～3 日.
417. 渡部泰山, 平成 27 年度山形大学ベストティーチャー賞, 山形大学, 2016 年 3 月.
418. *秋山ゆかり・有賀三夏・阪井和男, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会研究奨励賞「新規事業を生み出す芸術思考」, 2015 年 2 月 28 日.
419. *村山眞理・有賀三夏・池田知之, 情報コミュニケーション学会第 12 回全国大会研究奨励賞「芸術思考を育む『場』の構築—大学間連携による授業実践の報告」, 2015 年 2 月 28 日.
420. Nakamura, Chie, Arai, Manabu, Harada, Yasunari & Hirose, Yuki, "L2 learners' use of verb subcategorization information in processing filler-gap dependencies," 第 14 回日本第二言語習得学会年次大会(J-SLA2014), 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス, 2014 年 5 月 31 日. 【2014 年度 J-SLA 優秀口頭発表賞】
421. 戸田博人・香山裕子・西村りさ・三橋朋子・小田有希子・是永綾子, 日本 e-Learning 学会, 2013 年度(10 周年記念)学術講演会優秀賞, 日本 e-Learning 学会, セッション II-1, 「学習履歴分析による e-Learning コースタイプ別学習者特性調査」, 2013 年 11 月 22 日.
422. *阪井和男・有賀三夏, 「生きる力を育む芸術思考 一知的能力の統合的な育成を目指して」, 情報コミュニケーション学会第 10 回研究会(優秀発表賞), 2012 年 10 月 6 日.

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

<作品展>

423. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展」, ART FAIR TOKYO(Gallery SEIZAN Booth), 東京国際フォーラム, 2018 年 3 月 9 日～3 月 11 日.
424. 深井聡一郎, トーク「教育現場とマーケット」, アーツ千代田 3331, 2018 年 3 月 8 日.
425. 深井聡一郎, 「SYMPHONY」, RELJINSHA GALLERY, 2018 年 3 月 2 日～16 日.(グループ展)
426. 深井聡一郎, 「ジョウモン・アート展～縄文の美と心」, 東北芸術工科大学, 2018 年 1 月 22 日～27 日.(グループ展)
427. 深井聡一郎, 「漂泊之碑／floating monuments 下道基行展」, 東北芸術工科大学, 2017 年 11 月 17 日.(研究会)
428. 深井聡一郎, 「素材の展望 2017」, 東北芸術工科大学, 2017 年 11 月 11 日～11 月 19 日.(グループ展)
429. 吉賀伸, 「彫刻五・七・五ーかたちで詠む春夏秋冬ー」, 女子美アートミュージアム 神奈川県相模原市, 2017 年 11 月 8 日～28 日.(グループ展)
430. 吉賀伸, 「第 7 回次代を担う彫刻家たち展」, 長泉院付属現代彫刻美術館, 東京都目黒区, 2017 年 10 月 28 日～12 月 17 日.(グループ展)
431. 渡部泰山, 「上村隆士展ーいつか見た風景いつか見たまなざし」企画運営, アトリエ・山形現代美術館, 2017 年 10 月 27 日～11 月 12 日.
432. 青山ひろゆき, 「竹とんぼでアート空間を作ろう!」, スペースアルテマイスター, 2017 年 10 月 15 日.
433. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展ーあの時といまー」, スペースアルテマイスター, 2017 年 10 月 1 日～11 月 5 日.
434. 深井聡一郎, トーク「大学院レビュー 田久保静香×深井聡一郎」, アーツ千代田 3331, 2017 年 9 月 30 日.
435. 渡部泰山, 「池田正展ーふたたび始まりの光景」企画運営, アトリエ・山形現代美術館, 2017 年 9 月 23 日～10 月 21 日.
436. 深井聡一郎, トーク「TOHOKU CALLING」, アーツ千代田 3331, 2017 年 9 月 19 日.
437. 深井聡一郎, 「2017 アジア現代陶芸展」, 愛知県陶磁器美術館, 2017 年 8 月 31 日～10 月 22 日.(グループ展)
438. 深井聡一郎, 「AGAIN-ST 7th OUTBOUND 彫刻シンポジウム外伝」, 金沢美術工芸大学, 2017 年 8 月 18 日～9 月 1 日(滞在制作), 9 月 2 日～5 日.(グループ展)
439. 渡部泰山, 「中原淳展ー車輪の唄」企画運営, アトリエ・山形現代美術館, 2017 年 8 月 12 日～8 月 26 日.
440. 青山ひろゆき, 「われらの地平線」, 日本橋三越, 2017 年 7 月 26 日～8 月 1 日.
441. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展ーときのながめー」, アートスペース泉, 2017 年 7 月 19 日～29 日.
442. 青山ひろゆき, 「創作プログラムー不思議な模様と色彩ー」, 福島県立美術館, 2017 年 7 月 15 日.
443. 渡部泰山, 「鈴木満の世界展」企画運営, アトリエ・山形現代美術館, 2017 年 5 月 21 日～6 月 25 日.
444. 吉賀伸・深井聡一郎, 「AGAIN-ST 第 6 回展 平和の彫刻」, NADiff Gallery 東京都目黒区, 2017 年 4 月 1 日～23 日.(グループ展)
445. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展 1 きらりー」, 仙台三越, 2017 年 3 月 22 日～3 月 28 日.
446. 青山ひろゆき, 「てんてんてん」, 山脇美術専門学院, 2017 年 1 月 11 日～1 月 21 日.
447. 青山ひろゆき, 館蔵展(喜多方市立美術館/福島), 2016.(グループ展)
448. 深井聡一郎, 「2016 アジア現代陶芸展」, 国立台湾工芸研究発展中心 地方工芸館及工芸設計館, 2016 年 11 月 27 日～2017 年 1 月 15 日.(グループ展)
449. 青山ひろゆき, 「児童の意欲を高める絵画指導のあり方」, 鶴岡市立朝陽第二小学校, 2016 年 8 月 31 日.
450. 青山ひろゆき, 「アート体験! 神さま竹トンボづくり」, 八槻都々古別神社, 主催棚倉町教育委員会, 2016 年 8 月 27 日.
451. 深井聡一郎, 「2016 アジア現代陶芸展」, 国立台湾工芸研究発展中心 台湾当代工芸設計分館, 2016 年 8 月 20 日～11 月 20 日.(グループ展)
452. 青山ひろゆき, 「ART MEETING 田人の森に遊ぶ 2016」, 福島県, 2016 年 7 月 30 日～8 月 20 日.
453. 青山ひろゆき, 「ニュースター達の美術展」, 阪急うめだ本店ギャラリー 2016 年 7 月 6 日～7 月 11 日.
454. 吉賀伸, 「変容する態、もしくは相」, スペース・S 東京都三鷹市, 2016 年 5 月 7 日～22 日.(グループ展)
455. 深井聡一郎, 「東北アートの博物学」, 蔦屋書店 2 号館 2F Anjin, 2016 年 5 月 10 日～7 月 5 日.(グループ展)
456. 深井聡一郎, 「変容する態、もしくは相」, スペース S, 2016 年 5 月 7 日～22 日.(グループ展)
457. 有賀三夏, ボストン・チルドレンズ・ミュージアム, Boston USA, グループ作品展示・企画「Art & Friendship from Tohoku Japan/Trees Make Happiness」, 2016 年 3 月 8 日～10 月 31 日.
458. 深井聡一郎, トーク「HAGISO トーク 森司×宮崎晃吉×宮島達男×深井聡一郎」, HAGISO, 2016 年 3 月 6 日.
459. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展」, 靖山画廊, 2016 年 02 月 12 日～2 月 27 日.
460. 深井聡一郎, 「2015 アジア現代陶芸展」, 中国美術大学美術館, 2015 年 11 月 7 日～17 日.(グループ展)
461. 吉賀伸, 「第 6 回次代を担う彫刻家たち展」, 長泉院付属現代彫刻美術館, 東京都目黒区, 2015 年 10 月 24 日～12 月 20 日.(グループ展)
462. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展 ー地境ー」, 最上徳内記念館, 2015 年 10 月 16 日～11 月 17 日.
463. 有賀三夏, Out of the Blue, 「Darumas World」作品展示(アメリカ・ボストン), 2015 年 9 月 10 日～2016 年 3 月 30 日.
464. 吉賀伸, 「緑の中の小さな彫刻展 vol.4」, ギャラリー華, 東京都港区, 2015 年 9 月 5 日～9 月 29 日.(グループ展)
465. 有賀三夏, 作品展示「3 匹のだるまたち」, ホスピタルアートに関する展示, 日本海総合病院(山形県酒田市), 2015 年 8 月 29 日～現在. <http://www.nihonkai-hos.jp/hospital/>
466. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展 ーまたたきー」, アートスペース泉, 2015 年 7 月 25 日～8 月 9 日.
467. 深井聡一郎, 「2015 彫刻の 5・7・5 展」, チェンマイ市アート&カルチャーセンター, 2015 年 7 月 5 日～17 日.(グループ展)
468. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展 ー耀ー」, 喜多方市立美術館, 2015 年 4 月 25 日～5 月 24 日.

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

469. 青山ひろゆき, 「たいせつなもの展 水」, 靖山画廊(東京), あいづまちなかアートプロジェクト 2015(會津稽古堂/福島), 2015.(グループ展)
470. 有賀三夏, ポストン・チルドレンズ・ミュージアム, グループ作品展示・企画「Art & Friendship from Tohoku Japan/ Bottom Monster's Friends」, 2015 年 3 月 12 日～7 月 31 日.
471. 澤口俊輔, The Westin Art Showcase Exhibition vol.9 澤口俊輔「Essay」, ウェスティンホテル仙台(宮城県仙台市), 2015 年 1 月 17 日～2015 年 2 月 26 日.
472. 深井聡一郎, 「ヤマノカチモノガタリ」[地域文化遺産の保存と伝承], 山形県郷土館文翔館, 2014 年 12 月 13 日～23 日.
473. 渡部泰山, 舞台公演(脚本・舞台監督)「東北幻野版・四谷怪談」, 新庄市民文化会館, 2014 年 11 月 9 日～10 日.
474. 渡部泰山, 東北幻野第 32 回演劇公演「東北幻野版 銀河鉄道の夜」制作, 新庄市民文化会館, 2014 年 9 月 27 日～28 日.
475. 渡部泰山, 美術展「村上滋郎展」企画運営, アトリエ・山形現代美術館, 2014 年 9 月 26 日～10 月 26 日.
476. 澤口俊輔, 「震災と表現: 共有するためのメタファー」, 気仙沼リアス・アーク美術館(宮城県気仙沼市), 2014 年 9 月 17 日～11 月 3 日.(グループ展)
477. 吉賀伸, 「緑の中の小さな彫刻展 vol.3」, ギャラリー華, 東京都港区, 2014 年 9 月 6 日～9 月 27 日.(グループ展)
478. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展」, YOKOI FINE ART, 2014 年 8 月 22 日～9 月 6 日.
479. 吉賀伸, 個展「UNFORMED SENSES」, 日本橋高島屋美術画廊 X, 東京都中央区, 2014 年 8 月 6 日～8 月 18 日.
480. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき展」, GALLERY IDF, 2014 年 7 月 26 日～8 月 10 日.
481. 吉賀伸, 「AGAIN-ST 4th EXHIBITION SCULPTURE IS (NOT) ORNAMENTS . 置物は彫刻か?」, 東北芸術工科大学, 2014 年 6 月 10 日～20 日.(グループ展)
482. 深井聡一郎, 「AGAIN-ST 4th EXHIBITION SCULPTURE IS (NOT) ORNAMENTS . 置物は彫刻か?」, 東北芸術工科大学, 2014 年 6 月 10 日～20 日.(グループ展)
483. 有賀三夏, 山形市蔵王倫理法人会 10 周年記念「こまりん」 マスコットキャラクター, ロゴマーク制作, 山形市蔵王倫理法人会, 2014 年 6 月.
484. 青山ひろゆき, 「玄玄展」(LATOV/福島), 「ART NAGOYA 2014」((ウェスティンナゴヤキャッスル 9F フロア/名古屋), 第 29 回国民文化祭あきた 2014 招待出品(秋田県立美術館/秋田), 2014.(グループ展)
485. 渡部泰山, 舞台公演・演出/かむてん子ども劇場総括指導「かむてんとよだかの星」, 新庄市民プラザ大ホール, 2014 年 1 月 12 日.
486. 深井聡一郎, 「TUAD mixing! 2013 秘境、その芸術表現」, 東北芸術工科大学, 2013 年 11 月 20 日～29 日.
487. 深井聡一郎, 「素材の展望 2013」, 東北芸術工科大学, 2013 年 11 月 9 日～16 日.
488. 深井聡一郎, 「『モノ』再考」, 武蔵野美術大学, 2013 年 10 月 10 日～10 月 19 日.
489. 澤口俊輔, 「宮城県芸術祭 第 50 回記念企画展」, せんだいメディアテーク, 宮城県仙台市, 2013 年 10 月 4 日～9 日.(グループ展)
490. 深井聡一郎, 「AGAIN-ST 3rd EXHIBITION DEPENDENT SCULPTURE ー彫刻を支える物は何かー」, 東京藝術大学, 2013 年 9 月 25 日～10 月 5 日.
491. 澤口俊輔, 「宮城県芸術祭 第 50 回記念企画展」, せんだいメディアテーク(宮城県仙台市), 2013 年 10 月 4 日～9 日.(グループ展)
492. 深井聡一郎, 「AGAIN-ST 3rd EXHIBITION DEPENDENT SCULPTURE ー彫刻を支える物は何かー」, 東京藝術大学, 2013 年 9 月 25 日～10 月 5 日.
493. 吉賀伸, 東北芸術工科大学教員作品展「ギフト・オブ・ネイチャー」, やまがた藝術学舎展覧会シリーズ no. 1, やまがた藝術学舎, 2013 年 8 月 6 日～9 月 18 日.
494. 青山ひろゆき, 「青山ひろゆき ー虹色スイッチー」アートスペース泉, 2013 年 7 月 13 日～23 日.
495. 青山ひろゆき, 「気韻」(ARTISLONG GALLERY+KUNSAZT/京都), 「てとと展」(アルデピアッツァ美唄/北海道), 2013. (グループ展)
496. 有賀三夏, Boston USA, Out of the Blue Art Gallery, 作品展示, 常設展示継続, 2013～2016.

<メディア(記事・放送等)>

497. 渡部泰山, 書評『詩神たちへの恋文』, 山形新聞, 2017 年 11 月 1 日.
498. 渡部泰山, 書評『特高に奪われた青春』―「甦る平和主義言語学者の生涯」, 山形新聞・朝刊, 2017 年 10 月 4 日.
499. 渡部泰山, 「やまがた再発見 371・加藤松溪(下)」, 山形新聞・朝刊, 2017 年 9 月 3 日.
500. 渡部泰山, 「やまがた再発見 370・加藤松溪(上)」, 山形新聞・朝刊, 2017 年 8 月 27 日.
501. 渡部泰山, 「勝手に東北世界遺産―斎藤秀一の獄中で刻まれた 21 枚の葉包紙」, 朝日新聞東北全県版, 2017 年 3 月 4 日.
502. 渡部泰山, 平成 28 年度山形県高等学校新聞コンクール縮刷版冊子・講評「人間としての深み」, 山形県高等学校文化連盟新聞専門部発行, 2017 年 2 月.
503. 澤口俊輔, 山形新聞, 日曜インタビュー「こどもと交流 表現を学ぶ」, 2016 年.
504. 渡部泰山, 「やまがた再発見 327・シャルロット・ペリアン(下)」, 山形新聞・朝刊, 2016 年 11 月 6 日.
505. 渡部泰山, 「やまがた再発見 327・シャルロット・ペリアン(中)」, 山形新聞・朝刊, 2016 年 10 月 30 日.
506. 渡部泰山, 「やまがた再発見 327・シャルロット・ペリアン(上)」, 山形新聞・朝刊, 2016 年 10 月 23 日.
507. 渡部泰山, 「世界的土方異没後 30 年―故郷羽後へ祖霊回帰・鎌鼬美術館開館」, 山形新聞朝刊文化欄, 2016 年 10 月 21 日.
508. 渡部泰山, 「勝手に東北世界遺産―川底に光る文政小判」, 朝日新聞東北全県版, 2016 年 10 月 15 日.
509. 官宏, 「ICT 駆使、課題解決力磨く ～6 年間、どんな新しい教育を?～」, 朝日新聞, 2016 年 5 月 7 日.
510. 渡部泰山, 「勝手に東北世界遺産―景観に宿る薬師三尊」, 朝日新聞東北全県版, 2016 年 4 月 2 日.

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

511. 東北芸術工科大学創造性開発研究センター,「自ら解決する力育む 東北芸工大 探究型学習研究会」,毎日新聞,2016年3月4日.
512. 有賀三夏・永谷研一,「Art in Life 人生に芸術をどう使おうか? (芸術思考 創造的な暮らしを!)」,USTREAM 番組「発明家 永谷の『教育イノベーション』」,第33回放送,2015年12月14日.
513. 東北芸術工科大学創造性開発研究センター,「県教委 芸工大と連携協定 課題探究型学習を推進」,読売新聞,2015年11月27日.
514. 東北芸術工科大学創造性開発研究センター,「東桜学館の授業開発 県教委 芸工大と連携協定」,山形新聞,2015年11月27日.
515. 秋山ゆかり,「芸術思考と新規事業(下) ビジョンの具現化で成否」,日刊工業新聞, p. 4, 2015年8月31日.
516. 秋山ゆかり,「芸術思考と新規事業(上) 共通する創造のプロセス」,日刊工業新聞, p. 4, 2015年7月27日.
517. 有賀三夏,「アートセラピーが脳に効く」,BS フジ「革新のイズム ～イノベータの暴論～」,放送 21:55, 2015年5月2日.
http://www.audi.jp/innovator/
518. 東北芸術工科大学創造性開発研究センター,「新聞紙使いワークショップ 芸工大 できた!カラフル衣装」,山形新聞,2015年3月26日.
519. 有賀三夏,おはよう日本, NHK 総合(東北6県域), 放送 7:50, 2015年2月13日.
520. 有賀三夏,やまがた6時, NHK 総合(山形県域), 放送 18:15, 2015年2月12日.
521. 東北芸術工科大学創造性開発研究センター,「子どもの生きる力育む芸術思考 可能性シンポで考える」,山形新聞,2013年12月26日.
522. 東北芸術工科大学創造性開発研究センター,「芸術で『生きる力』育む」,山形新聞,2013年10月5日.
523. 有賀三夏・永谷研一,「人生に芸術をどう使おうか? (芸術思考とアートセラピー)」,USTREAM 番組「発明家 永谷の『教育イノベーション』」,第8回放送,2012年12月14日.
- ＜講演＞
524. 阪井和男,「結晶化ワールド・カフェ「教育×イノベーション×学会」」,電子情報通信学会, TK-4 教育改革と学会の役割, TK-4-2 参加型総合討論「会員のできる事」,2018年総合大会,東京電機大学(東京千住キャンパス),2018年3月21日.
525. 原田康也・平松裕子・阪井和男,「口頭発表と共同討議:ドラえもんが教えてくれた?【討議】ドラえもんは何も教えない。」,日本ビジネスコミュニケーション学会,日本ビジネスコミュニケーション学会 2017 年度第 2 回研究集会・第 140 回次世代大学教育研究会,早稲田大学(早稲田キャンパス),2018年3月18日.
526. 阪井和男・山田夏子,「対話型ワークショップ:オープン・スペース・テクノロジー & グラフィックファシリテーションで考える「地域と共に学びを深める教育活動」」,情報コミュニケーション学会第 15 回全国大会,大手前大学さくら夙川キャンパス,2018年3月11日.
527. 阪井和男,「イノベーション(理論)は本当に役に立つのか」,国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(調布市),宇宙航空研究開発機構,2018年3月8日.
528. 阪井和男,「アクティブ・ラーニングとは何だろうか? ～結晶化ワールド・カフェで体感する～」,明治大学サービス創新研究所,実教出版社,2018年2月28日.
529. 國藤進・高野陽太郎・山口栄一・原田康也・阪井和男,「創造性とアブダクション:アブダクションって何だろう」,明治大学サービス創新研究所,サービス創新研究会・第 139 回次世代大学教育研究会,明治大学駿河台キャンパス,2018年2月24日.
530. 渡部泰山,白鷹町コミュニティーセンター荒砥地区研究集,第 55 回研究集会記念講演・語ろう会「子どもたちが輝ける荒砥の未来と地域活性化」,白鷹町,2018年2月11日.
531. 庄司博幸,「一流大学に進むために、今、どんな勉強をしておくべきか」,学習力創造アカデミー講演会,学習力創造アカデミーつつじヶ丘校,2017年.
532. 庄司博幸,「どうしたら自分から勉強する子になるか——二つの心理学実験と二つの寓話——」,学習力創造アカデミー講演会,学習力創造アカデミーつつじヶ丘校,2017年11月25日.
533. 阪井和男,「若年層人材還流で地域エコシステムは創造されるか?」,明治大学,異ノベーションフォーラム「地方創生の現在」(テーマ:震災復興から地方創生へ。東日本から西日本まで?実践的研究&学外実習を通じた大学の役割と可能性を探る?),明治大学アカデミックフォーラム「明治大学,次の一手!」,明治大学駿河台キャンパス,2017年11月23日.
534. 阪井和男,「「信州エクスターンシップ 2017」における「キャリア教育プログラム」としての成果報告 多重知能理論による教育インパクトの定量的推定方法の提案」,長野県若年層人材戦略研究会,第 4 回研究会,JA 長野中央会,2017年11月20日.
535. 渡部泰山,「今、考える最上川と地域の交流」パネルディスカッション・コーディネーター,白鷹町あゆむ,2017年11月19日.
536. 阪井和男,「パネルディスカッション/ 図書館が地域にもたらす未来の学びと知的空間づくり」,図書館総合展運営委員会,第 19 回図書館総合展,パシフィコ横浜,TRC 図書館流通センター,2017年11月8日.
537. 阪井和男,「体験! 知的エンタメ～学びのワークショップ～スマートホーム壁が話したら」,図書館総合展運営委員会,第 19 回図書館総合展,パシフィコ横浜,TRC 図書館流通センター,2017年11月8日.
538. 古藤浩,人口推計に基づく人口減少・少子高齢社会に向けた取組み,平成 29 年度大都市企画主管者会議 基調講演,ホテルモントレー仙台,2017年11月2日.
539. 阪井和男,「スマートホーム壁が話したら」,TRC 図書館流通センター,体験! 知的エンタメ ～学びのワークショップ～,下落合図書館,2017年10月29日.
540. 渡部泰山,天童市津山公民館大会講演「地域で生きる、人と生きる」,天童市教育委員会,2017年10月28日.
541. 渡部泰山,鶴岡管内生徒指導関係者「地域で守り育てる青少年—現代と子どもたちと共に地域の大人ができること」,2017年10月25日.
542. 原田康也,「早稲田大学法学部における英語教育:英語で質問ができる運用能力の涵養をめざして」, Cengage Learning, 早稲田大学, 2017年10月21日.
543. 渡部泰山,対談「池田正展」池田正×大原螢,アトリエ・山形現代美術館,2017年10月14日.
544. 阪井和男,「ドラッカーの 5 つの質問による 事業戦略の設計 ～総務省お試しサテライトオフィス事業における 京丹後サテライトオフィス誘致戦略策定委員会の事例～」,ドラッカー学会,2017 年度ドラッカーの小さな学校,「ドラッカー思想とマネジメントの現代的な意義」,

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

明治大学駿河台キャンパス, 2017 年 9 月 30 日. 545. 阪井和男, 「新規事業の成功確率は 5%程度 突出した人材の失敗を許容できるか」, ダイヤモンド社, Going Digital, DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー, 2017 年 9 月 28 日. 546. 有賀三夏, 「芸術思考を活かした地域活性化の取組みについて」, あいづグローバル・ブランディング戦略 キックオフ・ワークショップ ～イノベーション塾 2017 に向けて～, 会津大学, 2017 年 9 月 21 日. 547. 阪井和男, 「会津熱中塾が 目指すべき 5 年後の未来 ～結晶化ワールド・カフェで考える～」, 熱中小学校, 会津熱中塾, 福島県立博物館(福島県会津若松市), 2017 年 9 月 17 日. 548. ファシリテーター・阪井和男, 「酪農産業の可能性! その多様性を考える」, インカレねむろ事業推進協議会(根室市・羅臼町・標津町・中標津町・別海町)(別海町産業振興部商工観光課), 酪農エクスターンシップ研究発表フォーラム, インカレねむろ・大学等研究モデル事業, 別海町マルチメディア館, 2017 年 9 月 16 日. 549. 有賀三夏, 「アート活動による能力開発の実践報告」, 日本認知科学会第 34 回大会 OS15 実践の中のデザイン・創造研究 実践と研究のマッピング, 金沢大学, 2017 年 9 月 13 日. 550. 阪井和男, 「本気のフィードバック ～エクスターンシップ・オリエンテーション～」, インカレねむろ事業推進協議会(根室市・羅臼町・標津町・中標津町・別海町), インカレねむろ・大学等研究モデル事業, 別海町酪農研修牧場, 2017 年 9 月 11 日. 551. 阪井和男, 「本気のコミュニケーション ～エクスターンシップ・オリエンテーション～」, インカレねむろ事業推進協議会(根室市・羅臼町・標津町・中標津町・別海町)(別海町産業振興部商工観光課), インカレねむろ・大学等研究モデル事業, 別海町酪農研修牧場, 2017 年 9 月 11 日. 552. 渡部泰山, 最上川フォーラム 229 講話「地域文化運動の喜びと厳しさ」, 白鷹町下山公民館, 2017 年 9 月 11 日. 553. 阪井和男, 「オープンスペーステクノロジー ～ わたしが創る大学の魅力～」, 私立大学キャンパスシステム研究会, 2017 年度分科会 合同研修会, 松代ロイヤルホテル, 2017 年 8 月 31 日. 554. 阪井和男, 「信州エクスターンシップ オリエンテーション ～本気のコミュニケーション～」, 長野県(産業労働部)・NPO 法人 夢のデザイン塾, 信州エクスターンシップ, JA 長野県総合研修所, 2017 年 8 月 27 日. 555. 阪井和男, 「オープンスペーステクノロジー ～「私」がつくる共創教育～」, 明治大学情報基盤本部, 第 4 回共創教育サロン, 明治大学グローバルフロント 3 階 403N 教室, 2017 年 8 月 21 日. 556. 澤口俊輔, 震災復興支援活動「あそびのえんにち in 石巻」, https://vimeo.com/253213392, 2017 年 8 月 20 日 (2011 年・2012・2013・2014・2015・2016 実施). 557. 阪井和男, 「授業カイゼンと FD」, 株式会社ディスコ, 第 7 回 C-Learning セミナー「授業カイゼンと FD」, 株式会社ディスコ(東京・飯田橋), 2017 年 7 月 26 日. 558. 阪井和男, 「正課外活動に威力を発揮するラーニング・マネジメント・システム「C-Learning」を活用する」, 第 7 回 C-Learning セミナー, 株式会社ディスコ(東京・飯田橋), 2017 年 7 月 26 日. 559. 阪井和男, 「信州エクスターンシップ事前教育: 本気のコミュニケーション ～大人と本気で向き合うのって, カッコいい～」, NPO 夢のデザイン塾・明治大学社会イノベーション・デザイン研究所, 2017 信州エクスターンシップ・事前教育, 青山学院大学青山キャンパス, 2017 年 7 月 15 日. 560. 澤口俊輔・和多利浩一・岩井優・キュンチョメ・成瀬正憲, リボーンアート・フェスティバル[Reborn-Art Dialogue] <登壇者>, せんだいメディアテーク オープンスクエア, 2017 年 7 月 12 日. 561. 阪井和男, 「魚津エクスターンシップに参加する 君たちと成し遂げたいこと ～魚津市農商工連携インターンシップ事業～」, JA 共済総合研究所・明治大学社会イノベーション・デザイン研究所, 魚津エクスターンシップ準備会, 魚津市役所, 2017 年 7 月 10 日. 562. 阪井和男, 「魚津エクスターンシップに参加する 君たちと成し遂げたいこと ～魚津市農商工連携インターンシップ事業～」, JA 共済総合研究所・明治大学社会イノベーション・デザイン研究所, 魚津エクスターンシップ事前教育, 明治大学和泉キャンパス, 2017 年 7 月 4 日. 563. 阪井和男, 「信州エクスターンシップ事前教育: 本気のコミュニケーション ～大人と本気で向き合うのって, カッコいい～」, NPO 夢のデザイン塾・明治大学社会イノベーション・デザイン研究所, 2017 信州エクスターンシップ・事前教育, 信州大学工学部(長野市), 2017 年 6 月 28 日. 564. 有賀三夏, 福井大学文京キャンパス, 実践し考察するコミュニティ実践研究 ポスター発表 福井ラウンドテーブル 2017 Summer Sessions, 2017 年 6 月 23 日～25 日. 565. 阪井和男, 「信州エクスターンシップ事前教育: 本気のコミュニケーション ～大人と本気で向き合うのって, カッコいい～」, NPO 夢のデザイン塾・明治大学社会イノベーション・デザイン研究所, 2017 信州エクスターンシップ・事前教育, 明治大学駿河台キャンパス, 2017 年 6 月 19 日. 566. 阪井和男, 「絶滅危惧種ってなんだ!?', TRC 図書館流通センター, "Think Aloud"ワークショップ フランス AFP 通信社の最新海外ニュースコンテンツで環境問題について考え, そして語る!, 下落合図書館, 2017 年 6 月 4 日. 567. 阪井和男, 「『ワールド・カフェ』方式のワークショップを開催しよう!」, TRC 図書館流通センター, 第 1 回イベント企画研修, TRC 本社, 2017 年 6 月 1 日. 568. 原田康也, 「英語教育の情報化:我々は今どこまで来たのか」, 「第二部:英語教育と情報教育はいかに統合されるべきか」, 立教大学英語教育研究所主催公開講演会, 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8506 教室, 2017 年 5 月 27 日. 569. 原田康也, 「英語教育の情報化:我々は今どこまで来たのか」, 「第一部:教育の情報化は英語学習をどう変えたか」, 立教大学英語教育研究所主催公開講演会, 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8506 教室, 2017 年 5 月 27 日. 570. 齋藤和紀・阪井和男・野口功一, 「今、企業に新たに求められている成功の要件 ～イノベーションはなぜ進まないのか～」, PwC Japan グループ, グローバルメガトレンドセッションーイノベーション, Value Navigator, Spring 2017, pp. 16-17, 2017 年 5 月 1 日. 571. 阪井和男, 「十勝さらべつ熱中小学校が 目指すべき 5 年後の未来 ～結晶化ワールド・カフェで考える～」, 十勝さらべつ熱中小学校, 旧十勝南部農業開発事業所跡地(北海道河西郡更別村), 2017 年 4 月 29 日. 572. 阪井和男, 「結晶化ワールド・カフェ」共創教育サロンの設立について」, 明治大学情報基盤本部, 共創教育サロン, 明治大学駿河台キャンパス, 2017 年 4 月 17 日. 573. 阪井和男・池田啓実・早川政宏・松井秀夫・坂知樹・鈴木賞子・内藤邦男・川井真・高木英彰・川尻知弥, 「[公開ワークショップ]農山漁

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

村地域の再生・活性化に向けた若年層の地方人材還流戦略 ～首都圏大学生を対象とした地域滞在型就業体験“信州エクスターンシップ”から見てきたこと～」, 日本農民新聞社, 日本農民新聞, 第 3148 号, 第3面, 2017 年 4 月 5 日. 574. 阪井和男, 「[基調報告]信州エクスターンシップの航跡」, 日本農民新聞社, 日本農民新聞, 第 3148 号, 第3面, 2017 年 4 月 5 日. 575. 原田康也, 「調査作成に関する最後から二番目の真実: 科学研究費助成事業審査委員平成 28 年度表彰者の視点から」, 2017(H29) 年度科学研究費助成事業科研費「研究活動スタート支援」応募説明会, 早稲田大学研究推進部研究支援課主催, 早稲田大学 27 号館地下 2 階小野記念講堂, 2017 年 3 月 31 日. 576. 渡部泰山, 山形倫理法人会講話「桜と父」, 山形グランドホテル, 2017 年 3 月 29 日. 577. 阪井和男, 「座長」, 電子情報通信学会, 多重知能理論シンポジウム: 日本における多重知能理論の展開と未来, 2017 年度総合大会 (名城大学天白キャンパス), 2017 年 3 月 22 日. 578. 阪井和男・池田啓実・早川政宏・松井秀夫・坂村樹・鈴木貴子・内藤邦男・川井真・高木英彰・川尻知弥, 「[公開ワークショップ]農山漁村地域の再生・活性化に向けた若年層の地方人材還流戦略 ～首都圏大学生を対象とした地域滞在型就業体験“信州エクスターンシップ”から見てきたこと～」, JA 共済総合研究所, 平成 28 年度 JA 共済総研セミナー, JA 共済ビルカンファレンスホール, 2017 年 3 月 17 日. 579. 阪井和男, 「[基調報告]信州エクスターンシップの航跡」, JA 共済総合研究所, 平成 28 年度 JA 共済総研セミナー, JA 共済ビルカンファレンスホール, 2017 年 3 月 17 日. 580. 阪井和男, 「八丈島の10年後 ～ワールド・カフェで考える～」, 熱中小学校, 八丈島熱中小学校, 八丈町役場多目的ホール「おじゃれ」, 東京都八丈島八丈町, 2017 年 3 月 11 日. 581. 阪井和男, 「学生たちよ 正しく苦しめ! 大人と本気でぶつかることこそ意義がある」, カシヨキャリア開発センター, 信州エクスターンシップマガジン, 第 1 巻(通算 1 号), p. VIII, 2017 年 3 月 1 日. 582. 阪井和男, 「特別レポート 2016 信州エクスターンシップ」, カシヨキャリア開発センター, 信州エクスターンシップマガジン, 第 1 巻(通算 1 号), pp. 0-VII, 2017 年 3 月 1 日. 583. 渡部泰山, 「シャルロット・ペリアンの『寝椅子』復刻会議シンポジウム講演「シュルロット・ペリアン」」, 新庄市雪の里情報館 2 階大ホール, 2017 年 2 月 26 日. 584. 阪井和男, 「パネルディスカッション「イノベーション」」, PwC Japan グループ, PwC グローバルメガトレンドフォーラム 2017, ザ・プリンスパークタワー東京, 2017 年 2 月 23 日. 585. 渡部泰山, 田川地区高等学校生徒指導連絡協議会研修会講演「今、高校生の生涯に届ける贈り物」, 鶴岡市勤労者会館大ホール, 2017 年 2 月 21 日. 586. 有賀三夏, 「人生に芸術をどう使おうか?」, 高岡市ボランティア交流研究会, 高岡市ふれあい福祉センター, 2017 年 2 月 4 日. 587. 阪井和男, ワークショップ「交流分析法」, 日本創造学会, クリエイティブ・サロン, 近畿大学東京サテライト, 2017 年 1 月 28 日. 588. 有賀三夏, 「多重知能理論から芸術思考へ」, 日本創造学会 第 47 回クリエイティブ・サロン, 近畿大学東京センター, 2017 年 1 月 28 日. 589. 阪井和男, 「イノベーションとは何か?」, 全国市町村研修財団, 平成 29 年度政策・実務研修「地域産業のイノベーション」, 全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市), 2017 年 1 月 16 日. 590. 阪井和男, 「ドロッカーの 5 つの質問からみる 組織イノベーションの活動特性」, 明治大学リバティアカデミー, 駿河台ビジネス講座, 各界から学ぶ、楽しく効果的に企業で働くための意識改革講座, 明治大学(東京), 2016 年 12 月 21 日. 591. 森憲一・中川貴之・阪井和男, 「ネクサミの創業から今日まで「大きな成長を実証したネクサミの仕組み」」, 一般社団法人日本経営イノベーション協会, 誰もが輝く未来を創るネクストワールド・サミット, pp. 5-7, 2016 年 12 月 10 日. 592. 渡部泰山, 飽海地区文化連盟文芸専門部研修会ワークショップ「言葉、音、リズムを感じながら、世界を変えよう」, 2016 年 12 月 9 日. 593. 有賀三夏, アートセラピー授業, 石巻市立蛇田小学校, 2016 年 11 月 28 日. 594. 阪井和男, 「芸術は人間にとってどんな意味があるのか?」, 東北芸術工科大学, 「芸術と社会力」「芸術思考論」, 2016 年 11 月 16 日. 595. 有賀三夏, 「芸術思考の実践について」, 日本認知科学会 デザイン・構成・創造(SIG-DCC)シンポジウム, 神戸大学統合研究拠点, 2016 年 11 月 13 日. 596. 渡部泰山, 美しい最上川フォーラムサミット in 白鷹「最上川文化交流会」シンポ全体講師, 白鷹町文化ホール「あゆむ」, 2016 年 11 月 8 日. 597. 渡部泰山, 置賜地区高等学校 PTA 連合研究集会講演「子どもを伸ばす・支える家庭教育のあり方」, 川西町農業団地センター, 2016 年 10 月 29 日. 598. Yasunari Harada, Invited Paper: Measuring Diversified Proficiency of Japanese Learners of English, PACLIC 30 (2016): The 30th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation, Kyung-Hee University, Seoul, 2016 年 10 月 28 日. 599. 庄司博幸, 「行動主義への誘い」, 明治大学法学部情報組織論, 明治大学, 2016 年 10 月 26 日. 600. 阪井和男, 「観察するということの困難さ」, ドロッカー学会, ドロッカーフォーラム, C&M Journal, 2016 秋号, p. 1, 2016 年 10 月 24 日. 601. 渡部泰山, 「平成 28 年度 第 40 回山形県高等学校総合文化祭演劇部門大会審査」, 村山市民会館, 2016 年 10 月 14 日. 602. 渡部泰山, 「平成 28 年度 第 40 回山形県高等学校総合文化祭文芸大会・全体講演, 演題『言葉の力を発見する』」, 甌葉プラザホール, 2016 年 10 月 14 日. 603. 有賀三夏, 「アートは必要? 人生に芸術をどう使おうか?」, 夏休み&「マイ・ベスト×ユア・ベスト」わたしたちのコレクション」, 富山県立近代美術館, 2016 年 8 月 27 日. 604. 阪井和男, 「首都圏大学2年 滞在型就業体験(就活前「県内を選択肢に」 県都明治大企画 10企業・団体 6大学から受け入れへ)」, 信濃毎日新聞, 2016 年 8 月 21 日. 605. 原田康也, 「【招待講演】英語教育における研究と教育の統合: 科学的英語学習法を目指して」, 全国英語教育学会第 42 回(統一体第 16 回)研究大会, 獨協大学, 2016 年 8 月 20 日. 606. 渡部泰山, 最上地区小・中・高・養護学校教頭会連絡協議会講演「地域とつながる人づくり」のための教頭の役割」, 2016 年 8 月 2 日.
--

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

607. 阪井和男, 「ルーブリックへの創造性評価の導入を考える」, 日本オープンオンライン教育推進協議会, JMOOC メルマガ, 2016 年 8 月号, 2016 年 8 月 1 日.
608. 有賀三夏, パネルディスカッション「人を育てる多重知能理論」, 8 つの知能 多重知能理論と人材育成, 富山大学人間発達科学部, 2016 年 7 月 18 日.
609. 戸田博人・有賀三夏・阪井和男, 「多重知能分析アンケートによる芸術系ワークショップ分析」, MIIM2016 国際シンポ「多重知能理論の展開と深化」, 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー, 2016 年 7 月 16 日.
610. 有賀三夏・阪井和男, 「新規事業を生み出す芸術思考」, MIIM2016 国際シンポ「多重知能理論の展開と深化」, 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー, 2016 年 7 月 16 日.
611. 有賀三夏, Introduction & Recent Trends, Introductory Talk 「シンポジウムのはじめにあたって」, MIIM2016 国際シンポ「多重知能理論の展開と深化」, 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー, 2016 年 7 月 16 日.
612. 有賀三夏, 「人生に芸術をどう使おうか?」, 第一回 高等学校芸術教育研究協議会, 市民会館おおみや, 2016 年 7 月 8 日.
613. 渡部泰山, 平成 28 年度山形県高等学校進路指導研究大会講演「キャリア教育の原点とは何か」, 山形県高等学校教育研究会進路指導部会, 2016 年 6 月 10 日.
614. 桑原洋・鴨志田晃・井上和佳・阪井和男・大川真史, 「第 4 次産業革命に向けたサービス科学の役割とビジネス応用に向けた課題」, 横幹技術協議会・横幹連合・同システム統合学調査研究会, 第 47 回横幹技術フォーラム, 日本大学経済学部, 2016 年 5 月 31 日.
615. 阪井和男, 「人・組織・社会の情報学・経営学・死生学 サービスと創造性の関係を考える(響きあう知能と個性が生む「場」)」, 横幹技術協議会・横幹連合・同システム統合学調査研究会, 第 47 回横幹技術フォーラム, 日本大学経済学部, 2016 年 5 月 31 日.
616. 渡部泰山, 平成 28 年度県立東桜学館高等学校 1 年「進学講演会」―「自らの人生を創造すること」, 本校大講義室, 2016 年 4 月 28 日.
617. 有賀三夏・阪井和男, 「芸術思考と言語情報研究」, 早稲田大学, 法学部総合講座「言語情報研究入門」, 早稲田大学, 2016 年 4 月 25 日.
618. 阪井和男, 「明治大学の災害ボランティア活動」, 東京経済大学, 特別企画講義「ボランティアのゆくえ」, 東京経済大学 国分寺キャンパス, 2016 年 4 月 15 日.
619. 村山真理・有賀三夏・池田智之, 「多様性は芸術思考を育むか」, 115 回次世代大学教育研究会, 東北芸術工科大学, 2016 年 3 月 24 日.
620. 原田康也・森下美和, 「外国語でのインタラクション(やりとり)に見られる言語能力の創発と自律的相互学習」, ワークショップ『やりとりの中の言語能力:外国語スピーキング活動の評価・実践・データ分析をめぐる』, 九州大学西新プラザ 2 階中会議室, 2016 年 3 月 7 日.
621. 有賀三夏, 「人生に芸術をどう使おうか? 芸術思考」, 秋田県立西目高校, 2016 年 2 月 26 日.
622. 阪井和男, 「「戻りたい」学生、各県が熱い視線(長野県、明大などと就業体験)」, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 朝刊, 2016 年 2 月 26 日.
623. 阪井和男, 「県、共同インターンシップ企画 首都圏の学生に照準 県内就職増へ明大と連携」, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2016 年 2 月 23 日.
624. 有賀三夏・村山真理・秋山ゆかり・戸田博人・阿部明典・原田康也・阪井和男, 「オーガナイズドセッション:芸術思考とデザイン思考」, 電子情報通信学会思考と言語研究会(TL)「芸術思考・デザイン思考、及び思考と言語一般」, TL2015-64, 2016 年 1 月 30 日.
625. 阪井和男, 「「働く」を学問的に考える/働き方は「価値観」で選ぶ! 変わる仕事観」, 損得舎, 電子雑誌「政経電論」, p. 17, 2016 年 1 月 12 日.
626. 阪井和男, 「「働く」を学問的に考える 企業で働くということ」, 株式会社損得舎, 電子雑誌「政経電論」, 2016 年 1 月 12 日.
627. 有賀三夏, 学級規模と指導・評価方法等が児童生徒の学力の経年変化に与える影響に関する研究 平成 27 年度 全体会議, 文部科学省 国立教育政策研究所, 2015 年 12 月 26 日.
628. 原田康也・森下美和, "Production of English Question Sentences by Japanese EFL Learners: Reproduction of and Conversion into Question Sentences," 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所・言語情報研究所共催研究会, 早稲田大学, 2015 年 12 月 12 日.
629. 阪井和男, 「イノベーションの 3 条件:ドラッカー原理を構造からみる」, 株式会社セック, 世田谷ビジネススクエア(東京), 2015 年 12 月 2 日.
630. 阪井和男, 「成果を上げる組織の単純な原理とは? ～わくわく感にあふれるネクストワールド・サミット～」, 一般社団法人日本経営イノベーション協会, p. 12, 2015 年 11 月 25 日.
631. 阪井和男・戸田博人・森憲一, 「ドラッカーの 5 つの質問からみた 2015 年度壇上チームの活動」, 一般社団法人日本経営イノベーション協会, 第 4 回ネクサミ成果発表会, ネクストワールド・サミット, 銀座プロッサム(東京), 2015 年 11 月 25 日.
632. Kazuo SAKAI, et al. By Kristine B. Quintas/JMO, "Educators gather to discuss new ways to teach English", Philstar, The Freeman, 2015 年 11 月 9 日.
633. 阪井和男, 「パフォーマンスとイノベーション」, マルチチャネル 3.0 研究所, 第 1 回研究会, 明治大学, 2015 年 10 月 22 日.
634. 阪井和男, 「マネジメント」を学ぶために ～経験主義の罠から脱却する～, 公益社団法人川口青年会議所, 2015 年度組織マネジメント委員会第 3 回ビジネス交流会, キュボ・ラ(川口市), 2015 年 10 月 6 日.
635. 有賀三夏, 「モチ塾第8回『ドキドキ心メカ心理学』」, 山形市教育委員会 社会教育青少年課, 2015 年 9 月 30 日.
636. 有賀三夏, 「ドキドキ心メカ心理学」, 山形市教育委員会社会教育青少年課 みんなのモチ塾, 山形市中央公民館, 2015 年 9 月 24 日.
637. 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者のインタラクション(相互行為)を通じた自律的相互学習プロセス解明に向けて」, 日本認知科学会第 32 回大会(OS10)オーガナイズドセッション:相互作用(インタラクション)を通じた英語の学習効果に関する認知科学的観点からの検討, 千葉大学, 2015 年 9 月 18 日.
638. 森下美和・原田康也, 「日本人英語学習者の wh 疑問文の知識と運用に関する調査:習熟度の観点から」, 日本認知科学会第 32 回大会(OS10)オーガナイズドセッション:相互作用(インタラクション)を通じた英語の学習効果に関する認知科学的観点からの検討, 千葉大学, 2015 年 9 月 18 日.
639. 遠藤智子・横森大輔・河村まゆみ・原田康也, 「外国語としての英語スピーキング活動におけるメタ認知と聞き手の参与」, 日本認知科学会第 32 回大会(OS10)オーガナイズドセッション:相互作用(インタラクション)を通じた英語の学習効果に関する認知科学的観点からの検討

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

討, 千葉大学, 2015 年 9 月 18 日. 640. 阪井和男, 「コーチングの教育への導入条件は何か?」, アカデミック・コーチング研究会北海道事務局, アカデミック・コーチング・メールマガジン, Vol.1, No.11, 2015 年 9 月 6 日. 641. 阪井和男, 「スキルアップ講座(TCoM:交流制約法の体験と習得)」, 私立大学キャンパスシステム研究会, 2015 年度分科会合同研修会, 2015 年 8 月 31 日. 642. Miwa Morishita, Yasunari Harada & Franklin Chang, "How L2 Proficiency Interacts with Implicit Learning in Structural Priming among Japanese EFL Learners," 2015 EuroSLA Conference, Aix-en-Provence, 2015 年 8 月 27 日. 643. 阪井和男, 「企業誘致による地域創生のフィールドトライアルを京丹後市で実施」, 株式会社ブリリアントサービス, ニュース, 2015 年 8 月 26 日. 644. 原田康也, 「【招待講演】英語教育における e-learning と ICT の活用について」, e-learning 高等教育連携(eHELP)全体会議, 松屋アネックスビル 2 階, 2015 年 8 月 10 日. 645. 有賀三夏, 「人生に芸術をどう使おうか?」, 山形県高等学校教育研究会 芸術部会、鶴岡中央高等学校、2015 年 7 月 7 日. 646. 有賀三夏, 「アートの力:アートセラピーを求めて I」, 人間発達科学部インストラクショナル・デザイン講義, 富山大学, 2015 年 5 月 15 日、6 月 12 日. 647. 有賀三夏・館鼻則孝, 「アーティスト館鼻則孝氏に見る[芸術思考]」, 芸術思考のインパクト 有賀×館鼻イベント 対談公開講座, 東京藝術学会, 2015 年 1 月 17 日. 648. 有賀三夏, 「芸術思考、多重知能による『Art in Life -人生に芸術をどう使おうか?』」, 専門学校ヒコ・みずのジュエリーカレッジ, 2015 年 1 月 27 日. 649. 有賀三夏, 「芸術思考、多重知能による『Art in Life -人生に芸術をどう使おうか?』」, 静岡県立沼津西高等学校, 2014 年 12 月 26 日. 650. 有賀三夏, 特別授業・ワークショップ「あーとのちから:ダンドットで遊ぼう!」, 大阪市立南住吉大空小学校, 2014 年 12 月 15-16 日. 651. Jonathan D. Messinger・有賀三夏, サービス創新研究所 勉強会「Good work project and Art thinking」, 明治大学サービス創新研究所, 2014 年 11 月 29 日. 652. 有賀三夏, アートセラピー×アロマセラピー 講義とワークショップ:「アートセラピーを体験しよう」, 富山 生と死を考える会, 高岡市ふれあい福祉センター, 2014 年 10 月 25 日. 653. 有賀三夏, 特別授業・ワークショップ「あーとのちから:スリーピーベアと友達になろう!」, 大阪市立南住吉大空小学校, 2014 年 10 月 20-21 日. 654. 有賀三夏, スーパーサイエンスハイスクール講演会「芸術思考、多重知能による Art in Life -人生に芸術をどう使おうか?」, 千葉県立船橋高等学校, 2014 年 9 月 29 日. 655. 有賀三夏, 「Art in Life -人生に芸術をどう使おうか?」, さめき生活文化振興財団, 2014 年 9 月 13 日. 656. 有賀三夏, 「育成する資質や能力から考える教育の授業-中学校美術科・高等学校芸術科(美術)-」, 「美術の力 -芸術思考論を基に-」, 秋田県総合教育センター, 2014 年 9 月 3 日. 657. 有賀三夏, 「Artの力 ~Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?~」, 米沢市山形倫理協会, 2014 年 8 月 28 日. 658. 有賀三夏, 中学校美術Q&A in 宮城「Art in Life -人生に芸術をどう使おうか?」, 宮城県仙台二華中学校・宮城県仙台二華高等学校, 2014 年 6 月 21-22 日. 659. 有賀三夏, 「ヒーリングアートワークショップ・講義『メッセージコサージュ』」, 富山・生と死を考える会 全国協議会 2013 年全国大会, 富山県高岡市立博物館, 2014 年 6 月 15 日. 660. 有賀三夏・上村博, 「イメージを具現化する芸術思考のパワーとは?」, 芸術思考のインパクト 有賀×上村イベント 対談公開講座, 東京藝術学会, 2014 年 6 月 14 日. 661. 有賀三夏, 「アートの力:アートセラピーを求めて II」, 人間発達科学部インストラクショナル・デザイン講義, 富山大学, 2014 年 6 月 13 日. 662. 有賀三夏, 「芸術思考と創造力 ~Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?」, 全国高等学校美術工芸教育研究会, 千葉女子高校, 2014 年 5 月 22 日. 663. 有賀三夏, 「アートの力:アートセラピーを求めて I」, 人間発達科学部インストラクショナル・デザイン講義, 富山大学, 2014 年 5 月 16 日. 664. 有賀三夏, 「芸術思考と創造力 ~Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?」, ふくい美術eフォーラム2014 ヤング・アート・キャンプ美術, 福井県立図書館, 2014 年 5 月 10 日. 665. 有賀三夏, 「Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?」, 中学校美術教育 Q&A in 三重, 三重県人権センター, 2013 年 12 月 23 日. 666. 有賀三夏, 「Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?」, 土曜ゼミナール, 宮城県宮城野高校, 2013 年 12 月 7 日. 667. 有賀三夏, 「Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?」, 第46回秋田県高等学校総合美術展講演会, 秋田アトリオン, 2013 年 11 月 31 日. 668. 有賀三夏, 「ヒーリングアートワークショップ・講義『メッセージコサージュ』」, 富山・生と死を考える会, 高岡市ふれあい福祉センター, 2013 年 11 月 30 日. 669. 有賀三夏, 「Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?」, 中学校美術教育 Q&A in 秋田, 秋田大学, 2013 年 11 月 17 日. 670. 有賀三夏, 「Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?」, GKB 学校広報ソーシャルメディア活用勉強会 第二回教育カンファレンス, 東京 ユビキタス協創広場 CANVAS 内田洋行, 2013 年 9 月 10 日. 671. 有賀三夏, 「アートのちから ~Art in Life 人生に芸術をどう使おうか?~」, 山形県倫理法人会, 山形グランドホテル, 2013 年 7 月 20 日. 672. 阪井和男, 巻頭言「ワークショップの教育方法論としての可能性」, 情報コミュニケーション学会, 『情報コミュニケーション学会誌』, Vol. 9, No. 1, pp. 2-3, 2013 年 7 月 15 日. 673. 有賀三夏, 「アートのちから ~Art in Life 人生に芸術をどう使おうか? 後編~」, 富山大学 人間発達科学部, 2013 年 6 月 14 日.

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

674. 有賀三夏,「アートのちから ～Art in Life 人生に芸術をどう使おうか? 前篇～」, 富山大学 人間発達科学部, 2013 年 5 月 17 日.
675. 阪井和男,「ワークショップの未来」, 明治大学サービス創新研究会「ワークショップを活用した“創造的学び”の促進 ～学校, 企業, NPO で広がるワークショップ～」, 明治大学サービス創新研究所, 2013 年 3 月 9 日.
676. 阪井和男,「生きる力を次世代リベラルアーツにするには ～ワークショップと ICT が拓く可能性～」, 第 10 回 情報コミュニケーション学会 全国大会「能動的学習とコミュニケーション」, 武庫川女子大学中央キャンパス(兵庫県西宮市), 2013 年 2 月 24 日.
677. 有賀三夏(ファシリテーター)・阪井和男・奥田修史・戸田博人・本間真, パネル討論『「芸術思考キャリアフォーラム山形」』構想を考える」, 第 79 回次世代大学教育研究会「芸術思考シンポジウム in 山形」, 東北芸術工科大学(山形市), 2013 年 2 月 1 日.

<センター研究会>

678. 「創造性開発研究センター最終まとめ会」, 東北芸術工科大学本館, 2017 年 3 月 16 日.
679. *阪井和男・戸田博人, 「アンケート分析結果報告会」, こども芸術大学 2 階会議室, 2016 年 3 月 23 日.
680. 「2016 春のワークショップ振り返り」, こども芸術大学 2 階会議室, 2016 年 3 月 23 日.
681. 「2016 新春のワークショップ振り返り」, やまがた芸術学舎, 2016 年 1 月 23 日.
682. *阪井和男・戸田博人, 「アンケート分析結果報告会」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2015 年 12 月 16 日.
683. 「2015 冬のワークショップ振り返り」, やまがた芸術学舎, 2015 年 11 月 28 日.
684. 「2015 秋のワークショップ振り返り」, やまがた芸術学舎, 2015 年 9 月 19 日.
685. 原田康也, 「芸術思考の考察についてのレクチャー」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2015 年 5 月 29 日.
686. 「レッジョ・エミリア研修報告会」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2015 年 5 月 29 日.
687. 戸田博人, 「インストラクショナル・デザイン勉強会」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2014 年 9 月 22 日.
688. 戸田博人, 「夏のワークショップ祭 検証報告会」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2014 年 9 月 22 日.
689. 阪井和男・戸田博人・森憲一・大島伸矢, 「夏のワークショップ祭 学内外合同振り返り」, こども芸術大学 2 階会議室, 2014 年 8 月 17 日.
690. 片桐隆嗣・遠藤節子・青山ひろゆき, 「夏のワークショップ祭 計画発表会」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2014 年 6 月 3 日.
691. 片桐隆嗣・遠藤節子・青山ひろゆき, 「レッジョ・エミリア研修報告会」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2014 年 6 月 3 日.
692. 矢作鹿乃子, 「わくわくワークショップ振り返り」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2014 年 3 月 24 日.
693. 有賀三夏, 「多重知能(MI)理論の基礎を学ぶ」, 東北芸術工科大学本館 6 階第一会議室, 2014 年 1 月 25 日.

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

多重知能理論の妥当性の検証にも踏み込んだ研究の広がりが求められる。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

多重知能理論の妥当性については、本研究で用いた多重知能分析アンケート票の妥当性を検証したことで、これに加えて主要 5 因子性格検査アンケートおよび SAN 感情測定スケールを用いたアンケートを 2014 年 10 月の WS から実施しており、これらの解析によってこれまで経験的に用いられてきた多重知能の定性的評価に対して、統計学的な根拠にもとづいた分析・評価できるようになったことが挙げられる。

これまでのアンケートを詳細分析した結果により、多重知能分析アンケートや多重知能分析チャートは、汎用性があるものとして他領域、他分野で活用している。研究センター内で活用した 3 種のアンケート(多重知能分析、主要 5 因子性格検査、SAN 感情測定スケールに加えて、キャリア・アンカー、認知の変化、イノベティブマインドセット、経験的学習スタイル、特性的自己効力感尺度、しなやかマインドセット、究極の質問、より 79 個の特殊項目を取り出し、スコア化して t 検定を実施し、その結果、多重理論分析アンケートは事前、事後変化を捉えるの指標として優れたものであることが分かった。(論文*4、学会発表*142, 143、センター研究会*678)

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1311001

16

(千円)

年度・区分		支出額	内 訳						備 考
			法 人 負 担	私 学 助 成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他(参加費)	
平成25年度	施 設	63,000	33,031	29,969					
	装 置								
	設 備	11,050	5,525	5,525					
	研 究 費	5,162	2,558	2,558				46	
平成26年度	施 設								
	装 置								
	設 備								
	研 究 費	11,324	5,662	5,662					
平成27年度	施 設								
	装 置								
	設 備								
	研 究 費	6,557	3,279	3,278					
平成28年度	施 設								
	装 置								
	設 備								
	研 究 費	10,733	5,367	5,366					
平成29年度	施 設								
	装 置								
	設 備								
	研 究 費	8,479	4,240	4,239					
総 額	施 設	63,000	33,031	29,969					
	装 置								
	設 備	11,050	5,525	5,525					
	研 究 費	42,255	21,106	21,103				46	
総 計		116,305	59,662	56,597				46	

法人番号	061001
------	--------

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
やまがた藝術学舎	H25	630㎡	6	3,200	63,000	29,969	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積
0 ㎡

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
(研究設備) ICT活用ワークショップ設備	H25		1式	552 h	11,050	5,525	私学助成
(情報処理関係設備)							

法人番号

061001

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 25 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	469	シンポジウム実施・ワークショップ実施	469	ワークショップ用品
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	90	シンポジウム実施・ワークショップ実施	90	シンポジウム・ワークショップ案内送料
印 刷 製 本 費	331	シンポジウム実施・ワークショップ実施	331	チラシ・ポスター印刷代
旅 費 交 通 費	1,625	シンポジウム実施・ワークショップ実施	1,625	外部講師旅費、国内・国外研究調査
報 酬・委 託 料	400	シンポジウム実施・ワークショップ実施	400	シンポジウム講演料、ワークショップ委託料
(出 版 物 費)	131	研究調査	131	調査資料書籍代
(賃 借 料)	14	シンポジウム実施・研究会実施	14	会議用テーブルレンタル料
(損 害 保 険 料)	5	ワークショップ実施	5	レクリエーション保険料
(諸 会 費)	1	学会参加	1	学会参加費
(会 議 費)	330	シンポジウム実施・研究会実施	330	打合せ飲食代
計	3,396		3,396	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)				
教育研究経費支出	132	展示補助アルバイト	132	時給700円、年間時間数約189時間、実人数21人
計	132		132	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	1,634	プロジェクター・スクリーン	459	プロジェクター1台、スクリーン1台
		テーブル・スツール	1,175	テーブル・スツル一式
図 書				
計	1,634		1,634	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0		0	

法人番号

061001

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	285	ワークショップ実施	285	ワークショップ用品、研究記録用品
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	67	ワークショップ実施	67	ワークショップ案内・用品送料、報告書送料
印 刷 製 本 費	1,204	WSチラシ、報告書作成	1,204	チラシ・ポスター印刷代、報告書印刷代
旅 費 交 通 費	4,170	研究調査、ワークショップ実施、その他	4,170	国内・国外研究調査旅費、ワークショップ実施旅費
報 酬・委 託 料	2,934	ワークショップ実施、報告書作成	2,934	ワークショップ委託料、報告書原稿料
(出 版 物 費)	51	研究調査	51	調査資料書籍代
(賃 借 料)	14	研究調査	14	ルーターレンタル料
(損 害 保 険 料)	51	研究調査、ワークショップ実施	51	海外旅行保険料、レクリエーション保険料
(諸 会 費)	561	ワークショップ・シンポジウム参加、その他	561	ワークショップ・シンポジウム参加料
(会 議 費)	150	ワークショップ実施、研究会実施	150	打合せ弁当代、こども用飲料代
計	9,487		9,487	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出				
(兼 務 職 員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	1,837	パソコン	325	パソコン1台
		プロジェクター	1,512	プロジェクター1台
図 書				
計	1,837		1,837	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0		0	

法人番号	061001
------	--------

年 度		平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	315	ワークショップ実施、資料整理	315	ワークショップ用品、研究記録用品
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	63	ワークショップ案内、アンケート送付	63	ワークショップ案内・用品送料、報告書送料
印 刷 製 本 費	1,156	報告書作成、WSチラシ	1,156	チラシ・ポスター印刷代、報告書印刷代
旅 費 交 通 費	1,703	研究調査、ワークショップ実施	1,703	国内・国外研究調査旅費、ワークショップ実施旅費
報 酬 ・ 委 託 料	2,541	アンケートデータ分析	2,541	アンケートデータ分析費、ワークショップ委託料、報告書原稿料
(出 版 物 費)	259	調査研究、報告書作成	259	調査資料書籍代
(損 害 保 険 料)	5	ワークショップ実施	5	レクリエーション保険料
(諸 会 費)	196	講座・研究会参加	196	ワークショップ・シンポジウム参加料
(会 議 費)	79	ワークショップ実施	79	打合せ弁当代、こども用飲料代
計	6,317		6,317	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)				
教育研究経費支出	240	研究補助アルバイト	155	時給750円、年間時間数約206時間、実人数1人
		ワークショップ実施補助アルバイト	85	時給700円、年間時間数約121時間、実人数14人
計	240		240	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0		0	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポ ス ト ・ ド ク タ ー				
研究支援推進経費				
計	0		0	

法人番号	061001
------	--------

年 度		平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	738	ワークショップ実施、資料整理	738	ワークショップ用品、研究記録用品
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	112	ワークショップ案内、報告書送付	112	ワークショップ案内・用品送料、報告書送料
印 刷 製 本 費	2,441	報告書作成、WSチラシ	2,441	チラシ・ポスター印刷代、報告書印刷代
旅 費 交 通 費	3,356	研究調査、ワークショップ実施	3,356	国内・国外研究調査旅費、ワークショップ実施旅費
報 酬 ・ 委 託 料	3,200	アンケートデータ分析	3,200	アンケートデータ分析費、ワークショップ委託料、報告書原稿料
(出 版 物 費)	16	調査研究、報告書作成	16	調査資料書籍代
(損 害 保 険 料)	30	ワークショップ実施	30	レクリエーション保険料
(諸 会 費)	265	講座・研究会参加	265	ワークショップ・シンポジウム参加料
(会 議 費)	114	ワークショップ実施	114	打合せ弁当代、こども用飲料代
(渉 外 費)	7	協力機関手土産	7	協力教育関係機関への訪問時手土産代
計	10,279		10,279	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)				
教育研究経費支出	454	研究補助アルバイト	112	時給700/750円、年間時間数約153.5時間、実人数12人
		ワークショップ実施補助アルバイト	342	時給700/750円、年間時間数約476.7時間、実人数54人
計	454		454	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0		0	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0		0	

法人番号	061001
------	--------

年 度	平成 29 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	249	ワークショップ実施、資料整理	249	ワークショップ用品、研究記録用品
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	298	シンポジウム案内、報告書送付	298	総括シンポジウム・探究型学習研究大会案内、報告書送料
印 刷 製 本 費	1,001	告知チラシ、成果報告書	1,001	総括シンポジウム・研究大会チラシ、研究成果報告書印刷代
旅 費 交 通 費	1,894	研究調査、ワークショップ実施	1,894	国内・海外研究調査旅費、シンポジウム・研究大会旅費
報 酬・委 託 料	3,976	アンケートデータ分析	3,976	アンケートデータ分析費、講師料、外部評価委員謝金
(諸 会 費)	156	講座・研究会参加	156	ワークショップ・シンポジウム参加料
(会 議 費)	246	ワークショップ実施	246	打合せ弁当代、会議食事代
(渉 外 費)	4	協力機関手土産	4	協力教育関係機関への訪問時手土産代
計	7,824		7,824	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)				
教育研究経費支出	655	研究補助アルバイト	608	時給750円、年間時間数約810.8時間、実人数3人
		ワークショップ実施補助アルバイト	47	時給750円、年間時間数約63.0時間、実人数10人
計	655		655	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0		0	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポ ス ト・ド ク ター				
研究支援推進経費				
計	0		0	

資料編

1	年表　＜シンポジウム・研究会＞	1
2	年表　＜実施済みのワークショップ一覧＞	3
3	本事業による刊行物一覧.....	7
4	外部評価	
	・ 中間報告時	9
	・ 最終報告時	12
5	本事業に関する新聞等記事掲載一覧	19
6	研究成果報告書掲載 URL	21
7	公開講座等の関連告知チラシ	23

創造性開発研究センター年表 <シンポジウム・研究会>

研究会「第1回 探求型学習・デザイン思考に関わる研究会」

日時：2015年8月5日（水）

会場：東北芸術工科大学

講師：柚木泰彦

研究会「第2回 探求型学習・デザイン思考に関わる研究会」

日時：2015年10月17日（土）

会場：東北芸術工科大学

講師：早野由美恵、黒田淳子（米沢工業高等学校）

研究会「第3回 探求型学習・デザイン思考に関わる研究会」

日時：2016年2月14日（日）

会場：東北芸術工科大学

講師：三橋幸次、吉田卓哉、早野由美恵、黒田淳子（米沢工業高等学校）

シンポジウム「第2回 SCH シンポジウム 分科会A 『デザイン思考と地域参画の方法論』」

日時：2016年2月21日（日）

会場：東北芸術工科大学

講師：柚木泰彦

「創造性開発研究センター2015 活動報告展」

会期：2016年3月25日（金）～4月3日（日）

会場：東北芸術工科大学

「創造性開発研究センター芸術思考分科会」

日時：2016年4月7日（水）

会場：東北芸術工科大学

「創造性開発研究センター芸術思考分科会」

日時：2016年7月7日（木）

会場：東北芸術工科大学

講習「多重知能理論 実践例と芸術の関わりについて」

日時：2016年7月13日（水）

会場：東北芸術工科大学

講師：ペンシルバニア州立大学 ミンディ・コンハーバー

国際シンポジウム「多重知能理論の展開と深化」

日時：2016年7月16日（土）

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー

研究会「第4回 探求型学習・デザイン思考に関わる研究会」

日時：2016年8月5日（金）

会場：東北芸術工科大学

講師：早野由美恵、三橋幸次

「創造性開発研究センター芸術思考分科会」

日時：2016年10月4日（火）

会場：東北芸術工科大学

参加：青山ひろゆき、矢作鹿乃子、吉賀伸、齊藤祥子、有賀三夏

「創造性開発研究センター芸術思考分科会」

日時：2016年11月16日（水）

会場：東北芸術工科大学

参加：阪井和男、有賀三夏、青山ひろゆき

「創造性開発研究センター芸術思考分科会」

日時：2016年12月13日（火）

会場：東北芸術工科大学

参加：有賀三夏、青山ひろゆき

「創造性開発研究センター学内研究院対象勉強会」

日時：2016年12月16日（水）

会場：東北芸術工科大学

参加：阪井和男、戸田博人

研究会「第5回 探究型学習・デザイン思考に関わる研究会」

日時：2017年2月12日（日）

会場：東北芸術工科大学

「ワークショップのタネ実践講習会」

日時：2017年9月9日（土）

会場：東北芸術工科大学

総括シンポジウム「これからの教育をソウゾウする」

日時：2017年9月9日（土）

会場：東北芸術工科大学

「学びの改革 334 プロジェクト 探究型学習研究大会」

日時：2017年10月21日（土）、22日（日）

会場：東北芸術工科大学

創造性開発研究センター年表 <実施済みのワークショップ一覧>

ワークショップ種類数 39
 ワークショップ実施数 65
 のべ参加者数 1432人
 分析対象数アンケート合計 5085

実施期間 2014年3月24日～2017年6月12日

表. 実施済みのワークショップ一覧

イベント名	ワークショップ名	担当	年月日	対象	参加者数
2014 夏のワークショップ祭	こども芸術大学ワークショップ	矢作鹿乃子	2014年3月24日	小1～3	15
	ペタペタからうまれるものがたり	青山ひろゆき	2014年8月11日	小1～4	15
	色水鉄砲でTシャツをつくろう！	渡部桂	2014年8月11日	小4～6	8
	かくれた顔を探せ！	渡部桂	2014年8月11日	小4～6	10
	見えない地図を描く	柚木泰彦	2014年8月11日	小3～6	9
	世界一遅いたまごがしに挑戦しよう	三橋幸次	2014年8月11日	小3～6	8
	わりえカルタをつくってあそぼう！	深井総一郎	2014年8月11日	小4～6	13
	食べる彫刻 自分らくがん	古賀伸			
	TUAD スポーツパフォーマンス測定会	大島伸也	2014年8月17日	小5～6	15
	体を動かして、スポーツタオルのデザインにチャレンジ！	澤口俊輔	2014年8月17日	小5～6	5
2014 大空小学校（大阪）10月	同上	澤口俊輔	2014年8月18日	小5～6	5
	スリーピーアとお友達になろう	有賀三夏	2014年10月20日	小4	20
	同上	有賀三夏	2014年10月20日	小4	20
	同上	有賀三夏	2014年10月20日	小5	20
	同上	有賀三夏	2014年10月20日	小5	20
冬のワークショップ	花ぼうしづくり ～ぼうしに花を生けよう！	青山ひろゆき	2014年12月14日	小1～3	15

～							
世界一遅い球転がしに挑戦しよう！ Ver.2	柚木泰彦		2014年12月14日		小3～6		9
わくわく粘土ワークショップ Vo.1 ～カラフル陶芸でマイホームをつくろう！～	吉賀伸 深井聡一郎		2015年1月11日		小3～6		15
雪を使って、世界に一つだけのアーチをつくろう！	渡部桂		2015年2月8日		小3～6		12
へんてこラージュ ～見たことのない生き物をつくろう～	矢作鹿乃子		2015年2月8日		小1～3		14
2014 大空小学校（大阪）12月							
	有賀三夏	Dan dots WS「ダンドット」（2日間）	2014年12月15日		小4		20
	有賀三夏	同上	2014年12月15日		小4		20
	有賀三夏	同上	2014年12月15日		小5		20
	有賀三夏	同上	2014年12月15日		小5		20
2015 春のワークショップ							
	柚木泰彦	世界一遅い球転がしに挑戦しよう！ Ver.3	2015年3月25日		小3～6		18
	澤口俊輔	ちぎってあそぼう！しんぶんし！	2015年3月25日		小1～3		18
	深井聡一郎 青山ひろゆき 吉賀伸	食べる彫刻 家族パン	2015年3月25日		小1～6		19
2015 中学生ワークショップ							
	有賀三夏	Smart Stand up doll Making!! 「スマートスタンドアップドールを作ろう！」	2015年6月20日		中学生		19
	有賀三夏	同上	2015年6月20日		中学生		20
	三橋幸次	「デザイナーの視点（複眼思考）を体験しよう」	2015年6月20日		中学生		20
	三橋幸次	同上	2015年6月20日		中学生		20
2015 秋のワークショップ							
	青山ひろゆき 矢作鹿乃子	ただいて！つづいて！大きな絵	2015年9月19日		小1～6		25
	早野由美恵 渡部桂	世界でひとつの「バッグ」をデザインしよう！	2015年9月19日		小4～6		8
	柳田哲雄 矢作鹿乃子	身近な葉っぱをただいて染めよう！	2015年9月19日		小4～6		11
鈴川小学校美術クラブワークショップ							
	矢作鹿乃子 青山ひろゆき	へんてこラージュ	2015年11月10日		小4～6		24
2015 冬のワークショップ							
	矢作鹿乃子 青山ひろゆき	さわって・ただいて・絵を描こう	2015年11月28日		小1～6		15
	深井聡一郎	食べる彫刻 動物ビスケット	2015年11月28日		小4～6		12

2016 新春のワークショップ	わくわく粘土ワークショップ Vol.2 聴いて、触って、何つくる？	矢作鹿乃子 吉賀伸	2016 年 1 月 23 日	小 1～3	15
卒業／修了研究・制作展 小学生向け鑑賞ツアー	みる・かんがえる・きく・はなす	矢作鹿乃子 全教員	2016 年 2 月 11 日	小学生	9
2016 春のワークショップ	ハトメで繋げるオリジナル自分定規！	澤口俊輔	2016 年 3 月 23 日	小 3～5	6
	わくわく粘土ワークショップ Vol.3 (聴いて、触って、何つくる？)	吉賀伸	2016 年 3 月 23 日	小 3～5	7
	新・世界一遅い球転がしに挑戦しよう！	矢作鹿乃子			
		柚木泰彦	2016 年 3 月 23 日	小 3～6	9
2016 山形第一小学校 6 月	たたいて！ つぶして！ 大きな絵	青山ひろゆき	2016 年 6 月 25 日	小 6	45
	わくわく粘土ワークショップ Vol.4 ① (聴いて、触って、何つくる？)	吉賀伸	2016 年 6 月 25 日	小 4	45
2016 鶴岡市立朝陽第二小学校 7 月	たたいて！ つぶして！ 大きな絵	青山ひろゆき 有賀三夏	2016 年 7 月 4 日	小 4	65
2016 山形第一小学校 7 月	わくわく粘土ワークショップ Vol.4 ② (聴いて、触って、何つくる？)	吉賀伸	2016 年 7 月 15 日	小 4	45
	世界一遅い球転がしに挑戦しよう！	柚木泰彦	2016 年 7 月 15 日	小 6	44
2016 夏のワークショップ	トリミテカク～よく、見て描こう～ アートなスイカの食しかた	矢作鹿乃子	2016 年 8 月 11 日	小 3～4	8
		有賀三夏 深井聡一郎 青山ひろゆき	2016 年 8 月 11 日	中 1～3	12
	羊の毛をこすってからめてフェルトボールをつくろう	柳田哲雄	2016 年 8 月 11 日	小 4～6	7
2016 鈴川小学校 9 月	へんてこラージュ①	矢作鹿乃子	2016 年 9 月 6 日	小 4～6	26
	へんてこラージュ②	矢作鹿乃子	2016 年 9 月 12 日	小 4～6	26
みちのおく芸術祭 山形ビエンナーレ	ビエンナーレしぐるぐる	齊藤祥子	2016 年 9 月 18 日	小 1～6、中 1	33

2016 山形市立第一小学校 9月	たいせつなひとに贈ろう ドキドキ・わくわくメッセーじカード	早野由美恵	2016年9月23日	小 4	48
	もじもじメッセーじカード	澤口俊輔	2016年9月23日	小 6	45
2016 山形市立第一小学校 11月	世界一遅い球転がしに挑戦しよう！ はんでコラージュ	柚木泰彦	2016年11月4日	小 4	45
		矢作鹿乃子	2016年11月4日	小 6	44
2016 鶴岡市立朝陽第二小学校 12月	トリミテカク～よく、見て描こう～	矢作鹿乃子	2016年12月12日	小 4	65
2016 山形市立第七小学校 12月	車掌になって、駅舎を作って線路を走ろう！	有賀三夏	2016年12月17日	小 1～2	27
2017 山形市立第七小学校 1月	みんなと交換！ 作ろうオリジナルモンスター！	有賀三夏	2017年1月14日	小 1～2	26
2017 鶴岡市立朝陽第二小学校 1月	スリーピーベアとお友達になろう	有賀三夏	2017年1月16日	小 4	65
2017 春のワークショップ	世界一遅い玉転がしに挑戦しよう！	柚木泰彦	2017年3月22日	小 3～6	16
2017 春のワークショップ	プロのロゴ作りを体験！	浅井由剛	2017年3月25日	中 1～3	11
	言葉の達人になろうゲーム	庄司博幸	2017年3月25日	小 4～6、中 1～3	14
	物語の中の自分を表現しよう	浅井由剛	2017年3月25日	小 3～6	5
2017 鶴岡市立朝陽第二小学校 6月	スリーピーベアとお友達になろう	有賀三夏	2017年6月12日	小 4	62

本事業による刊行物一覧

●2014 年度創造性開発研究センター研究活動報告書

発行日 2015 年 4 月 30 日
発行 東北芸術工科大学創造性開発研究センター
監修 片上義則（創造性開発研究センターセンター長）
編集 片桐隆嗣（創造性開発研究センター副センター長）
有賀三夏（創造性開発研究センター研究員／講師）
須藤知美（創造性開発研究センター事務局）
上遠野里香（創造性開発研究センター事務局）

●2015 年度創造性開発研究センター研究活動報告書

発行日 2016 年 5 月 18 日
発行 東北芸術工科大学創造性開発研究センター
監修 片上義則（創造性開発研究センターセンター長）
編集 有賀三夏（創造性開発研究センター研究員／講師）
須藤知美（創造性開発研究センター事務局）
土屋香奈（創造性開発研究センター事務局）
上遠野里香（創造性開発研究センター事務局）

●2016 年度創造性開発研究センター研究活動報告書『ワークショップのタネ』

発行日 2017 年 3 月 30 日
発行 東北芸術工科大学創造性開発研究センター
監修 片上義則（創造性開発研究センターセンター長）
編集 有賀三夏（創造性開発研究センター研究員／講師）
青山ひろゆき（美術科洋画コース准教授）
柚木泰彦（プロダクトデザイン学科教授）

●創造性開発研究センター研究成果報告書

発行日 2017 年 2 月（予定）
発行 東北芸術工科大学創造性開発研究センター
監修 片上義則（創造性開発研究センターセンター長）
編集 有賀三夏（創造性開発研究センター研究員／講師）
青山ひろゆき（美術科洋画コース准教授）
柚木泰彦（プロダクトデザイン学科教授）
執筆 学内研究員・学外研究員・研究協力者・外部評価委員

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」

中間報告・外部評価書

前山形県教育委員会委員長 長南博昭

1. 本研究は、最終的に「学習指導要領」が掲げる「生きる力」を育むことが「ねらい」である。私たち人間は、この力を持っていればすべて上手に生きていくことができるのである。この力を育むためには「前提条件」がなければならない。それは「壁(ショック)」である。子どもが何かに取り組んでいるときに「どうしてもできない!」とか「困ったことになってしまった!」「悔しい!」という気持ちを持つこと、これが「壁」である。すなわち「壁に当たった」ということである。この壁に当たるということが今の子どもたちには極めて少なくなっている。壁に当たったときに、「どうしよう」何かを「しなければ!」という気持ちが出れば、「生きる力」の育成につながる道筋に入るのである。
2. そのスタートを「何で」行うのかが「ポイント」であり、「壁」を意識させる取組を本研究では「WSワークショップ」を取り上げている。そして、その活用の方角づけに「芸術思考」と「デザイン思考」を採用していることである。これらを基本に総合的に教育方法を確立しようとしている点が「新たな研究」になっていることである。そして、芸術分野にアンケートによる「多重知能理論」の8領域によって「可視化」する方法は画期的な手法であり、今後の研究に特に期待したい部分である。しかも、このWSは、学生とともに進んでおり、学生にとっても有益な経験をすることができる。この点もこれまでの研究には少なかったことである。また、「行動観察」によってWSを形成的な評価を行っており、「多重知能理論」の各領域の達成評価にしていることも素晴らしい取組である。ここまでくるのに時間は3年かかっている。しかし、これを「きっかけ」にして、このあとの2年間で、必ずや成果に結びつくものと推測する。
3. 本研究は、「創造性」という領域を取り上げて、技術面では捉えにくい部分を数字に置き換えて、それを「教育」に落とし込むという手法を取り入れている。この部分がこれまでの研究にはあまり無かったことであり、挑戦的であると言える。自分の「発見」や「ひらめき」を発展させ、どこにつなげるか、頭の中でイメージを感じ、それを様々な活動につなげていくものが「創造力」である。子ども自身の豊かな体験を重ねることが、子どもに「生きる力」を育ててくれるのである。したがって、本研究は、これからが本番の取組であり、是非成果に結びつく方法を解き明かしてもらいたい。
4. これまでの3年間では、予算の積み残しが課題になっているが、研究の進め方においては、組織面での課題もあるようで、事務と研究が一体的に運営できなかったことと、事務担当者の意識がずれていたのではないと思われる。そして、予算の積み残しは普通ではないことである。しかし、このあとの2年間の研究で、国際シンポジウムの開催やその他の委託料の増配分など、または計画の見直しによって、これを解消していく必要があるのではないかと。
5. この研究の計画書に、「国際シンポジウムの開催」が予定されている。このことは来年度早々に実現してもらいたいことであり、「多重知能理論」の実証性を確認することも必要で

ある。また、ハーバード大学との将来的なつながりをつけるためにも、そして、「多重知能理論」の良さを理解するために、また連携を進めるためにも「国際シンポジウム」の開催は必要である。この研究は、日本にとっても、教育にとっても、芸術領域にとっても、未来への可能性を持っているものである。今後もこの研究を持続し、しかも文部科学省の支援も得ながら、芸術分野での「新たな観点」が見出されることを期待するものである。

6. WSも来年度からは、市内小学校で行うことが決まっており、これまでの大学でのWSよりもさらに実証性が確認されるものと推測する。この研究のすばらしい点は、「連携・協働」によって進められていることであり、今後はさらに強化していく必要がある。

以上、この研究は、芸術大学の重要な取り組みがたくさんあり、それがポイントである。「これからの2年間」で是非成果を出してもらえることを期待する。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」
中間報告・外部評価書

山形大学大学院教育実践研究科教授 渡部泰山

この研究は、東北芸術工科大学の設立構想・設立理念を基盤とし、芸術大学の特色を最大限に生かした「芸術思考」及び「デザイン思考」を活用した新しい教育方法の構想、実践及び確立にある。それは、従来の人間の能力や知能の概念を一層深く掘り下げ、ワークショップの方法論を実践、検証しつつ、身体、社会、空間、論理数学、言語知能の領域を統合するプログラムの開発を目指した実践的研究であり、新しい時代を創造的に建設していくための知の認知革命とも言うべきものである。

研究組織の拠点として創造性開発研究センターを設置し、ここに41名にも及ぶ研究者を擁した「学際性」「実践性」に富む研究体制を整備した強みがある。しかも、研究の理論化を進めるグループと分析担当グループに分け、また、多重知能に対応する5つのワーキンググループを組織しつつ、学校教育グループと外部評価グループを配置したことは、より実証的研究としてその方向性を確かなものとしている。ただ、この強みとも言える研究体制あるいは研究員が、研究成果、研究発表論考を勘案したとき、必ずしもこの研究プロジェクトの目的も方向性に収斂された研究実践、成果として積み重ねられ、課題分析・評価を踏まえた更なる共同研究の高みへと共通認識に至っているのかどうかについては、やや統一性が欠如している印象は免れない。研究自体、極めて独創的、かつ実験的要素も多々あり、安易な評価を下すのは尚早であり、今後の研究で予定されている創造性開発拠点（芸術学舎）の活用と新たな展開、国際的公開型研究シンポジウムの開催等、順調に計画されている進捗状況を勘案し、大いに期待すべきものとする。

研究プロジェクトの進捗を省察したとき、特筆すべき実践成果として小中学生を対象としたワークショップが41回実施され、行動観察及び多重知能の推定、仮定に基づく分析と可視化が行われていること、知能アンケートが実施され自己評価、成長感情評価が多面的に実践されている。その分析を通して研究者と参加者が、更なるデザインの方向性、密度を検証しあえていることである。また、理論成果として各大学教育研究会、学会、シンポジウム等において、数多くの学術的研究発表が行われ、受賞を受けていることなど、先行研究としての評価は、確実なものとして展開している。こうした独創的視点を加味した研究実践が、創造性開発モデルとして新しい実りをもたらすことが期待できる。ただこうした研究が、ただ単に学術的価値にとどまることなく、学校教育の現場と密接に接続しつつ、広く一般市民、社会全般にも周知、還元されていく手立て、研究の質と方向性の確保が課題として指摘できる。予算執行率の低位な状況を鑑みたとき、研究が必ずしも順調に進捗しているとは言えない。当初の研究計画を再度練り上げ、今後の研究方針及び展開を着実に推進し、「生きる力」の能力の多面的研究が、新たな時代の創造に寄与できることを確信するものである。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」

最終報告・外部評価書

前山形県教育委員会委員長 長南博昭

1. この研究は、これからの時代に必要な「創造性」の開発に目を向け、研究理論の基礎を「多重知能(MI)理論(H. ガードナー氏 ハーバード大学)」に置き、その中で人間が持っていると言われる「8つの知能」すなわち、身体的、空間的、対人的、内省的、言語的、論理・数学的、音楽的、博物的な知能を育てる「ワークショップ(WS)」を通して、その前後における感情等の変化(多重知能分析シート等)から、子どもの多様な個性を生かす「創造性開発プログラム」をしようとしている。
 2. 研究組織では、創造性開発と芸術思考・デザイン思考の統合的研究を担う「統括プロジェクト」を設置した。統括プロジェクトとは、創造性開発における領域統合の理論と分析方法の研究を担当する「理論・分析グループ」である。さらに、ワークショップの開発・実施を担当する「ワークショップグループ」も併設された。ここで実施されたワークショップは、それぞれ多重知能理論の要素を活かして作られており、子どもの活動の前後における感情と知能等の変化をレーダーチャートで「可視化」することを試みている。これは、この研究のポイントとして評価できる。
 3. 研究組織の編成においても「学内研究員」と「学外研究員」の多様な方々を選出したことは、研究に「広がり」と「深まり」を出すことにつながっている。特に、「学外研究員」の献身的とも言える努力には頭が下がる思いを持っている。阪井教授グループの分析は、「創造性」という技術面では捉えにくい部分を数字に置き換えて、それを「教育」に落とし込むという手法を取り入れている。具体的には 8 知能領域の「ワークショップ(WS)」前後の感情の変化等をアンケート調査し、その結果から取組の成果を見極めている。この部分が一種の「挑戦的な研究」であったと言える。
- また、ハーバード大学等、海外からの理解とサポートがあったことも特筆すべき点であろう。
4. ワークショップは子どもの自由な発想や活動を誘発しようとするものである。そのため、ワークショップを設計する際には、指導者の考えに基づいて「子どもの具体的な発想や活動がなぜ・どのように重要なのか」を考えることが必要である。本研究の評価員の一私感としては、「ワークショップ(WS)」では、子どもたちに一つの「体験の壁」を意識させなければならないと考える。

そして、その意識付けに「芸術思考」と「デザイン思考」を取り入れ、これらを基本に総合的に教育方法を確立しようとしている点がこれまでに無かった「新たな研究」になっている。何と言っても、子どもたちの「意識化」と「行動化」がなければ創造性開発にはつながらないのである。

また、「ワークショップ(WS)」の企画にあたっては、自分の「発見」や「ひらめき」を発展させ、それを何につなげるか、頭の中でイメージ化させ、それを様々な活動につなげ

ていくものが「創造力の基礎」を築くのである。子ども自身の豊かな体験を重ねることが、子どもに「生きる力」を育ててくれるのである。この力を育むためには「前提条件」が必要になる。それは「体験の壁(ショック)」である。子どもが何かに取り組んでいるときに「どうしてもできない!」とか「困ったことになってしまった!」「悔しい!」という気持ちを持つこと、これが「体験の壁」であると考ええる。

すなわち「壁に当たった」という体験が次の活動を生むのである。この壁に当たるということが今の子どもたちには極めて少なくなっている。壁に当たったときに、「どうしよう!」「何かしなければ!」という気持ちが育まれば、「生きる力」の育成につながる道筋に入ったことになるのではないか。

5. この研究の課題の一つ目は、発達特性における8知能領域と、それぞれ子どもの「成長段階」との調和を意図した「ワークショップ(WS)」の開発ができれば、研究がさらに含蓄のあるものになったのではないかと考える。二つ目の課題として、この研究は子どもの意志と気持ちを育てるものであるから、指導者側の「教育にかける意志」と子どもの「主体性」をどうマッチングさせるかを検討するべきである。
6. 平成28年からは、開発拠点である「藝術学舎」で行う「ワークショップ(WS)」のほかに、山形市立第一小学校、第七小学校と鶴岡市立朝暘第二小学校でも実施することになった。いずれの学校も、主に3,4年生を中心に取り組み、特に、鶴岡市立朝暘第二小学校のワークショップの感情の変化等やレーダーチャートでは整合性のある結果を得ることができた。この研究は、研究と地域が「連動」することによって研究が深まるのであり、「藝術学舎」で行う「ワークショップ(WS)」から地域の公立小学校で行う「ワークショップ(WS)」まで発展したことが研究の成果につながったと言える。また、この「ワークショップ(WS)」の実施に当たっては、学生も指導者のアシスタントとして研究に携わっており、彼らにとっても有益な経験になったであろう。この点においても、これまでの研究にはあまり見られなかったことである。
7. そして、「研究報告書」にもこの研究の特性が表れている。特に、2016年の「ワークショップのタネ」は、写真と文字の見開き2ページで斬新な構成である。一つ一つのワークショップが見やすく、しかも、DVDが付いていることで一層分かりやすく表現されており、まさに「タネ」になっている。見開きの下段には「ワークショップのプロセス」として時間の経過とともに活動の様子がわかるもので、素晴らしい構成になっている。「最終報告書」については、重厚な仕上がりとなっており、そこに5年間の研究にける研究員達の想いと芯の強さを感じることができた。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」

最終報告・外部評価書

外部評価委員 勝見英一郎

1 研究の目的について

「生きる力」の育成を大目標とし、その中でも特に重視される「創造力」に焦点を当てたことは、加速度的に変化する社会が要求する能力を的確に捉えた点で適切であった。また、創造力育成の理論的根拠に芸術・デザイン思考を置いたことも、芸術大学の強みを発揮する点で独創的であった。特に「生きる力」の捉え方については、東日本大震災から立ち直る東北の子どもたちの姿が投影され、東北の大学らしい挑戦的な姿勢が感じられた。本研究は、研究期間で基盤を構築し、その成果を発展的に継承してこそ意義があると考えた。その点でも「創造性開発拠点の形成」は、今後を期待させる目標設定であった。とりわけ、学校教育において探究型学習の重要性が認識される中、「こども芸術大学」や「探究型学習・デザイン思考に関わる研究会」など当大学が培ってきた知見を生かして小中高の探究型学習を支援しようとしたことは、現在の学校教育の課題に直接的に働きかけるものとして大きな役割を果たすこととなった。

2 研究の体制について

研究の拠点として「創造性開発研究センター」を立ち上げ、40名を超す学内外研究者・研究協力者を研究内容や分担に応じてグループ化し、理論研究とプログラム開発を進めたことは、研究を深め拡大を図る上で効果的であった。一般には、多人数であることあるいはグループ化は、研究の方向を焦点化する点で難しさがあるが、本研究においては適宜、研究会を開催しながら、研究目的と研究の手法及び進捗状況等が共有され舵取りがなされてきた。これは「創造性開発研究センター」という拠点をまず最初に築いたゆえであろう。そして、研究の両輪となったのが芸術思考とデザイン思考である。当初は両者の融合を目指していたのだが、研究を通して両者の働きが明確となり、両輪として研究を牽引することとなった。

3 研究の手法について

多重知能理論（以下“MI”）の活用とワークショップ（以下“WS”）が本研究を代表する手法であった。

MIは、国内では十分に認知されていると言いがたいことから、MIの理解、MIの視点によるWSの分析、WS評価のためのMIアンケートとレーダーチャートの開発等が行われた。これにより、どのWSが子どもたちのどんな能力に働きかけるのかが明確になった。これは、WSを小中高の教育現場に導入する時の、信頼できる指標になったと言える。ただ、MIを、本研究全体を貫く評価機能として十分に活用できたかという点では改善の余地があった。WSの対象が小中高生であり、アンケートをとるには学校と保護者の承諾を得る必要があることから一定の限界があることは止むを得ないが、MIの信頼度・認知度を高める研

究や実践が、今後において期待されよう。

WSは、当大学がこれまで地道に取り組んできた探究型学習追究の手法であり、MIと並ぶ本研究の柱であった。当大学のWSを通した課題解決型学習・探究型学習の開発は、ここ数年、県内で高く評価されるようになってきた。それが、県教委や小中高との連携をスムーズにした要因であろう。県教委によれば、学校現場では探究型学習はまだ模索の段階であると言う。その入り口としてWSは適切な手法であった。一つの型ではあるが、学校現場が教科や地域課題に応じて工夫・発展できる手法であり、多様な探究型学習を生み出す切り口となるものであった。

4 研究の経過について

5年間の研究期間の最初の時期は理論的研究が主であった。芸術思考に関する様々な学会発表・研究発表が行われ、デザイン思考においても、WSに関する研修を重ねてプログラム開発が進められた。そして中期は、小中高の学校現場に「主体的・対話的で深い学び」を実践する多くのWSが提案された。そうした研究成果を、さらに深化させ浸透させるために、「総括シンポジウム」「探究型学習研究大会」等が開催されたのが後期であった。研究関係者による最後の「全体研究会」では、「最初は何も見通せなかったが、5年経った今、研究で積み上げてきたことや学校現場に展開してきた成果が具体的になり、見えなかった景色が見えるようになった」という思いは皆に共通だったように思われる。当初は手探りであったろうが、「芸術思考とは何か」「デザイン思考のプロセスは何か」「MIをどう評価に生かすか」等を解き明かす中で一つ一つ灯りをともし、たどりついた達成感だったのだろう。

5 研究の成果について

第1の成果は、研究の目的であった「創造性開発拠点の形成」がなされたことである。平成27年の山形県教育委員会との連携協定が象徴するように、県内の小中高でWSを実践し、県がめざす探究型学習を先導する役割を果たしてきた。山形県においては、探究型学習は小中学校では積極的に取り入れられているものの高校は弱いとされてきた。しかし、県が期待を持って開校した東桜学館高校の総合的な学習「未来創造プロジェクト」に本研究で開発されたWSが導入されたり、平成30年度開設の「探究科」をもつ山形東高校が新たに連携協定に動いたりするなど、当大学が関わることによって、高校での探究型学習は確実に前進するようになった。県や連携校をヒアリングしたのだが、どこにおいても当大学への感謝と期待が如実に感じられたのは、その証左であろう。こうした成果は、創造力の育成を掲げてきた当大学の理念と本研究の目的が相乗的に融合し花開いた結果である。

第2に、「生きる力」を、東北が大震災から復興を成し遂げていくイメージに重ね、当大学が開学以来掲げてきた「創造力」に結びつけた点である。子どもたちのもつ感性や個性、あるいは経験から形成されてきた内面や思いに形を与えて具象化するという芸術思考の働き、課題と諸条件を分析しプロトタイプに改善を加えてモノやコトをつくりあげるというデザイン思考の働き、その全体プロセスを「創造力」とするなら、それはまさに「生きる力」と言えよう。学習指導要領等で用いられる「生きる力」と全く同じ定義ではないものの、東北の挑戦として取り組んできた「生きる力を育む創造性開発」を十分に具体化した研究であったと言える。

第3に、子どもたちの資質・能力の育成にMIを活用した点である。MIは、IQと対比

して語られるが、MIはIQを否定するものでも相反するものでもないと考える。MIは、IQで対象としない様々な能力を、感性とか個性とかの人格的な要素も含めて、測定しようとするものである。だからこそMIは、子どもたちに、自分は何者かを自覚させ、そして何よりも、自信を与え自立の力を与えてくれるのである。本研究が、子どもたちの創造性を育み、「生きる力」を身につけさせることを目指しているとき、より有効な指標としてMIを活用したことは適切なことであった。実際、この研究において開発された数多くのWSがMIとの関連で意義付けされている。また、WSによってどのような能力が触発されたかを測るものとしてMIアンケートが開発され、これによりWS前後の子どもの変容を数値として把握できるようになった。これは、WS開発者に明確な目的意識を喚起させるものであり、また、学校現場がワークショップを導入する際の指標となるものである。MIが、結果として、子どもたちの多様な姿を浮き彫りにしたことも、一人ひとりの子どもを生かす点で大事なことであった。

第4に、上記に関連することであるが、ハーバード大学及び学外研究員の協力体制が構築できたことである。本研究においてMIを活用できたのは、MI開発者の理解があったからであるし、また、アンケートの詳細な分析は学外研究員の専門的な知識と技能が駆使されたからである。本研究を推進するエンジンはもちろん当大学内にあるのだが、学外の協力は、その出力を高める触媒の役割を果たすものであった。

第5に、探究型学習のスタイルを具体的に示した点である。総合的な学習の時間で実践されることをふまえて、デザイン思考WSでは学習スタイルを「現状理解→課題発見→発想→検証→振り返り」という5ステップに整理した。こういう型の提示は、学校現場での探究型学習の導入を容易にする。「アクティブラーニング」「探究型学習」「主体的・対話的で深い学び」に対して学校現場が手探りの現状において、「課題研究」や「総合的な学習の時間」と当大学のデザイン思考を結びつけた学習スタイルの提示は非常に意義あることであった。

第6に、研究期間が終了してからも、当大学において、いくつかのテーマが継続研究されようとしている点である。それは、「なぜ芸術を教える（学ぶ）のか」という芸術大学の根源的な問いに対する解答に近づくことでもある。学ぶことの意義付けの大切さは誰もが認めるところであり、探究型学習の背景もそこにあると考えるのだが、5年間をもってしてもその問いに答えることは難しかったのかもしれない。いや、5年間の研究によって、その問いに答える確かな手ごたえを感じられるようになったというのが正しいのかもしれない。これまで地道に探究型学習に取り組んできた当大学が、その根源的な問いにどう応えていくのか、大いに期待されるものである。

6 課題と今後の展望について

本研究で残された課題の一つは、「WSの先にあるもの」である。創造性開発の方法としてWSを用いたことは、芸術大学の特性として自然なことであり、本県の探究型学習に道筋をつけるものであったが、必ずしも探究型学習イコールWSというわけではないことも確かである。今後、探究型学習の一スタイルとしてのWSが、質的に変貌するのか、それとも新たな手法を開発するのか、当大学内の研究体制構築も含め、創造性開発研究センターが学校現場の要請にどう応えていくか、その活動が注視されよう。

二つ目の課題は、と言うよりは希望かもしれないが、改定学習指導要領が示す「造形的な見方・考え方」と「芸術思考・デザイン思考」との関係を解き明かすことである。「探究活動」

と「見方・考え方」は切り離せないと考えるのだが、そうであるなら、探究型学習の思考プロセスとしての「芸術思考・デザイン思考」が「造形的見方・考え方」とどう関連するのか、ひいては「汎用的な見方・考え方」にどうつなげていくのかを、継続研究の中で解き明かしていただきたいものである。

三つ目の課題は、本研究において掲げてきた「生きる力」の一層の掘り下げである。もちろん「生きる力」がどんなものであるかは明確に定義されているし様々な書物で述べられている。しかし、「東北の子どもたちの」という冠詞がつけば意味合いは違って来るだろう。本県あるいは東北の子どもたちの現状をどうとらえるか、どう育ってほしいのか、どんな力をつけさせたいのか、どんな教育的手法をとればいいのか、それをどう評価するのか、それが掘り下げられれば、当大学の研究は東北に大きく寄与することになるのではないだろうか。

本研究においては、この評価書に載せきれない成果も多数あった。また、今後の可能性に期待させられたことも評価に値する。当大学及び創造性開発研究センター、本研究に携わられた学内外の研究者の皆様の5年間のご努力に敬意を表すると共に、引き続きの研究開発に期待を寄せるものである。

本事業に関する新聞等記事掲載一覧

No.	年月日	掲載新聞	タイトル
平成 25 年度			
1	H25. 10. 05	山形新聞	芸工大・教育研究プロジェクトが始動 芸術で「生きる力」育む
2	H25. 12. 26	山形新聞	子どもの生きる力育む芸術思考 可能性 シンポで考える
平成 26 年度			
3	H26. 08. 12	読売新聞	頭と体 動かし挑戦「世界一遅い球転がし」
4	H27. 03. 26	山形新聞	新聞紙使いワークショップ・芸工大 できた!!カラフル衣装
平成 27 年度			
5	H27. 11. 27	山形新聞	東桜学館の授業開発 県教委 芸工大と連携協定
6	H27. 11. 27	朝日新聞	「探究型学習」芸工大と推進
7	H27. 11. 28	読売新聞	県教委 芸工大と連携協定 課題探究型学習を推進
8	H28. 02. 16	山形新聞	主体的な学習方法体験
9	H28. 03. 04	毎日新聞	自ら解決する力育む 東北芸工大探究型学習研究会
平成 28 年度			
10	H28. 04. 16	山形新聞	「探究活動」スタート 東桜学館 デザイン思考を学ぶ
11	H28. 05. 07	朝日新聞	ICT 駆使、課題解決力磨く
12	H28. 10. 24	朝日新聞	「自由な発想」育む授業
13	H28. 12. 13	山形新聞	想像で描いてから写生 朝陽二小 3 年生 芸工大の体験講座
14	H28. 12. 14	荘内日報	東北芸工大創造性開発研究センターワークショップ じっくり観察 集中して描く
15	H28. 12. 18	山形新聞	すてきな駅でしょ 七小で芸工大ワークショップ
16	H29. 02. 21	読売新聞	探究型学習 普及図る
17	H29. 03. 01	NIKKEI DESIGN	創造性ある子供たちを育てる
平成 29 年度			
18	H29. 07. 05	山形新聞	山形中央校と芸工大 地域が教材 新課程作り
19	H29. 07. 08	河北新報	出張授業で仙山交流 東北芸工大生、宮城野校を訪問
20	H29. 10. 23	読売新聞	「探究型学習」の理解深める 山形 研究会に中高教諭ら 100 名
20	H29. 11. 28	読売新聞	6 県立校 探究型学習へ
21	H30. 03. 01	山形新聞	「探究型」推進へ連携 山形東高と芸工大が協定

東北芸術工科大学 創造性開発研究センター

「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」

研究成果報告書の掲載 URL

創造性開発研究センターのホームページを表示

<https://sozo.tuad.ac.jp/center>



ページ下までスクロールして、「研究成果報告書（最終報告書）」をクリック

講演◎感性を解発する四体験

長南博昭氏（山形県教育委員会委員長、日本感性教育学会副会長）

特別招待講演◎芸術思考は人を救う。組織を救う

奥田修史氏（創成館高等学校理事長・校長）

対談◎未来に求められる芸術思考

奥田修史氏 × 阪井和男氏（明治大学法学部教授）



2013年

12月15日(日)

13:00～17:00

東北芸術工科大学

本館407講義室

主催：東北芸術工科大学

創造性開発研究センターシンポジウム

小中高生の

生きる力を育む

芸術思考の可能性

東北で挑戦する、創造性開発

芸術・デザイン思考について、

小中高校の教育関係者および広く一般の皆さまに
知っていただくためのシンポジウムです。

どなたでもお気軽にご参加ください。

参加無料／予約不要／定員300名

創造性開発研究センターシンポジウム

小中高生の

生きる力を育む

芸術思考の可能性

東北で挑戦する、創造性開発

長南博昭（創造性開発研究センター研究員）

山形県教育委員会委員長、日本感性教育学会副会長。山形県生まれ。中学校教員から山形県教育庁指導主事、山形県教育庁義務教育課課長補佐、山形県温海中学校長、山形県教育庁義務教育課長、教育次長として「教育山形さんさんプラン」の構築に務め、その後、山形大学教授として教育経営・感性教育に携わる。第5、6期中央教育審議会委員として日本の教育改革に当たる。著書として『地方発の教育改革』などがある。



12:20	受付・開場
13:00	開会挨拶
13:15-14:15	長南博昭氏 講演
14:15-14:25	休憩
14:25-15:25	奥田修史氏 特別招待講演
15:30-16:30	奥田修史氏 × 阪井和男氏 対談
16:30-16:50	質疑応答
16:55-17:00	閉会挨拶
17:00	閉会

奥田修史（特別講師）

創成館高等学校理事長・校長。ハワイ州立大学を卒業。帰国後、祖父の代から続く学校法人奥田学園へ就職。32歳で奥田学園理事長、34歳で創成館高等学校校長、39歳で国際法律会計専門学校校長に就任。大胆な行動力とユニークなアイデアで破綻寸前の学校法人を生き返らせ、学校は人気校へと変貌を遂げた。その学校運営手腕は高く評価されている。

〔アクセス〕

東北芸術工科大学（山形市上桜田3-4-5）
JR山形駅東口バスプール5番乗り場から
「東北芸術工科大学前行き」乗車、約20分

〔お問い合わせ〕

東北芸術工科大学
創造性開発研究センター事務局
TEL: 023-627-2218

ますます複雑化する現代社会の中で生きる私たちは、多地域多世代に対応することができる柔軟性のある思考と行動力、人間精神力の豊かさが必要とされています。創造性開発研究センターでは、芸術・デザイン領域のみならず、さまざまな学際的観点からの調査やインタビュー、実践と分析、体感のための演習などを通じて、調査研究を実施していきます。加えて、地域のこどもたちのための参加体験型プログラム研究として、それぞれが体験、体感しながら「芸術・デザインと生活」、「芸術・デザインと学習」など、芸術・デザイン（芸術・デザイン思考）との新しい関わり方を発見するきっかけを提供していきます。第一回目のシンポジウムとなる今回は、特に芸術思考に焦点を当てて、芸術思考とは何かをご紹介します。

東北芸術工科大学のこども教育

東北芸術工科大学では、「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」事業が、平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成事業に採択され、5年間の研究支援補助対象となりました。創造性開発研究センターを開設し、こども芸術大学や全国高等学校デザイン選手権大会をはじめとする芸術・デザイン思考の実践の土壌がある本学だからこそできる教育研究をおこなっていきます。



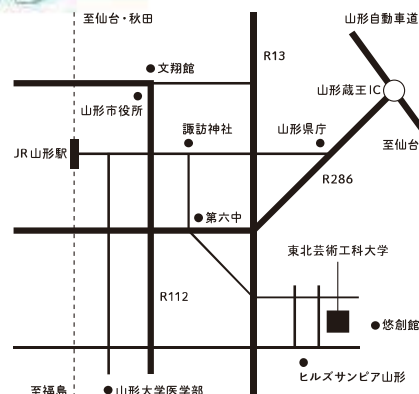
こども芸術大学



全国高等学校デザイン選手権大会

阪井和男（創造性開発研究センター研究員）

明治大学法学部教授。東京理科大学理学部物理学科を卒業。理学博士号を取得。サイエンスライターを経て、1990年から明治大学法学部専任講師。1998年から教授に就任し現在に至る。明治大学の死生学研究所副代表や文明とマネジメント研究所所長、サービス創新研究所所長なども兼任する。サービス学と死生学に精通する日本でも無二の権威。



ソウゾウを体験する夏!

まつり 夏のアートフェスティバル

8月
11日
(月)

やまがた
芸術学園

9:00-12:00		13:15-14:45	15:00-17:00
A 色水鉄砲でTシャツをつくろう! 定員に足りませんでしたので、 申し込みを 切り取りました。 ※申し込みはメールにてお申し込みください。 ※参加費は無料。 ※申し込みはメールにてお申し込みください。 ※参加費は無料。 ※申し込みはメールにてお申し込みください。 ※参加費は無料。	B かくれた顔を探せ! 対象:小学4~6年生 定員:15名 担当:須藤健先生	D 世界一遅い たまごころがしに 挑戦しよう! 対象:小学3~6年生 定員:15名 担当:須藤健先生	E わりえカルタを つくって あそぼう! 対象:小学3~6年生 定員:15名 担当:須藤健先生
	C 見えない 地図を描く 対象:小学4~6年生 定員:15名 担当:須藤健先生	F 食べる彫刻 自分らが つくろう! 対象:小学4~6年生 定員:20名 担当:須藤健先生	
10:00-12:00		13:00-16:00	13:00-15:00
G TUADスポーツ パフォーマンス測定会 対象:小学5~6年生 定員:30名 担当:大塚伸先生		H1 身体を動かして、 スポーツタオルの デザインにチャレンジ! (タオルのデザインを考える) 対象:小学5~6年生 定員:20名 担当:大塚伸先生	H2 身体を動かして、 スポーツタオルの デザインにチャレンジ! (タオルをつくる) ※H1とH2は連続プログラムです。 ※H1とH2セットでお申し込みください。
	 ※この時間はワークショップはありません。		

お申込み方法

お申込みはメールにてお申し込みください。メールの件名を「ワークショップまつり」とし、本文に以下の必要事項をご記入ください。

①参加希望ワークショップのフルアバットとワークショップ名

例: E (わりえカルタ)とあそぼう! とH1, H2 (身体を動かして、スポーツタオルのデザインにチャレンジ!)

※複数のワークショップに申し込みはできません。

※お子さまのお名前 (ふりがな) ③学校名・学年・年齢 ※お友達と一緒に申し込みされる場合は、お友達の分も含め、③を記載してください。

※保護者さまのお名前 ④お電話番号 ⑤ご住所

※お申し込み締め切り: 8月7日(木)までに申し込みください。定員に足り次第、締め切らせていただきます。

※参加費: 無料 (ワークショップ保険料は主催者側にてご負担いたします) ※各プログラムは持ち物や参加にあたっての注意事項は、お申込み後にご連絡させていただきます。

※ワークショップ当日は、検定・分科、および公式Webサイトでの活動報告のために写真・動画撮影をさせていただきます。左記以外の目的で使用するものではありません。

※ワークショップの内容が、一部変更となる場合がありますので、ご了承ください。

A 「色水鉄砲でTシャツをつくろう!!」
Tシャツに「ロウソク」のろうそくを溶かして、筆(ふで)で描いてみよう。
そのあとに、色水の入った水鉄砲でTシャツに色を付けてハッシュヤー! どんな模様(もよう)ができるかな?
(青山ひろゆき先生 美術科洋画コース) 定員に足りませんでしたので、申し込みを切り取りました。

B 「かくれた顔を探せ!!」 「見えない地図を描く」
ときどき、身の周りのいろいろなもの(カベや木)が顔みたいに見えることありませんか? 自分に見えない顔を探して、ものがたりをつくろう。目として手や足のうらの感覚だけで地図を描いてみよう。
(渡部桂先生 建築・環境デザイン学科) ※BかCのどちらか1つの参加も可能です。

D 「世界一遅いたまごころがしに挑戦しよう!!」
球(きゅう)はかたまりの原点であり、たくさんのおもちゃやスポーツにつかわれているよ。今回は、なめにしたテープの上でいろいろな球をころがそう。そこでさまざまなしなやかな球を工夫して球の動きを変えていくことで、ゴールまでどれだけ一番おそくたどり着くかをきいてみよう!
(榎本泰彦先生 プロダクトデザイン学科)

E 「わりえカルタをつくってあそぼう!!」
ミシン目を入れたカードに、野菜のハンコやたらのインクをはさんでおどろきを楽しみながら図をかいてみよう! 2つに割って「しんけいすいじやく」や「カルタとり」であそびます。
図(え)と文字(ピカッ)をくみあわせたカードも作ります。
(三橋幸次先生 プロダクトデザイン学科)

F 「食べる彫刻 自分らががん」
柔らかい木材に自分の顔を彫ってみよう! 彫ったらそこに「乃し梅本舗佐藤屋」さん特製の「がん」(お菓子)の生地を押し込んでみると、「食べる彫刻 自分らががん」の完成です!
(深井総一郎先生 美術科工芸コース/吉賀伸先生 美術科彫刻コース)

G 「TUAD スポーツパフォーマンス測定会」
運動が苦手でも、TUADでからだの動かし方を知ったら運動好きに変身! ? 自分自身の運動能力を知って、自分に合ったスポーツをみつければいい!
(大島 伸矢先生 一般社団法人スポーツ能力開発協会 理事長 <http://dosa.or.jp>)

H1 **H2** 「身体を動かして、スポーツタオルのデザインにチャレンジ!!」
1日目(はからだ)をうごかすあそびをして、うごきのある決めポーズをカメラで撮るよ。あそんだあとにみんな写真を見てみよう。2日目は、ポーズ写真をシルエットにして、ステンシルプレートをつくろう。「決めポーズステンシル」でオリジナルスポーツタオルをデザインしよう。
(澤口俊輔先生 グラフィックデザイン学科)

お申込み・お問合せ先

東北芸術工科大学 創造性開発研究センター E-mail: y-gakusha@aga.tuad.ac.jp

TEL: 023-627-2218



2015

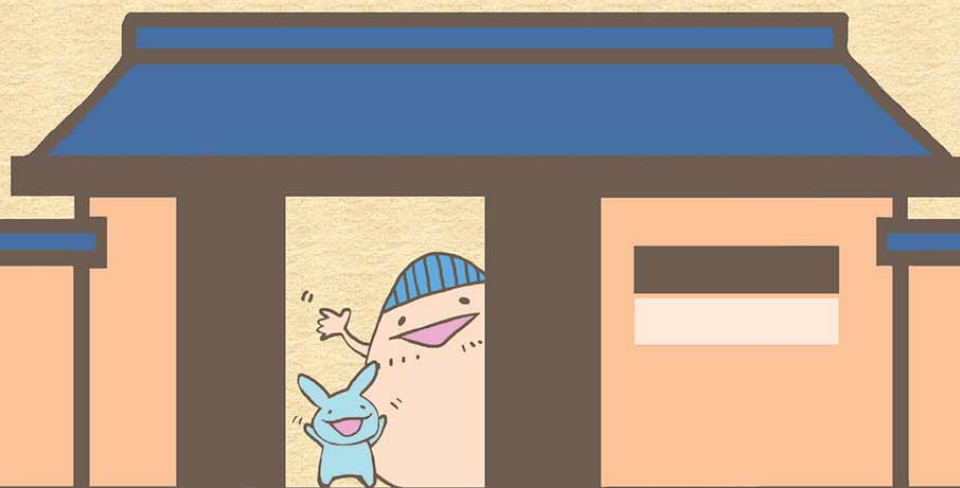
冬の

ワークショップ

2015年1月11日（日）開催！

場所：やまがた藝術学舎 小学生対象／参加費無料

主催：東北芸術工科大学 創造性開発研究センター



創造性開発研究センターとは…

創造性開発研究センターでは、本学の幼児教育機関であるこども芸術大学の想像力と創造力を育む学びをさらに進め、小中高生を対象に、自分の力を創造的に用いて「自ら学び、考え、行動する力」を育てるために必要な芸術思考とデザイン思考に基づく総合的な教育方法の確立を目的に研究を進めています。

やまがた藝術学舎を会場に、多分野の学内研究員によるワークショップを定期的の実施し、参加者の声や姿から検証・分析を行い、子どもたちの創造性が十分に発揮できるプログラムづくりを目指していきます。

平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」

冬のワークショップ 2015

わくわく粘土ワークショップ Vo.1 ～カラフル陶芸でマイホームをつくろう！～

日時：2015年1月11日（日） 13:00～17:00
対象：小学校3年生～6年生 定員：12名

担当：吉賀 伸先生
（美術科 彫刻コース）

自分の住んでいる家のかたち、部屋や家具を思い出して
粘土でマイホームを作ろう！かたちができたら色粘土でカラフルにするよ。
みんなに紹介して、遊びに行きたくなるような素敵な家を作りましょう。
できあがった家は焼き物にしてあとからお届けします！



担当：深井聡一郎先生
（美術科 工芸コース）

お申込み方法

お申込みはメールにてお願いいたします。
メールの件名を「2015 冬のワークショップ1月11日」とし、本文に以下の必要事項を
ご記入ください。

- ①お子さまのお名前（ふりがな）
 - ②学校名/学年/年齢/性別
 - ③保護者さまのお名前 ④お電話番号 ⑤ご住所
- ※お友達も一緒にお申込される場合は、お友達の分も①～⑤を記載してください。

お申込み締め切り：1月5日（月）までにお申込みください。

- ※定員になり次第、締め切らせていただきます。
- ※参加費：無料（レクリエーション保険料は主催者側にてご負担いたします）
- ※各プログラムの持ち物や参加にあたっての注意事項は、お申込完了後に
ご連絡させていただきます。
- ※ワークショップ当日は、検証・分析、および大学公式Webサイトでの活動報告のために
写真・動画撮影をさせていただきます。左記以外の目的で使用することはありません。
- ※ワークショップの内容が、一部変更となる場合がありますので、ご了承下さい。



次回のワークショップは、
2月8日（日）です！お待ちしております！

お申込み先・お問い合わせ先

東北芸術工科大学 創造性開発研究センター

E-mail：y-gakusha@aga.tuad.ac.jp

住所：〒990-9530 山形市上桜田3丁目4番5号 TEL：023-627-2218



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

2015

2月

冬の ワークショップ

2015年2月8日(日) 開催!

場所：東北芸術工科大学／やまがた藝術学舎

小学生対象／参加費無料

主催：東北芸術工科大学 創造性開発研究センター



創造性開発研究センターとは…

創造性開発研究センターでは、本学の幼児教育機関であるこども芸術大学の想像力と創造力を育む学びをさらに進め、小中高生を対象に、自分の力を創造的に用いて「自ら学び、考え、行動する力」を育てるために必要な、芸術思考とデザイン思考に基づく総合的な教育方法の確立を目的に研究を進めています。

やまがた藝術学舎を会場に、多分野の学内研究員によるワークショップを定期的の実施し、参加者の声や姿から検証・分析を行い、子どもたちの創造性が十分に発揮できるプログラムづくりを目指していきます。

平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

2015

冬のワークショップ

2月

たんとう

渡部 桂先生
(建築・環境デザイン学科)**A** 雪を使って、世界に一つだけのアーチをつくろう！

対象：小学3年生～6年生 定員：12名 時間：9:00～12:00

雪って不思議ですね。普段はフワフワしていますが、手でギュッとにぎると固くなってさまざまな形をつくることができます。その雪を使って、友だちと人が中をくぐるくらいの大きさのアーチ（虹のような形をしたもの）を作りましょう。できたアーチは、この冬だけのみなさんの記念碑（きねんひ）になります！最後には、記念さつえいをしてポストカードにします。

たんとう

矢作 鹿乃子先生
(こども芸術大学)**B** へんてコラージュ～見たことのない生き物をつくろう～

対象：小学1年生～3年生 定員：15名 時間：13:00～14:30

絵の具も色鉛筆も使わないで、ハサミとのかみだけで自分だけの生き物をつくろう！様々な“もの”がプリントされた素材を選んで切りとり、自由に組み合わせながら、今までだれも見ることがない生き物をつくりましょう！

お申し込み方法

お申し込みはメールにてお願いいたします。

メールの件名を「2015 冬のワークショップ2月8日」とし、本文に以下の必要事項をご記入ください。

①希望するワークショップ名とアルファベット

②お子さまのお名前（ふりがな）

③学校名/学年/年齢/性別

④保護者さまのお名前 ⑤お電話番号 ⑥ご住所

※お友達も一緒にお申し込みされる場合は、お友達の分も①～⑥を記載してください。

お申し込み締め切り：2月2日（月）までにお申し込みください。

※定員になり次第、締め切らせていただきます。

※参加費：無料（レクリエーション保険料は主催者側にてご負担いたします）

※各プログラムの持ち物や参加にあたっての注意事項は、お申し込み完了後にご連絡させていただきます。

※ワークショップ当日は、検証・分析、および大学公式Webサイトでの活動報告のために写真・動画撮影をさせていただきます。左記以外の目的で使用することはありません。

次回のワークショップは

3月25日（水）です！お待ちしております！

お問い合わせ先

東北芸術工科大学 創造性開発研究センター

E-mail: y-gakusha@aga.tuad.ac.jp

住所：〒990-9530 山形市上桜田3丁目4番5号 TEL: 023-627-2218

TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

2015



3 月

春の ワークショップ

2015年3月25日(水) 開催!

場所：やまがた藝術学舎(山形県山形市松見町17-1)

小学生対象／参加費無料

主催：東北芸術工科大学 創造性開発研究センター 後援：山形県教育委員会/山形市教育委員会



創造性開発研究センターとは...

創造性開発研究センターでは、東北芸術工科大学の幼児教育機関「こども芸術大学」での幼児の想像力教育を更に進め、小中高生の自ら学び、考え、行動する力を育てる芸術思考とデザイン思考に基づく、教育方法の確立を目指しています。やまがた藝術学舎を会場に、学内外の教員や講師によるワークショップを定期的実施し、子ども達の想像力を育てるプログラムづくりを目指しています。

平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

2015

春のワークショップ

3月25日
水曜日

A 世界一遅い球転がしに挑戦しよう！ ver.3

斜めにした段ボール板の上で
木球を転がし、できるだけ長い時間をかけて
ゴールにたどり着けるように途中でいろいろな
しかけを作ります。みんなの力で巨大な
球転がし装置を完成させよう！

時間：10:00-12:00

対象：小学3年生～6年生 定員：12名まで

たんとう

柚木泰彦先生

(プロダクトデザイン学科)

B ちぎってあそぼう！しんぶんし！

新聞紙を破いて ちぎって 貼って 飾って
新聞紙人間になるよ！最後はみんな
新聞紙の世界を作ってみよう！

時間：10:00-11:30

対象：小学1年生～3年生 定員：12名まで

たんとう

澤口俊輔先生

(グラフィックデザイン学科)

C 食べる彫刻 家族パン

家族の顔をパン屋「メリメロ」の
特製パン生地で作ってみよう！
思い通りのカタチに焼けるかな？
作ったパンは持って帰ることができるよ。

時間：13:00-16:00

対象：小学1年生～6年生 定員：15名まで

協力：Bakery & Cafe meli-melo

寒河江靖店長

たんとう

深井聡一郎先生

(美術科 工芸コース)

吉賀伸先生

(美術科 彫刻コース)

青山ひろゆき先生

(美術科 洋画コース)

申込み方法

申込みはメールにてお願いいたします。メールの件名を「2015春のワークショップ」とし、本文に以下の
必要事項をご記入ください。

- ①希望するワークショップ名とアルファベット ②お子さまのお名前(ふりがな) ③学校名/学年/年齢/性別
④保護者さまのお名前 ⑤電話番号 ⑥住所
※お友達も一緒に申込みされる場合は、お友達の分も①～⑥を記載してください。

申込み締め切り：3月20日(金)までにお申込みください。

※定員になり次第、締め切らせていただきます。

※参加費：無料(レクリエーション保険料は主催者側にてご負担いたします)

※各プログラムの持ち物や参加にあたっての注意事項は、申込み完了後にご連絡させていただきます。

※ワークショップ当日は、検証・分析、および大学公式Webサイト等での活動報告のために写真・動画撮影を
させていただきます。左記以外の目的で使用することはありません。

※ワークショップの内容が、一部変更となる場合がありますのでご了承下さい。

お知らせ！

申し込み・問い合わせ先

東北芸術工科大学 創造性開発研究センター E-mail: y-gakusha@aga.tuad.ac.jp

TEL: 023-627-2218

創造性開発研究センター 2014活動報告展 開催！

2014年の8月から、創造性開発研究センターでは様々なワークショップを行ってきました。
この展覧会では、子どもの創造性開発を目的とした13種類のワークショップを一挙にご紹介します。
子ども達の様子から見てくる「芸術・デザイン」の可能性を、実施したワークショップから検証し、
研究活動としてご報告する展覧会です。実際に遊べるスペースもご用意しております。
多くの皆様のご来場、お待ちしております！

会期：2015年3月21日(土)～4月4日(土) 会場：やまがた藝術学舎ギャラリースペース

時間：10:00-17:00 ※入場無料

TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

じっくり観察したり、
手を動かしたりして、
たくさんの「！」を見つけよう！

SOZOワークショップ
第6回目

あき

秋の ワークショップ

2015.9.19 土曜日

- 会場：やまがた藝術学舎
- 住所：〒990-2431 山形県山形市松見町 17-1
- 小学生対象 / 参加費無料
- 主催：東北芸術工科大学 創造性開発研究センター

創造性開発研究センターとは

創造性開発研究センターでは、東北芸術工科大学の幼児教育機関「こども芸術大学」での幼児の創造性教育を更に進め、小中高生の「自ら学び、考え、行動する力」を育てる芸術思考とデザイン思考に基づく、教育方法の確立を目的に研究を進めています。

やまがた藝術学舎を会場に、学内外の講師によるワークショップを定期的に行い、子どもたちの創造力を育むプログラムづくりを目指しています。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」

秋のワークショップ

2015.9.19 土曜日

A. たたいて! つぶして! 大きな絵

大きな布にクレヨンや絵の具をはさんでトンカチでたたきます! どんな絵ができるかな?

おしえてくれるひと: 青山ひろゆき先生(美術科 洋画コース)+矢作鹿乃子先生(こども芸術大学)

時間: 10:00~11:45 対象: 小学1年生~6年生 定員: 20名まで

B. 世界でひとつの「バッグ」をデザインしよう!

ふだん使っているバッグをもとに、新しいバッグのアイデアを考えてみよう!

おしえてくれるひと: 早野由美恵先生(プロダクトデザイン学科)+渡部桂先生(建築・環境デザイン学科)

時間: 9:00~12:00 対象: 小学4年生~6年生 定員: 12名まで

C. 身近な葉っぱをたたいて染めよう!

植物の葉っぱをたたいて模様を染めてみよう。植物の形・色などにより、様々な模様が浮かびあがります。

おしえてくれるひと: 柳田哲雄先生(美術科 テキスタイルコース)+矢作鹿乃子先生(こども芸術大学)

時間: 13:00~14:30 対象: 小学4年生~6年生 定員: 15名まで

申込み方法

申込みはメールにてお願いいたします。メールの件名を「2015秋のワークショップ」とし、本文に以下の必要事項をご記入ください。

- ① 希望するワークショップ名とアルファベット ② お子さまのお名前(ふりがな) ③ 学校名/学年/年齢/性別
④ 保護者さまのお名前 ⑤ 電話番号 ⑥ 住所

※お友達も一緒に申込みされる場合は、お友達の分も①~⑥を記載してください。

申込み締め切り: 9月15日(火)までにお申込みください。

- ・ 定員になり次第、締め切らせていただきます。
- ・ 参加費は無料です(レクリエーション保険料は主催者側に負担いたします)。
- ・ 各プログラムの持ち物や参加にあたっての注意事項などは、申込み完了後にあらためてご案内させていただきます。
- ・ ワークショップ当日は、検証・分析、および大学公式Webサイト等での活動報告のために写真・動画撮影をおこないますので予めご了承ください。(左記以外の目的で使用することはありません)
- ・ ワークショップの内容が、一部変更となる場合がありますのでご了承ください。

お申込み・お問い合わせ先 東北芸術工科大学 地域連携推進室(創造性開発研究センター)
E-mail: y-gakusha@aga.tuad.ac.jp TEL: 023-627-2218 Web: sozo.tuad.ac.jp

ふゆ
冬の

SOZO ワークショップ
第7回目

ワークショップ

2015.11.28 土曜日

- 会場：やまがた藝術学舎
- 住所：〒990-2431 山形県山形市松見町 17-1
- 小学生対象 / 参加費無料
- 主催：東北芸術工科大学 創造性開発研究センター

創造性開発研究センターとは

創造性開発研究センターでは、東北芸術工科大学の幼児教育機関「こども芸術大学」での幼児の創造性教育を更に進め、小中高生の「自ら学び、考え、行動する力」を育てる芸術思考とデザイン思考に基づく、教育方法の確立を目的に研究を進めています。

やまがた藝術学舎を会場に、学内外の講師によるワークショップを定期的に開催し、子どもたちの創造力を育むプログラムづくりを目指しています。

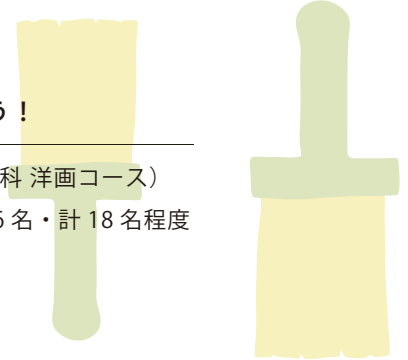
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」



A. さわって・たたいて・絵を描こう

大きな布にクレヨンや絵の具をはさんで、作品を作ります。
何を、どんな風にはさんでたたくといいか、みんなで考えながら制作しよう！

おしえてくれるひと：矢作鹿乃子先生（こども芸術大学）＋青山ひろゆき先生（美術科 洋画コース）
時間：10:00～11:30 対象・定員：小学1・2年生、3・4年生、5・6年生 各5～6名・計18名程度



B. 食べる彫刻「動物ビスケット」

sweets kitchen MOCO-CHOCO の生地を彫った木型に押し込んで、動物ビスケットを作ろう！

おしえてくれるひと：深井聡一郎先生（美術科 工芸コース）＋矢作鹿乃子先生（こども芸術大学）
木野葉子さん（sweets kitchen MOCO-CHOCO）
時間：13:00～16:00 対象・定員：小学4～6年生・15名

申込み方法

申込みはメールにてお願いいたします。メールの件名を「2015 冬のワークショップ」とし、本文に以下の必要事項をご記入ください。

- ① 希望するワークショップ名とアルファベット ② お子さまのお名前（ふりがな） ③ 学校名 / 学年 / 年齢 / 性別
④ 保護者さまのお名前 ⑤ 電話番号 ⑥ 住所

※お友達も一緒に申込みされる場合は、お友達の分も①～⑥を記載してください。

申込み締め切り：11月24日（火）までお申込みください。

- ・ 定員になり次第、締め切らせていただきます。
- ・ 参加費は無料です（レクリエーション保険料は主催者側にて負担いたします）。
- ・ 各プログラムの持ち物や参加にあたっての注意事項などは、申込み完了後にあらためてご案内させていただきます。
- ・ ワークショップ当日は、検証・分析、および大学公式 Web サイト等での活動報告のために写真・動画撮影をおこないますので予めご了承ください。（左記以外の目的で使用することはありません）
- ・ ワークショップの内容が、一部変更となる場合がありますのでご了承ください。

お申込み・お問い合わせ先 東北芸術工科大学 地域連携推進室（創造性開発研究センター）
E-mail：y-gakusha@aga.tuad.ac.jp TEL：023-627-2218 Web:sozo.tuad.ac.jp





創造性開発研究センターとは

創造性開発研究センターでは、東北芸術工科大学の幼児教育機関「こども芸術大学」での幼児の創造性教育を更に進め、小中高生の「自ら学び、考え、行動する力」を育てる芸術思考とデザイン思考に基づく、教育方法の確立を目的に研究を進めています。

やまがた藝術学舎を会場に、学内外の講師によるワークショップを定期的に行い、子どもたちの創造力を育むプログラムづくりを目指しています。

A. 新・世界一遅い球転がしに挑戦しよう！

斜めにした木製ボードの上で木球を転がし、できるだけ長い時間をかけてゴールにたどり着けるように、身近な材料を使って途中にいろいろな仕掛けを作ります。みんなの力で長さ8メートルの球転がし装置を完成させよう！※ボードが木製になり、頑丈になりました。

おしえてくれるひと：柚木泰彦先生（プロダクトデザイン学科）

時間：9:50～12:00 対象・定員：小学3～6年生・12名

B. わくわく粘土ワークショップ Vol.2 聴いて、触って、何つくる？

目をつぶっていろんな音楽を聴きながら、そのときの気持ちを粘土でつくってみよう！

おしえてくれるひと：吉賀伸先生（美術科 彫刻コース）+ 矢作鹿乃子先生（こども芸術大学）

時間：13:00～14:30 対象・定員：小学1～3年生・15名

申込み方法

申込みはメールにてお願いいたします。メールの件名を「2016 新春のワークショップ」とし、本文に以下の必要事項をご記入ください。

- ① 希望するワークショップ名とアルファベット ② お子さまのお名前（ふりがな） ③ 学校名 / 学年 / 年齢 / 性別
④ 保護者さまのお名前 ⑤ 電話番号 ⑥ 住所

※お友達も一緒に申込みされる場合は、お友達の分も①～⑥を記載してください。

申込み締め切り：1月18日（月）までお申込みください。

- 定員になり次第、締め切らせていただきます。
 - 参加費は無料です（レクリエーション保険料は主催者側にて負担いたします）。
 - 各プログラムの持ち物や参加にあたっての注意事項などは、申込み完了後にあらためてご案内させていただきます。
 - ワークショップ当日は、検証・分析、および大学公式 Web サイト等での活動報告のために写真・動画撮影をおこないます。
 - ワークショップの内容が、一部変更となる場合がありますのでご了承ください。
 - ワークショップ参加前、参加後にアンケート調査にご協力いただいております。アンケートの回答は集計および分析のうえ、研究向上の為に使用させていただきます。
- 個人情報には厳重に管理し、プライバシー保護には十分配慮いたします。何卒ご理解の程宜しくお願いいたします。

お申込み・お問い合わせ先

東北芸術工科大学 地域連携推進室（創造性開発研究センター）

E-mail: y-gakusha@aga.tuad.ac.jp TEL: 023-627-2218 Web: sozo.tuad.ac.jp



▲ 小学生・中学生対象

SOZO ワークショップ
第9回目

なつ
**夏の
ワークショップ**
2016.8.11 木曜日

- ▲ 会場：やまがた藝術学舎
- ▲ 住所：〒990-2431 山形県山形市松見町 17-1
- ▲ 参加費無料
- ▲ 主催：東北芸術工科大学 創造性開発研究センター

創造性開発研究センターとは

創造性開発研究センターでは、東北芸術工科大学の幼児教育機関「こども芸術大学」での幼児の創造性教育を更に進め、「芸術」と「デザイン」を用いて小中高生の「自ら学び、考え、行動する力」＝「生きる力」を育てる教育プログラムの確立を目的に研究を進めています。

やまがた藝術学舎や各教育機関の実際の教育現場で、学内外の講師によるワークショップを開催し、子どもたちの創造性を育むプログラム作りを目指しています。

A. トリミテカク ～よく、見て描こう～

はくせい
鳥の剥製をよく見て描きます。いつもは飛んでいてよく見えない鳥をいろんな角度からみてみると、たくさんの発見がありますよ！



おしえてくれるひと：矢作鹿乃子先生（こども芸術大学）

時間：10:00～11:30 対象・定員：小学3、4年生・20名

B. 羊の毛を こすって からめて フェルトボールをつくろう！

ふだん私たちが着ている服の素材にも使われている羊の毛。
本物のふわふわな羊の毛をさわって、手のひらでこすったり、丸めたりしながら、
からめてみます。そこに、ある物を使うと変化が起こります。柔らかな羊の毛は
どうなるかな？カラフルな羊の毛でボールを作ってみよう！



おしえてくれるひと：柳田哲雄先生（美術科テキスタイルコース）

時間：13:30～15:00 対象・定員：小学4～6年生・10名

C. アートなスイカの食しかた

新しいものの考え方や発見は、今までと違うことを試みることから始まります。
みなさんがいつも夏に食べているスイカ。いつもと違う食べ方をしてみたら、もっともっと
美味しくなるかもしれません。絵画や彫刻、そして心理学の先生と一緒にスイカの新しい発見や
魅力を見つけて、美味しくスイカを食べよう！



おしえてくれるひと：有賀三夏先生（創造性開発研究センター講師）+ 青山ひろゆき先生（美術科洋画コース）
+ 深井聡一郎先生（美術科工芸コース）

時間：13:30～15:30 対象・定員：中学生・20名

申込み方法

申込みはメールにてお願いいたします。メールの件名を「2016 夏のワークショップ」として本文に以下の必要事項をご記入いただき、
y-gakusha@aga.tuad.ac.jp へお送りください。

- ① 希望するワークショップ名とアルファベット ② お子さまのお名前（ふりがな） ③ 学校名 / 学年 / 年齢 / 性別
④ 保護者さまのお名前 ⑤ 電話番号 ⑥ 住所

※お友達も一緒に申込みされる場合は、お友達の分も①～⑥を記載してください。

申込み締め切り：8月3日（水）までお申込みください。

- ▲ 定員になり次第、締め切らせていただきます。
- ▲ 参加費は無料です（レクリエーション保険料は主催者側にて負担いたします）。
- ▲ 各プログラムの持ち物や参加にあたっての注意事項などは、申込み完了後にあらためてご案内させていただきます。
- ▲ ワークショップ当日は、検証・分析、および大学公式 Web サイト等での活動報告のために写真・動画撮影をおこないます。
- ▲ ワークショップの内容が、一部変更となる場合がありますのでご了承ください。
- ▲ ワークショップ参加前後でアンケート調査にご協力いただいております。アンケートの回答は集計および分析のうえ、研究向上の為に使用させていただきます。
- ▲ 個人情報は厳重に管理し、プライバシー保護には十分配慮いたします。何卒ご理解の程宜しくお願いいたします。

お申込み・お問い合わせ先 東北芸術工科大学 地域連携推進室(創造性開発研究センター)
E-mail: y-gakusha@aga.tuad.ac.jp TEL: 023-627-2218 Web: sozo.tuad.ac.jp

★ 小学生・中学生対象

はる
**春の
ワークショップ**

SOZO ワークショップ
第10回目

2017.3.22 水曜日
3.25 土曜日

- ★ 会場：やまがた藝術学舎
- ★ 住所：〒990-2431 山形県山形市松見町 17-1
- ★ 参加費無料
- ★ 主催：東北芸術工科大学 創造性開発研究センター

創造性開発研究センターとは

創造性開発研究センターでは、東北芸術工科大学の幼児教育機関「こども芸術大学」での幼児の創造性教育を更に進め、「芸術」と「デザイン」を用いて小中高生の「自ら学び、考え、行動する力」＝「生きる力」を育てる教育プログラムの確立を目的に研究を進めています。

やまがた藝術学舎や各教育機関の実際の教育現場で、学内外の講師によるワークショップを開催し、子どもたちの創造性を育むプログラム作りを目指しています。

3/22 A. 世界一遅い球転がしに挑戦しよう！ Ver.5 [小学生対象]

斜めにした木製ボードの上で木球を転がし、できるだけ長い時間をかけてゴールにたどり着けるように、身近な材料を使って途中にいろいろな仕掛けを作ります。みんなの力で長さ8メートルの球転がし装置を完成させよう！

おしえてくれるひと：柚木泰彦先生（プロダクトデザイン学科）

協力：東京工科大学 Crew プロジェクト

時間：9:30～12:30 対象・定員：小学3～6年生・16名

3/25 B. 物語の中の自分を表現しよう！ [小学生対象]

自分の好きな映画、小説、漫画など、大好きな場面の中に自分がいるところを表現してみよう。そこには、どんな景色があって、どんなキャラクターがいて、そこで自分はどんな服を着て、何をしているのかな？自由にイメージをふくらませてみよう！

おしえてくれるひと：浅井由剛先生（株式会社カラーコード 代表取締役）

時間：9:30～11:30 対象・定員：小学3～6年生・20名

ふだんは東京のデザイン会社の社長さん

C. 言葉の達人ゲーム [小・中学生対象]

言葉の「正しい」意味を知り、「自由に」新たな意味を作っていくゲームです。メンバーで協力して、チームを勝利に導こう！

おしえてくれるひと：庄司博幸先生（株式会社サードステージエデュケーション 代表取締役）

【中学生対象】時間：11:30～12:45 対象・定員：中学1～3年生・20名

【小学生対象】時間：13:30～14:45 対象・定員：小学4～6年生・20名

ふだんは東京の塾の校長先生

D. プロのロゴ作りを体験！ [中学生対象]

ロゴとはカッコよく工夫された文字や印などのことです。

自分用にロゴを作るのではなく、友達用のロゴマークを作ってみよう。プロのデザイナーのように、まず相手にインタビューをして、言葉から導き出したイメージを色々工夫してロゴを完成させよう！

おしえてくれるひと：浅井由剛先生（株式会社カラーコード 代表取締役）

時間：13:45～15:45 対象・定員：中学1～3年生・20名

申込み方法

申込みはメールにてお願いいたします。メールの件名を「2017春のワークショップ」として本文に以下の必要事項をご記入いただき、y-gakusha@aga.tuad.ac.jp へお送りください。

①希望するワークショップ名とアルファベット ②お子さまのお名前（ふりがな）

③学校名／学年／年齢／性別 ④保護者さまのお名前 ⑤電話番号 ⑥住所

※お友達も一緒にお申込みされる場合は、お友達の分も①～⑥を記載してください。

申込み締め切り：3月15日（水）までお申込みください。

- ★ 定員になり次第、締め切らせていただきます。
- ★ 参加費は無料です（レクリエーション保険料は主催者側に負担いたします）。
- ★ 各プログラムの持ち物や参加にあたっての注意事項などは、申込み完了後にあらためてご案内させていただきます。
- ★ ワークショップ当日は、検証・分析、および大学公式 Web サイト等での活動報告のために写真・動画撮影をおこないます。
- ★ ワークショップの内容が、一部変更となる場合がありますのでご了承ください。
- ★ ワークショップ参加前後でアンケート調査にご協力いただいております。アンケートの回答は集計および分析のうえ、研究向上の為に使用させていただきます。
- ★ 個人情報は厳重に管理し、プライバシー保護には十分配慮いたします。何卒ご理解の程宜しくお願いいたします。



図画工作って
おもしろいー！

「生きる力」を
育てる

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
『生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成』

東北芸術工科大学創造性開発研究センター

総括シンポジウム

これからの教育を ソウゾウする

2017.9.9(土) 13:00-17:00
参加無料・申込不要

東北芸術工科大学 本館講義室

対象 教育関係者、一般市民

※本研究内容にご興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

関連プログラム

ワークショップのタネ
実践講習会

11:00-12:00 参加無料・申込不要

対象 小・中学校教員、教育関係者

※お子様を対象とした
ワークショップではございません

「教育関係者」
の
「実践講習会」



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

sôzô

<http://sozo.tuad.ac.jp/>

開催にあたり

利己的な生き方が問題視される現在では、創造力の必要性が頻りに求められています。では、創造性とは一体何であり、どのように使い、どのように伸ばすことができるのでしょうか？創造性開発研究センターでは、これらの問いを解明するために、デザイン・芸術思考の構成要素を用いて研究に挑んで来ました。これまで提案した創作ワークショップは延べ30種類を超え、地域の多く子どもたちにも体験していただきました。2013年に設立された当研究センターは設立から5年目となり、この度、総括シンポジウムを開催する運びとなりました。基調提案と基調講演では、教育と芸術の関係について有識者よりお伝えします。続いて、地域の小中学校の先生方とセンター研究員のパネルディスカッションを通して、これからの時代において子どもたちの成長にいかに関与が必要かを討議します。まとめとなる今回のシンポジウムは、創作ワークショップの説明付けとして用いた「芸術思考」に焦点を絞って企画しました。研究センターでの活動を小中高の教育関係者および広く一般の皆さまに知っていただくためのシンポジウムです。多くの皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

総括シンポジウム

これからの教育をソウゾウする

2017.9.9(土) 13:00-17:00 (12:00開場) 参加無料・申込不要

会場：東北芸術工科大学 本館講義室 主催：東北芸術工科大学創造性開発研究センター
対象：教育関係者、一般市民 ＊本研究内容にご興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

◎プログラム

- 13:00 開会挨拶 片上義則（東北芸術工科大学副学長／創造性開発研究センター長）
- 13:10 基調提案「初等教育における創造性 ～表現するきっかけづくり 知的好奇心をくすぐる～」
澁江学美（山形県教育庁義務教育課長）
- 14:10 休憩
- 14:20 基調講演「多重知能理論と芸術思考が生み出す主体的、対話的で深い学び」
小林和雄（福井大学大学院教育学研究科准教授）
- 15:20 休憩
- 15:30 パネルディスカッション「初等教育と芸術思考の可能性を考える」
パネリスト＝片上義則、小林和雄、深井聡一郎（東北芸術工科大学芸術学部准教授）、
庄司博幸（株式会社サードステージエデュケーション代表取締役）、
渡邊斉（中山町立長崎小学校 校長）、池野吉洋（山形市立第六中学校教諭）
司会＝有賀三夏（創造性開発研究センター講師・研究員）
- 16:30 質疑応答
- 16:50 閉会挨拶

関連プログラム

ワークショップのタネ実践講習会

2017.9.9(土) 11:00-12:00 参加無料・申込不要

会場：東北芸術工科大学 本館
対象：小学校・中学校教員または教育関係者 ＊お子様を対象としたワークショップではございません

2016年度報告書「ワークショップのタネ」でご紹介している、本研究センターが開発した小中学生向けワークショップの実践講習会を開催します。発案者が、ワークショップのポイントや進め方などを解説しながら実際に体験する講習会です。複数体験いただけますので、お気軽にご参加ください。

●講師プロフィール

澁江学美／山形県教育庁義務教育課長。県内中学校英語教諭。平成9年より、山形県教育庁最上教育事務所指導主事、山形県教育庁義務教育課指導主事、管理主事。平成20年より中学校教頭、小学校校長。平成26年より山形県教育庁義務教育課特別支援教育室長、28年より現職。

小林和雄／福井大学大学院教育学研究科准教授。茨城県公立の中学校に24年、小学校に3年間勤務。2005年ハーバード大学教育大学院のMI理論に基づくプロジェクトゼロ「深い理解のための教育」(Teaching for Understanding)に参加。主体的・対話的で深い学びを追究し現在に至る。小中学校を中心に年間約30以上の授業研究会や教育講演会の講師を務める。

東北芸術工科大学
創造性開発研究センター
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5
TEL 023-627-2218
FAX 023-627-2081
E-mail y-gakusha@aga.tuad.ac.jp
URL <http://sozo.tuad.ac.jp/>
お問合せ：伊藤壮志、伊藤迪子



主体的・対話的で
深い学び

学びの改革 334プロジェクト

探究型学習 研究大会

2017.10.21^土 - 22^日

東北芸術工科大学

対 象 中学・高等学校教員、教育・NPO・自治体関係者

定 員 120名 **無料／事前申込制** ※定員になり次第締め切らせていただきます

主催／東北芸術工科大学 創造性開発研究センター 後援／山形県教育委員会、山形市教育委員会

東北芸術工科大学では、新学習指導要領の導入に合わせ、高大接続改革、探究型学習に関する全国大会「学びの改革 334 プロジェクト 探究型学習研究大会」を開催する運びとなりました。

現在、中学校・高等学校の教育現場では、平成 28 年 3 月に文部科学省の高大接続システム改革会議が公表した「最終報告」における子どもたちが身に付けるべき 3 つの要素に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の導入が加速しています。この中、「特定の分野に絞らず、広く社会の中から課題を発見するための指導方法」に戸惑う教育現場からの声が増えています。

本研究大会は、全国の教員・NPO・行政職員らが垣根を越えて一堂に会し、定期的にそれぞれが抱える現状と課題を共有するとともに、上記を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」における「気づき」「解決方法」のみならず、これらの新しい学びの「本質」を考える機会とします。

「新しい学び」が育てる
“AIに代えられない人間”とは

同時開催

「デザセン 2017 決勝大会」 <http://www.tuad.ac.jp/dezasen>

2017.10.22^日 12:30 - 17:00 (開場 12:00) ※途中入退場可

東北芸術工科大学 本館 201 講義室 **どなたでも観戦可／申込不要／無料**

今年で 24 回目を迎える全国高等学校デザイン選手権大会（通称：デザセン）は、社会や暮らしのなかから課題を発見し、その解決策を分かりやすくまとめ表現する高校生のデザインの全国大会です。本大会では、応募のあった 1113 チームから、一次・二次審査を突破した 10 チームが、自らのアイデアを、映像や模型を用いてプレゼンテーションし、優勝（文部科学大臣賞）以下を決定します。探究型学習によって「何ができるようになったか」、それぞれの学びの成果をぜひ観戦ください。

※学びの改革 334 プロジェクトとは

東北芸術工科大学が主宰する中高大連携プロジェクトです。時代によって変化していく教育のあり方について、三者協働により課題共有と解決を目指す研究会を毎年開催しています。



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN



文部科学省私立大学戦略的
研究基盤形成支援事業

『生きる力を育む芸術・
デザイン思考による
創造性開発拠点の形成』

学びの改革 334プロジェクト 探究型学習研究大会

日時：2017.10.21(土) 12:30 - 18:00 (交流会 19:00-) / 10.22(日) 10:00 - 11:15 (デザセン観戦 12:30-)

会場：東北芸術工科大学 本館 407 講義室 定員：120名 (事前申込制 / 参加無料 / 交流会のみ会員制)

プログラム

【1日目】

11:30 開場

12:30 開会挨拶

12:40 特別講演「AI時代における社会に求められる人材の育成～高校教育の視点から～」
文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室 室長 白井 俊

13:55 基調講演「“主体的・対話的で深い学び”って何？生きた学びが生み出す真の価値」
認定 NPO 法人カタリバ 代表理事 今村 久美

14:45 連続講義①「東桜学館 未来創造プロジェクト」事例発表

山形県立東桜学館中学校・高等学校 校長 官 宏
山形県教育庁高校教育課高校改革推進室 室長補佐 伊藤 久敏
山形県立東桜学館中学校 教諭 安達 納
東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科教授 柚木 泰彦

15:30 連続講義②「デザセン優勝・準優勝校」トークセッション

香川県立高松東高等学校 教諭 西澤 智子
2016年大会優勝「センカツ」指導教諭 ※高松工芸高等学校
神戸市立科学技術高等学校 教諭 水野 里奈
2016年大会準優勝「味来缶」指導教諭
進行＝東北芸術工科大学基盤教育研究センター 准教授 吉田 卓哉

16:40 グループ別事例発表意見交換

グループ 1 / 総合的な学習の時間を活用した探究型学習の実践事例
発表者 山形県立新庄北高等学校 教頭 山宮 守
グループ 2 / 地域と連携した探究型学習の実践事例
発表者 山形県立東桜学館中学校 教諭 木村 聡子
グループ 3 / 職業教育を視点とした探究型学習の実践事例
発表者 埼玉県立新座総合技術高等学校 教諭 青木 邦真
グループ 4 / デザセンを活用した探究型学習の実践事例
発表者 山形県立山形西高等学校 教諭 武田 秀幸

19:00 情報交換会・交流会 山形国際ホテル(会費:2,000円/事前申込制)

【2日目】

9:00 開場

10:00 特別講演「学校と地域がつくる学びのしくみとキャリア教育への繋がり」
静岡県教育委員会高校教育課 教育主幹 眺野 大輔

11:00 閉会式

12:30 第24回 全国高等学校デザイン選手権決勝大会(自由観戦)

申込み方法 <http://www.tuad.ac.jp/334project>

申込フォームより必要事項を記入の上お申し込みください。

申込め切：2017年10月16日(月)

※定員になり次第締め切らせていただきます。

※いずれか1日の参加も可能です



アクセス

JR 山形駅 東口バスプール 5 番乗り場から「東北芸術工科大学前ゆき」約 20 分

※土日はバスの本数が少なくなります。

東北芸術工科大学 〒990-9530 山形県山形市上桜田 3-4-5

TEL: 023-627-2218 FAX: 023-627-2081 E-mail: y-gakusha@aga.tuad.ac.jp

お問合せ：地域連携推進課(担当：伊藤迪子、樋口雅子) 受付：平日 9:00 - 17:00

講師プロフィール



白井 俊 / 文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室 室長 / 東京大学法学部卒 Columbia Law School 修士課程修了 / 平成 12 年旧文部省入省 / 平成 19 年生涯学習政策局政策課専門調査官 / 平成 21 年 徳島県教育委員会(学校政策課長、教職員課長、教育総務課長) / 平成 24 年 高等教育局大学振興課課長補佐 / 平成 27 年 Analyst, Organisation for Economic Cooperation and Development(OECD) / 平成 29 年 初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長(現職)



今村 久美 / 認定 NPO 法人カタリバ代表理事 / 1979 年生まれ。慶應義塾大学卒。2001 年に NPO カタリバを設立し、高校生のためのキャリア学習プログラム「カタリ場」を開始。2011 年の東日本大震災以降は被災した子どもたちに学びの場と居場所を提供する「コラボ・スクール」を運営するなど、社会の変化に応じてさまざまな教育活動に取り組む。「ナナメの関係」と「本音の対話」を軸に、思春期世代の「学びの意欲」を引き出し、大学生など若者の参画機会の創出に力を入れる。ハタチ基金 代表理事。2015 年より文部科学省中央教育審議会 教育課程企画特別部会委員。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 文化・教育委員会委員。



眺野 大輔 / 静岡県教育委員会高校教育課教育主幹(前富士市教育委員会富士市立高等学校教育推進室指導主事) / 静岡県立高校の教員として、平成 7 年度に採用され、特別支援学校と高校で 14 年間数学教員として勤務。その後、平成 21 年度より富士市教育委員会の指導主事として、富士市立高校の探究学習・地域連携・キャリア教育を柱とした学校改革に携わり、地域課題解決学習やキャリア教育のプログラムを富士市役所や地域の企業・団体等と協働で開発。その後、学校と地域をつなぐコーディネータとしてカリキュラムの充実に努めた。平成 28 年度より現職。

マップ

